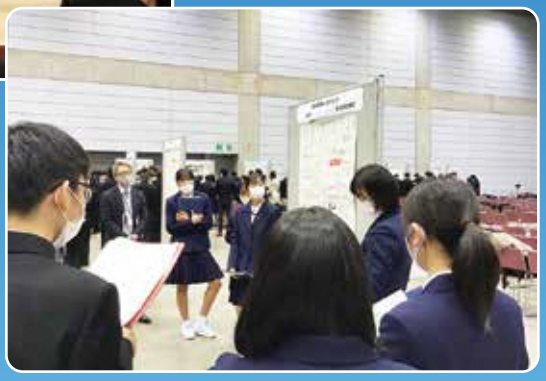
令和元年度（平成３１）指定

「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」

（地域魅力化型）

研究開発実施報告書

第2年次



令和3年3月

島根県立松江東高等学校

松江東高等学校グランドデザイン

ver2020

教育方針

高い知性と、すぐれた人格を備え、心身ともに健全で、人間性豊かな人材の育成をめざす

目指す学校像

生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校

【教員の思い】
～東高生につけさせたい力～
学　力：学ぶ力・学んだ力、意欲・たくましさ
社会力：社会性、コミュニケーション力、国際性
人間力：自尊心・思いやり、人権意識・生命の尊重

育てたい生徒像

・自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒
・持続可能な社会を創造する地域共創人

【地域・保護者の思い】
生徒の目指す進路希望の実現
郷土・地域・人を愛する生徒の育成
地域社会の活性化

教職員研修
授業評価
公開授業週間

広報活動
ホームページ
EAST　NEWS

魅力化コンソーシアム
学校評議員
学校評価

令和2年度教育目標（3つの力）

人とつながって生きる力
（高まっていく人間力）

自己の未来を切り拓いていく力
（向かっていく学力）

地域社会の今と未来に関わる力
（広がっていく社会力）

多文化協働力
主体的学習者としての力
探究的学習力
社会的自立力
地域共創力

「3つの力」を育てる豊かな学び（重点目標・具体策）

自他の人権を尊重し、互いが高め合う切磋琢磨の推奨

自ら学びを取りに行く生徒を育てる

地域社会への貢献意識を向上させ、地域に信頼される学校づくり

生徒に柔らかく丁寧に向き合い生徒が安心して学べる集団づくり
人権・同和教育の推進
あいさつの励行
ふるまいの向上

主体的・対話的で深い学び
全教職員で授業改善
地域課題解決型学習
家庭学習時間の確保
ETC・学力テスト・模擬試験土曜講座

地域社会に貢献
「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」による地域共創人の育成
魅力化コンソーシアムの運営
（島根大学、地域などとの連携）

様々な活動で主体的に活動
生徒会の活動の充実
部活動で全国レベルの実績を目指す
校外の活動への積極的な参加

キャリア教育の推進
島根大学・企業などとの連携
東京研修旅行
キャリアパスポート

積極的な情報発信
ホームページ
学校だより「EAST NEWS」
進路ジャーナルなど

「師弟同行」

教職員と生徒がいっしょになって新たな伝統を創っていきます

「自立へ　の　道程（みち）」

「地域共創人」を育成します。

文部科学省
「地域との協働による高等学校
教育改革推進事業（地域魅力型）」

島根大学と島根県教委との
高大連携に関する協定による
パイロットモデル校

×

島根県教委
高校魅力化コンソーシアム
先導モデル創出事業（都市型）

H29～H30
島根県教委
教育課程実践モデル事業

4つの事業を掛け合わせて、魅力化・特色化を図っていきます。

東高特色化のアウトライン

■「主体的・対話的で深い学び」を全教科・科目で実践

■島根大学や地域との連携を強化

➡島根大学や各商工団体と探究プログラム開発
留学生や松江市の国際交流員との交流活動プログラムの開発

■地域課題探求学習による実践的な学びを実施

➡「地域共創人育成Project」始動

■多様な選択教科を開設

（Society5.0で生き抜く力を養成する教育を展開）

➡文理融合型科目「EASTプログラミング基礎」、「データサイエンス」

東高では「地域共創人」とは「松江市をフィールドとした学びや経験を活かして、地域社会の未来に向けて挑戦し、他者と協働して新たな価値を創造しながら、自己実現を図る人」、このように定めました。

東高生につけさせたい力

①主体的学習者としての力

②探究的学習力

③社会的自立力（ｷｬﾘｱ形成力）

④地域共創力（価値創造力）

⑤多文化協働力

研究開発構想名

中核市発　持続可能な地域社会を創造する「地域共創人」の育成

松江東高等学校のめざす学校像と教育目標

目指す学校像　生徒の持つ可能性の拡充に、師弟同行で挑戦する学校
育てたい生徒像　「自分らしいライフデザインの実現をめざす生徒」「持続可能な社会を創造する地域共創人」
教育目標　①人とつながって生きる力　②自己の未来を切り拓いていく力　③地域社会の今と未来に関わる力

「地域共創人」とは？

①中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来に向けて挑戦する人
②地域のなかで生成された多様な価値〈ひと・しごと・こと（歴史・文化・自然）〉を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら、自己実現を図る人

地域共創人育成を通じた期待効果

大学や地域との連携強化　→　地域の企業や保護者の意識改革　/　しまね（まつえ）マインドの形成　→　人材の定着や環流、関係人口の増加

「地域共創人」育成に必要な力（育成目標や観点）と実現のための教育プログラム　（★で示しているものが教育プログラム）

①主体的学習者としての力　→　学力、思考力、語学力、主体性
　★「教育課程実践モデル事業」の継承
②探究的学習力　→　探究心、課題解決能力、分析力、情報処理力、サイエンス活用力
　★総合的な探究の時間の「地域共創人育成Project」
③社会的自立力（キャリア形成力）　→　コミュニケーション能力、人間関係構築力
　★東京研修、社会人講話、企業訪問
④地域共創力（価値想像力）　→　地域への好奇心、価値を見つけ出す感性と力、創造力、起業家精神
　★課題解決型学習、ボランティア活動
⑤多文化協働力　→　自他文化の受容力、語学力
　★設定科目「EAST国際交流」等の検討、近隣の学校・施設との交流

研究開発のしかけ

1年次　地域に関心を持つ、地域の価値を知る

2年次　地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する

3年次　地域の中から新しい価値を創造する

評価方法

アンケート / EASTポートフォリオの活用 / ルーブリック評価

新たな取組

・カリキュラム開発　→　文系選択者への理系的資質・能力の育成
　「地域共創コース」の検討
　設定科目「データサイエンス」、Ruby講座
・クラウドファンディング　→　学校魅力化財源の確保の研究
・松江市とタイアップした「中核市高校魅力化シンポジウム」の開催
・キャリアパスポートの導入
・課外活動の強化　→　ボランティア活動等

管理機関の支援

（島根県教育委員会）
・高校魅力化コンソーシアム
　先導モデル創出事業
・島根大学との高大連携協定

松江東高校魅力化コンソーシアム

・魅力化戦略ワーキンググループ
・教育プログラム開発ワーキンググループ
・カリキュラム開発等専門家
・地域協働学習実施支援員

共創する人々

・島根大学等との連携
・企業や自治体関係者との連携
・地域住民との連携
・卒業生（会）との連携
・近隣の学校や施設との連携
・保護者（PTA）との連携

東高生につけさせたい力　ルーブリック表

地域共創人とは
「**夢**に向かって**挑戦**する人」
「**地域社会の未来**に向けて**挑戦**する人」
「他者と**協働**して**新たな価値を創造**する人」

教育目標（3つの力の育成）	「地域共創人」としてつけさせたい5つの力		5つの力を構成する要素	具体的な生徒の姿	Lv.1（ほとんどできなかった）	Lv.2（少しだけできた）	Lv.3（わりとできた）	Lv.4（かなりできた）
人間力	多文化協働力（核となる要素①②⑥）		①自分を知る力	**自身の個性を理解し、自己の在り方を考えられる。**	自らの強みや弱みを認識できていない。	自らの強みまたは弱みを認識してはいるが、それを踏まえた行動をしていない。	自らの強みや弱みを認識しており、苦手なことは他者に頼ることができる。	自らの強みや弱みを認識した上で、目標を達成するためにどのような努力をすればよいか分かっている。
			②他者を受け入れる力	**他者の発言や考え方を理解し、尊重したり、受容したりすることができる。**	自分とは異なる考え方や価値観をもつ人の意見は理解できない。	自分とは異なる考え方や価値観をもつ人の意見を理解できるが、受け入れることはできない。	自分とは異なる考え方や価値観の違いを理解し、受け入れることができる。	自分とは異なる考え方や価値観の違いを受け入れ、自分や他者の考え方をバージョンアップすることができる。
学力	主体的学習者としての力（核となる要素③④）		③主体的に行動する力	**自ら進んで行動できる。**	指示されたことをやり抜くことができない。	指示されたとおりに行動することができる。	指示された内容に加えて、自分なりの工夫を加えて行動できる。	自らやるべきことを見つけ、進んで行動することができる。
			④諦めず追究する力	**物事の意義・本質を納得がいくまで探ることができる。**	社会や自分の身の回りのことに対して興味や関心を持つことがない。	社会や自分の身の回りのことに対して興味や関心を持つことはある。	自分の興味・関心に対して、１つの情報源をもとに考察できる。	自分の興味･関心に対して、複数の情報源から多面的に考察できる。
	探究的学習力（核となる要素④⑤）		⑤論理的に考える力	**因果関係を考えることができる。**	要因と目の前の結果・結論を結びつけることができない。	要因と目の前の結果・結論を結びつけることができる。	要因からこれから起こる結果・結論を予測することができる。	様々な要因から根拠に基づいてこれから起こる結果・結論を予測することができる。
社会力	地域共創力（価値創造力）（核となる要素⑥⑦）		⑥伝える力	**自分の思いや考えを相手に伝わるように表現することができる。**	身近な人（家族や親しい友人）であっても自分の考えを伝えることは苦手だ。	身近な人であれば、自分の考えを伝えることができる。	同世代であれば、自分の考えを伝えることができる。	世代や性別等を超えて、自分の考えを伝えることができる。
			⑦地域と関わる力	**居住または生活している地域のために行動することができる。**	地域に対して何かを働きかけたいと思うことはない。	地域に対して何かを働きかけたいと思うが、何をして良いかわからない。	地域に対して何かを働きかけたいと思い、地域の活動に参加することがある。	地域の魅力や課題を知っており、地域の発展のために何らかの活動に参加している。
	社会的自立力（ｷｬﾘｱ形成力）（柱となる要素①⑧）		⑧自分の生き方を考える力	**将来どのような人生を歩み、どう生きていきたいかを考えることができる。**	将来のことを全く考えていない。	将来のことを漠然と考えており、なりたい姿や就きたい職業は決まっていない。	どのような人生を歩みたいか考え中で、将来のありたい姿に向けたステップを考えている。	どのような人生を歩みたいか人生設計が描けており、そのために今やるべきことを実行できている。

巻　頭　言

島根県立松江東高等学校
校　長　野　々　村　　卓

文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力型）」に取り組み、今年度が2年目となります。今回の報告書は、令和2年度の成果を記したものです。

今、中央教育審議会では普通科高校改革が議論され、答申も出されました。普通科の学校がそれぞれお互いに違いを明らかにして、学校の魅力化・特色化を図るべき時代となりました。

私は、本校を「地域社会に関する学びを深める学校」にしたいと考えています。また、文部科学省や島根県教育委員会は、各高校にグランドデザインを策定するよう求めています。本校では、「育てたい生徒像」をグラジュエーション・ポリシーと考え、生徒たちが「自分らしいライフデザインの実現を目指す生徒」「持続可能な社会を創造する地域共創人」になってもらいたいと考えています。「地域共創人」とは、地域社会の未来に向けて挑戦し、他者と協働して新たな価値を創造して自己実現を図る人であると考えています。本校では、「地域共創人」に必要な力（「東高生に身につけさせたい力）として、次の5つの力を育成したいと考えています。5つの力とは、「①主体的学習者としての力、②探究的学習力、③社会的自立力(キャリア形成力)、④地域共創力(価値創造力)、⑤多文化協働力」です。この5つの力を身につける教育課程（カリキュラム）を、地域にある大学や企業や自治体の人たちと協働で構築し、実践しています。また、この力のルーブリック表をつくり、今年度から始まったキャリアパスポート事業に活用しています。

2年目の今年はコロナウィルス感染症による臨時休業により様々な計画が遅れ、この事業の最も中心となる課題探究学習「MATSUE探究」の開始も7月となり、1，2年生とも短期間での地域との協働による学習となりました。しかし、2年生は1年次に身につけたスキルを使って40班がそれぞれ地域の企業や公民館の課題解決に挑戦しました。1年生は「withコロナにおける社会問題を探究する」というテーマで様々な分野の課題解決に3月まで取り組みました。そのほか新しい取り組みである学校設定科目の「データサイエンス」や「EAST国際交流基礎」の授業を開始し、その授業では生徒達は主体的に新しい学びに取り組んでいます。また、課題探究学習で企業の大人と出会うだけでなく、大学生や大人と出会う機会を増やし、生徒が自分の将来を考える機会を増やしました。

本校ではこのような教育を進める体制としてコンソーシアムを昨年度つくり、その運営については、役員会と、その下に3つのワーキンググループ（魅力化戦略WG、教育プログラム開発WG、東高カフェWG）が、存在します。それぞれのWGが本校の様々な教員と協働体制をつくり、地域の皆さんの意見を本校の教育に生かすことが可能となっています。

また、この事業を推進することで生徒たちが確かな「しまね（まつえ）マインド」を持つことにもつながり、高校卒業者の多くが就職や進学で県外に転出するなど若者の県外流出が進んでいる島根県にあって、人材の定着、人材の環流及び関係人口の増加にもつながると考えています。

最後になりましたが、本事業に多大なご支援をいただいています島根大学、松江市役所、島根県中小企業家同友会、松江商工会議所の皆様、さらにはご支援いただいた文部科学省、島根県教育委員会の方々に心よりお礼申し上げます。

今後ともよろしくお願いします。

目　　次

ページ

第１章　研究開発の概要

1　目的・目標 …… 1

2　現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果 …… 2

(1)　現状分析

(2)　研究開発の仮説及び期待される効果

3　具体的内容 …… 3

(1)　地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

(2)　カリキュラム・マネジメントの推進体制

(3)　必要となる教育課程の特例等

(4)　その他特記事項

4　具体的指標 …… 4

(1)　地域人材を育成する高校としての活動指標

(2)　普及活動

(3)　その他本構想における取組の具体的指標

第２章　研究開発の内容

1　実施体制 …… 5

(1)　管理機関の取組・支援について

(2)　コンソーシアム構築について

(3)　カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について

(4)　校内組織について

(5) 運営指導委員会について

2　研究開発の実績 ……18

(1)　Ⅰ「地域共創人育成 project」カリキュラム開発

(2)　Ⅱ文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究

(3)　Ⅲ教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究

(4)　Ⅳ教育を核とした多文化協働・地域共創研究

(5)　Ⅴ持続可能な学校魅力化事業研究

(6)　Ⅵ単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究

(7)　類型毎の趣旨に応じた取組

第３章　普及活動　ページ
1　島根県教育委員会による研修会 ……36
(1)　高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（第 2 回研修会）
(2)　高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（第 3 回研修会）
(3)　探究学習推進担当者研修
2　総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ、Ⅱ」の公開 ……40
(1)　1 年生総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ」の公開
(2)　2 年生総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅱ」の公開
3　その他広報活動 ……41
(1)　学校訪問
(2)　教職員研修会の公開
(3)　その他

第４章　研究開発の効果とその評価及び事業終了後を見据えた取組
1　目標の進捗状況、成果、評価 ……43
(1)　研究開発の成果目標、活動指標
(2)　キャリア・パスポートによる評価
2　教職員の資質向上 ……46
(1)　授業改善のための公開授業・研修
(2)　魅力化に関する教職員研修会
(3)　魅力化に関する教職員アンケート
3　持続可能な学校魅力化事業研究及び今後の課題 ……55
(1)　令和 3 年度以降の持続可能なコンソーシアムの構築について
(2)　指導上の課題

【関係資料】
・コンソーシアム規約
・教育課程表
・課題研究テーマ一覧
・高校魅力化評価システム診断結果チェックシートによる評価
（三菱 UFJ コンサルティング＆リサーチ）

第１章　研究開発の概要

<table>
<tr><td rowspan="2">対象学科
生徒数</td><td colspan="2">普通科(R2.5.1 現在)</td><td colspan="2">2 年</td><td colspan="2">3 年</td><td colspan="2">計</td><td colspan="8" rowspan="2">学校全体の規模
1 年 5 クラス
2 年 5 クラス
3 年 6 クラス</td></tr>
<tr><td colspan="2">1 年</td><td colspan="2">201 名</td><td colspan="2">183 名</td><td colspan="2">223 名</td><td colspan="2">607 名</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教職員数</td><td>校長</td><td>教頭</td><td>事務長</td><td>主幹教諭</td><td>教諭</td><td>養護教諭</td><td>常勤講師</td><td>非常勤講師</td><td>実習助手</td><td>ALT</td><td>事務職員</td><td>学校司書</td><td>その他職員</td><td>計</td></tr>
<tr><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>37</td><td>1</td><td>4</td><td>13</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td><td>7</td><td>72</td></tr>
<tr><td>研究開発構想名</td><td colspan="14">中核市発　持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成</td></tr>
<tr><td>研究開発の概要</td><td colspan="14">大学や地域の企業等との連携強化に取り組みながら、地域の未来を共に創っていく「地域共創人」を育成する。確かなしまね（まつえ）マインドを持たせることで松江地域の人材の定着、人材の環流につなげる。
高校魅力化の先進県である島根県が培ってきたノウハウを活かし、全国の中核市のモデルケースとなることを目指す。</td></tr>
</table>

１　目的・目標

本校が核となる「松江東高校地域共創人コンソーシアム」が目指す地域人材像は、「中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら地域社会の未来に向けて挑戦する人」であり、同時に「地域のなかで生成された多様な価値＜ひと・しごと・こと（歴史・文化・自然）＞を探究するなかで、知的好奇心を高め、新たな価値を協働して創造しながら自己実現を図る人」である。

これを「地域共創人」と定義した本校は、次の 6 点を目標に、それに必要な力と位置づけている「主体的学習者としての力」、「探究的学習力」、「社会的自立力（キャリア形成力）」、「地域共創力（価値創造力）」、「多文化協働力」を身につける教育環境を３年間で構築する。

1　卒業時に、入学時と比べて地域への興味・関心や愛着を持つ生徒が増加するとともに、実際の地域課題を自ら設定して取り組む生徒が増え、課題が解決された事例や解決策の事例が複数存在する。

2　卒業時に、入学時と比べて自分や地域社会の未来のビジョンを具体的に創造し、それを周囲に伝達できる生徒が増加する。

3　事業終了時に、高大連携をすすめている島根大学との協働の機会が増大し、あわせて入学希望者も増加する。

4　事業終了時に、島根大学以外の共創する人々との協働の機会が増大し、あわせて卒業時の地元就職率・進学率が増加する。

5　事業終了時に持続可能な事業モデルとして、校内・地域に浸透し、事業が継続される。

6　事業終了時に魅力的な事業モデルとして紹介され、中核市をはじめとした中規模都市に事例が導入される。

2　現状分析と研究開発の仮説及び期待される効果

(1)　現状分析

本校は島根県で中核市となった県庁所在地でもある松江市に立地する。中核市である松江市の利点は、都市の機能が身近に感じられるスケールの中でまとまっていることである。松江市の経済は伝統産業から地元資本の中小企業、さらには都市資本の大企業の支社・工場まで活動しており、第一次産業から第三次産業までのあらゆる産業で成り立っている。つまり地方であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するのが松江市という中核市のスケールメリットである。松江市という地域のなかで生成された多様な価値を探求しつつ、地域課題の解決に挑み、知的好奇心を高めていくことは新たな価値を協働して、創造していこうとする素養を養うことにつながると考える。

現在の社会においては、モノ・カネを有効に活用するための知識や情報が各分野において共有されず分野横断的な連携が不十分であり、その活用はヒト、つまり各個人の資質・能力に任されてきた面が大きい。また、各分野の主体（企業等）が定めた目標にしたがって与えられたことを各個人がこなす中で、各個人は他者評価（社会や企業等による評価）により自己実現の尺度を求めてきた部分も大きい。他者評価であるがゆえに、価値が高いものが多く集中する都会地を地方出身者はめざしてきた。しかし、Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全てのヒトとモノがつながり様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで今ある課題や困難、例えば少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差、人材不足が克服されていく社会である。人工知能（AI）により必要な情報が必要な時に提供されるようになり課題や困難が克服されていく社会である。その社会において大事なことは、各個人が主体的に様々な分野の物事に関わりながら分野を超えて、様々な知識や情報を横断的に共有するもの人々がチームとして協働し、新たな価値を創造していくことである。そしてその中で各個人が見出した価値に基づいて自己実現の判断ができるようになることである。

人口減少問題が課題となる中、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとても大きなものとなっている。島根県教育委員会は、生徒一人一人に地域社会の未来を切り拓く資質・能力を育むために本校を含めたすべての県立高等学校に対して「高校魅力化コンソーシアム」の設立等、高校魅力化を求めている。

本校は島根県教育委員会の「教育課程実践モデル事業」の指定を受け、２年間授業改善等を進めてきた。しかし、

①「主体的・対話的で深い学び」がまだ不足している。

②総合的な学習の時間の活動が調べ学習にとどまっている面がある。

③地域社会との関わりが少ない。

④体系的なキャリア教育が実施されていない。

⑤Society5.0 の到来を意識した学習が不足している。

といった点にまだ課題が残っている。

(2)　研究開発の仮説及び期待される効果

本校は島根県教育委員会より、「島根大学や地域との連携を強化して地域課題解決型学習による実践的な学びを実施するとともに、多様な選択教科を開設できる単位制普通高校として、Sciety5.0 で生き抜く力を養成する教育を展開する」学校となることを求められている（島根県教育委員会『県立学校魅力化ビジョン』平成 31 年 2 月）。

一方、人口減少問題を抱える島根県（松江市）では、地域の将来を担う人材の育成は重要な課題となっており、教育に寄せられる期待はとても大きい。

本校が抱える課題や地域が抱える課題を克服するためには、地域課題解決等の探究的な学びを行

う等「社会に開かれた教育課程」の編成が不可欠である。

これを実現するために、産官学の連携をこれまで以上に強化し、松江市、島根大学、松江商工会議所や島根県中小企業家同友会等とともに「松江東高校魅力化コンソーシアム」を構築する。そして、中核市のスケールをフィールドとした学びや経験を活かして、持続可能な地域社会を考えながら、地域社会の未来(Society 5.0)に向けて挑戦する人材を育成するため、カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施支援員の協力を得て、次の 6 つの研究開発を行う。

Ⅰ　「地域共創人」を育成する 3 年間の体系的なカリキュラム研究（地域共創人育成 Project）
Ⅱ　文理融合型の教育を目指す 2 年次からの「地域共創コース」のカリキュラム研究
Ⅲ　県指定で 2 年間実施した教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究
Ⅳ　教育を核とした多文化協働・地域共創研究
Ⅴ　持続可能な学校魅力化事業研究
Ⅵ　単位制普通高校移行や新学習指導要領の内容を見据えた学校の魅力化研究

地方都市であるものの、社会という生態系を構成する要素が過不足なくバランスよく存在するスケールメリットがある松江市をフィールドとした探究的な学びを進めていくことは、「地域共創人」育成の核となる取り組みである。

また、本校が目指す「地域共創人」の育成により、生徒にしまね（まつえ）マインドが形成されれば、松江市への人材の定着や環流、関係人口の増加につながると考える。また、大学や地域との連携が強化される中で本校と協働した企業や保護者の意識が変われば、持続可能な地域社会の実現につながっていくと考える。さらに、県庁所在地でもある松江市が活性化することで、島根県全体の活性化にもつながると考える。

さらに、松江市が抱える課題や問題は全国各地の同規模の都市が抱えており、本事業構想が成功すればそのノウハウを全国に提供することもできる。

3　具体的内容

(1)　地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画

総合的な探究の時間に「地域共創人」を育成する 3 年間の体系的なカリキュラム「地域共創人育成 Project」を開発する。

1 年次には「地域に関心を持つ、地域の価値を知る」、2 年次には「地域とつながり探究する、地域とともに挑戦する」、3 年次には「地域の中から新しい価値を創造する」をテーマに掲げて実施する。成果発表等を通して保護者や地域の関係機関の意識改革を目指す。

(2)　カリキュラム・マネジメントの推進体制

本事業構想の企画・運営を行う「教育プログラム開発ワーキンググループ」と校内組織として新設する「魅力化推進部」を中心にカリキュラム・マネジメントを推進する。「魅力化推進部」は教員 6 名を配置し、本部員に加え、カリキュラム開発等専門家 2 名（高須佳奈氏、熊丸真太郎氏）、地域協働学習実施支援員 2 名（中村怜詞氏、千代西尾祐司氏）、高校魅力化コンソーシアムマネージャー1 名（島根県教育委員会の「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」による配置）で構成する。

(3)　必要となる教育課程の特例等　特になし。

(4) その他特記事項

2017 年度から 2018 年度にかけて島根県教育委員会から「教育課程実践モデル事業」の指定を受けた。大学教授等で構成された運営指導委員会の指導・助言を活かしながら、2 年間授業、評価、カリキュラム設計の改善に取り組んだ成果として全教員がアクティブ・ラーニング型の授業に取り組むような風土が醸成されるとともに、学習成績評価の改善、授業評価アンケートの改善、教育課程の改善等が実現した。

4 具体的指標

(1) 地域人材を育成する高校としての活動指標

総合的な探究の時間「地域共創人育成 Project」の研究授業を年間に 1 年生は 2 回、2 年生は 1 回、3 年生は 1 回（地域共創コースは 2 回）実施する。また、研究開発Ⅲに係る公開研究授業を年 2 回実施する。

事業実施の 3 年間の成果目標

	内容	2019 年度目標	2020 年度目標	2021 年度目標
1	県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数	5	6	7

(2) 普及活動

年に 1 回「研究発表会」を実施する。また、ホームページをリニューアルして取組の成果を広く発信する。

事業実施の３年間の成果目標

	内容	2019 年度目標	2020 年度目標	2021 年度目標
1	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するための研究発表の回数	1	1	2
2	県内外の教育機関等に取り組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数	25	30	35

(3) その他本構想における取組の具体的指標

本事業構想の 3 年間の成果を全国に発信するため、松江市とタイアップして全国の中核市の高校に呼びかけ、2021 年度に「中核市高校魅力化シンポジウム」を開催する。「地域共創コース」の取組を紹介し、松江市と同様の課題を抱える全国の中核市に向けて発信して普及を図る。

第２章　研究開発の内容

１　実施体制

⑴　管理機関の取組・支援について

ア　「高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業」の実施

(ｱ)高校魅力化コンソーシアムの設計・設立・運営業務支援、普及活動及び成果の取りまとめを行う「高校魅力化コンソーシアムマネージャー」を配置

（株）エブリプラン　藤山　楓生　氏

(ｲ)「県立高校魅力化ビジョン」に掲げられている、学校と地域の協働を推進するための「高校魅力化コンソーシアム」構築し、地域協働スクールの実現を図るための研修会を全県立高校対象に実施

高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第１回研修会）（R2.7/28）
1　全体会　講演　株式会社ソフィア代表取締役 廣田　拓也氏 2　分科会　学習継続ワークショップ
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第２回研修会）（R2.11/9）
1　全体会　先導モデル校の取組報告、進捗状況 2　分科会　各校の現状分析の共有、課題に対しての次の一歩
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第３回研修会）（R3.2/22）
1　全体会 (1)　島根県教委 佐藤教育監挨拶 (2)　事前アンケートの全体共有 2　分科会 1　松江東高校 ・教員の変容、教員の自分事、大学連携　・持続可能な体制 2　雲南市(大東高校、三刀屋高校、三刀屋高校掛合分校) ・複数校モデルに対応したプロジェクト型コンソーシアムの在り方 3　津和野高校 ・教育魅力化と地方創生を目指すコンソーシアム財団設立 ・卒業生コミュニティ　・事務局機能の重要性 4　松江農林高校 ・産学連携コンソーシアム(東京バイオと県内企業連携) ・大根島をフィールドにした研究

(ｳ)コンソーシアムを支援する県のスタッフを「伴走者」として配置

コンソーシアムの設置や運営にあたる県側の窓口となり、県の有する権限・予算・施策や人的リソースの活用が有効である場合は担当部署等につなぎ、課題解決に貢献した。

島根県教育庁教育指導課 地域教育推進室　名目良　明利　社会教育指導主事

イ　「教育魅力化人づくり推進事業」の実施

1 事業の趣旨（概要）

これまで中山間地域・離島の高校を中心に取り組んできた高校魅力化プロジェクトの成果を基に、市部も含めた全ての高校が、学校と地域の協働による島根らしい魅力ある高校づくりを推進していくためのもの。生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り開くために必要となる「生きる力」を育むため、高校と地域社会が連携協働して取り組む活動や、そのために必要となる体制整備に必要な経費等について支援する。

2 事業の構成及び内容

1　高校魅力化コンソーシアム運営支援事業

(1) 事業概要及び目的

高校と地域社会が一体となって子供たちを育てる環境を整えるため、教職員、生徒・保護者、市町村、小・中学校、大学、社会教育機関、地元企業、地域住民、民間団体等の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制（以下「高校魅力化コンソーシアム」という。）の構築と運営を支援する。

(2) 事業内容

①高校魅力化コンソーシアム運営費

高校魅力化コンソーシアムの運営(会議、広報等)に係る経費を支援する。

②高校魅力化コンソーシアム運営マネージャー配置費

高校魅力化コンソーシアムの運営等、各種活動に取り組み、高校魅力化コンソーシアムに期待される効果を最大限発揮させる役割を担う高校魅力化コンソーシアム運営マネージャーの配置に係る経費を支援する。なお、雇用形態は直接雇用のほか、業務委託方式も可とする。

2　高校魅力化教育活動推進事業

(1) 事業概要及び目的

地域社会との協働による魅力ある高校づくりを実現するための具体的な取組を支援し、島根の教育をよりよいものに高めていくことで、生徒一人一人に、自らの人生と地域や社会の未来を切り拓くために必要となる「生きる力」を育む。

(2) 事業内容

①地域連携教育活動推進費

魅力ある高校づくりを実現するために、生徒、保護者、教職員、地域住民等による主体的な対話を通じて取り組む、高校や地域の特色に応じた独自の教育活動等を支援する。

②しまね留学推進費

「しまね留学推進校」として実施する以下のいずれかの取組を支援する

ア　県外生徒募集に係る取組

イ　県外生徒と県内出身生徒等の交流事業

③学校・地域創生推進費

地方創生（県内就職率、県内進学率、関係人口化等）に資する、先駆的な要素を含んだ特色ある教育活動等を支援する。

3　多世代対話型交流学習事業

(1) 事業概要及び目的

普段接する機会の少ない世代を越えた住民同士が対話を通じて交流する機会を創出することで、子供たちの郷土愛の醸成や地域貢献意欲の喚起、大人たちの地域づくりに対する意識の向上等を図り、多様な主体が参画する高校魅力化コンソーシアムの構築及び活性化に向けた気運を醸成する。

(2) 事業内容

多世代対話型交流学習事業費

子供から大人までの多世代対話を通して、相互に学び交流する活動に係る経費を支援する。対話及び交流の形態は以下のとおりとする。

①高校生を含む子供と大人の対話と交流

②高校生を含む子供による異世代間の対話と交流

③上記の他事業の趣旨に照らして目的や期待される効果が同等と認められるもの

ウ　高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結

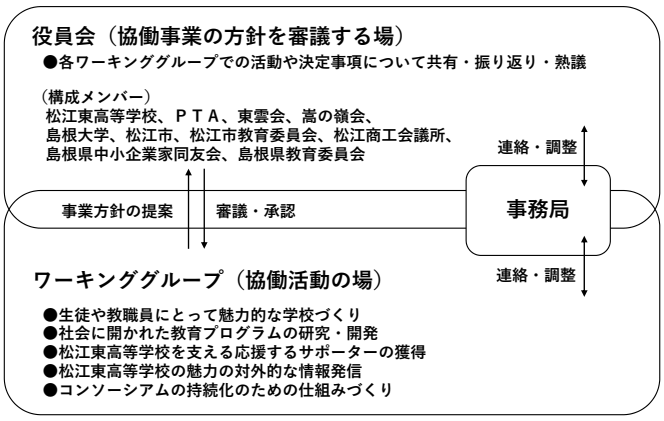
国立大学法人島根大学と島根県教育委員会において、県立高等学校と大学との連携及び協力（高大連携）に関する連携協力協定を平成 31 年 2 月 28 日に締結しており、この協定に基づき本校をパイロットモデル校として設定し、取組を推進した。

(2)　コンソーシアム構築について

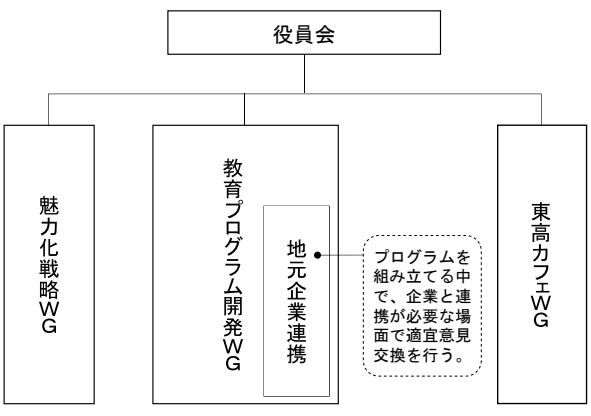
ア　構成団体、概念・体制図

松江東高等学校	松江東高等学校ＰＴＡ	東雲会（松江東高等学校同窓会）
一般財団法人嵩の嶺会	国立大学法人島根大学	松江市、松江市教育委員会
松江商工会議所	島根県中小企業家同友会	島根県教育委員会

コンソーシアム概念図



コンソーシアム体制図



イ　構成員

○役員会

氏名	所属
物部　伸吾	東雲会　会長
野々村　卓	松江東高等学校　校長
杉江　実郎	島根大学　教育・学生支援機構　大学教育センター長
佐目　元昭	松江市役所　政策部次長
太田　強	松江市教育委員会　学校教育課長
竹下　昌宏	松江商工会議所　事務局次長
野津　積	島根県中小企業家同友会　代表理事
宮脇　健	嵩の嶺会　代表理事
大坂　慎也	松江東高校ＰＴＡ　会長
名目良　明利	島根県教育委員会　教育指導課　松江東高校伴走担当

○魅力化戦略ワーキンググループ

氏名	所属
登城　智宏	松江東高校教頭
大坂　慎也	ＰＴＡ
物部　伸吾	東雲会
金見　誠司	東雲会
宮脇　健	嵩の嶺会
泉　雄二郎	島根大学
中村　怜詞	島根大学
高須　佳奈	島根大学
佐目　元昭	松江市
太田　強	松江市教育委員会
岩見　真稔	松江商工会議所
野津　積	中小企業家同友会
金築　理恵	中小企業家同友会
名目良　明利	島根県教育委員会
野々村　卓	松江東高等学校

○教育プログラム開発ワーキンググループ

部門	氏名	所属
全体	手錢　隆志	松江東高校魅力化推進部長
	篠田　巧	松江東高校
1年部	高須　佳奈	島根大学
	千代西尾　祐司	島根大学
	早川　康裕	松江東高校
	足立　樹恍	松江東高校
2年部	中村　怜詞	島根大学
	熊丸　真太郎	島根大学
	南口　哲也	松江東高校
	志儀　俊樹	松江東高校
連携企業	野津　積	中小企業家同友会
	金築　理恵	中小企業家同友会
	佐目　元昭	松江市
	岩見　真稔	松江商工会議所
	物部　伸吾	東雲会会長
	金見　誠司	東雲会
	宮脇　健	嵩の嶺会

○東高カフェワーキンググループ

氏名	所属	氏名	所属
福田　秀孝	松江東高校生徒部長	藤山　楓生	株式会社エブリプラン
前田　祐香	松江東高校	内尾　哲将	松江東高校生徒会
足立　樹恍	松江東高校	山内　ひかり	松江東高校生徒会

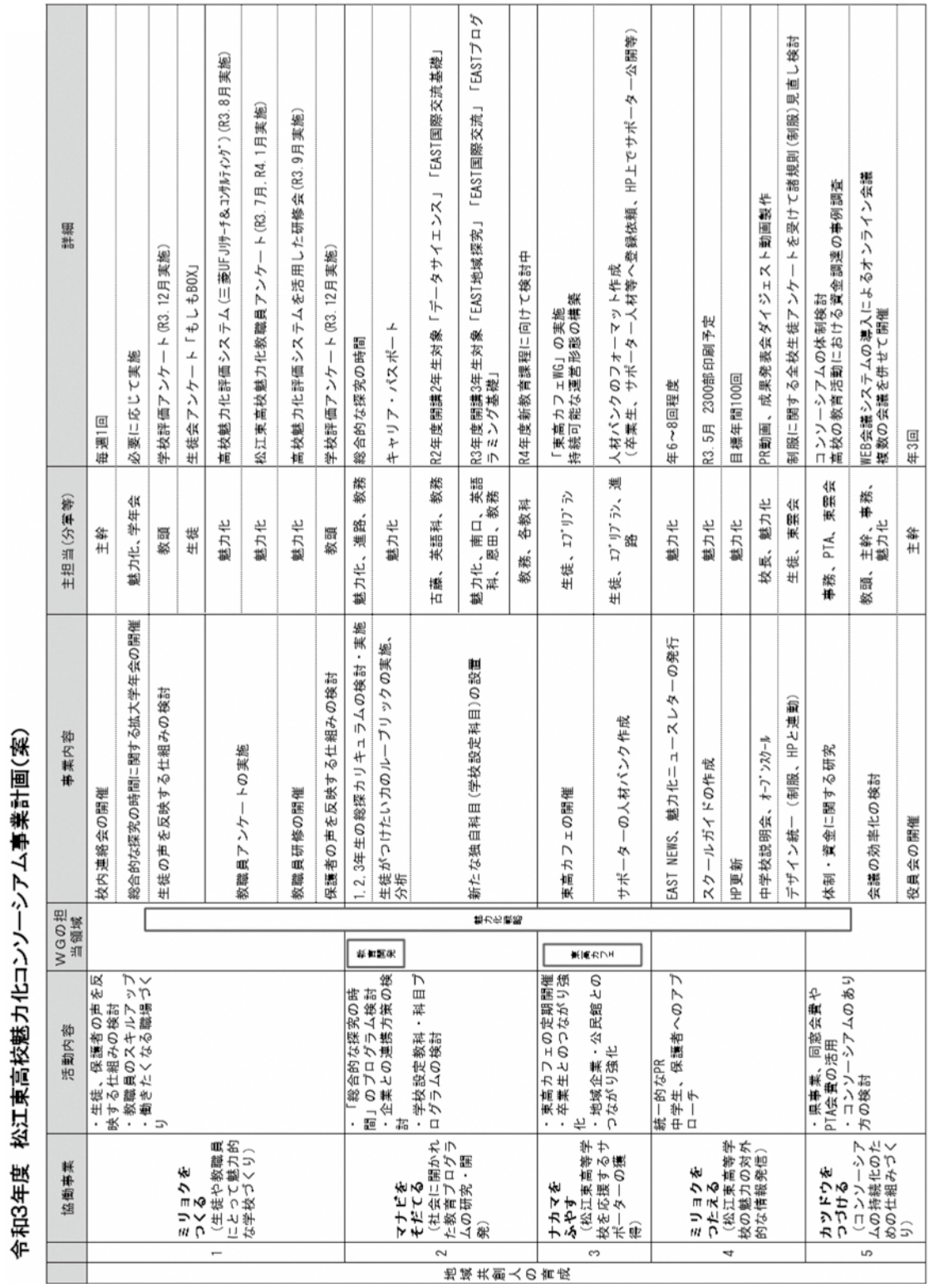
ウ　活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和２年４月１日	第１回教育プログラム開発 WG ・R2 年度「総合的な探究の時間」実施計画詳細
令和２年４月９日	魅力化コンソーシアム先導モデル構築事業キックオフミーティング ・昨年度の振り返り、今年度の取組 ・魅力化戦略 WG の実施について　・推進体制の確立について
令和２年４月 27 日	第２回教育プログラム開発 WG(連携企業) ・１年生「総合的な探究の時間」における企業の関わりについて
令和２年５月８日	第１回役員会 ・役員の委嘱、会長、副会長の選出 ・コンソーシアムの構成　・体制について各内容の協議と決定 ・昨年度の事業報告　　・今年度の事業計画
令和２年７月９日	第３回教育プログラム開発 WG ・１年部会　ゴール設定と実施内容 ・２年部会　企業との関わりと実施内容
令和２年８月４日	第１回プレ東高カフェ ・コロナ禍における学園祭企画について
令和２年８月 26 日	島根県教育委員会との打合せ ・コンソーシアムマネージャーの必要性、役割、機能 ・財源確保の在り方について
令和２年９月 14 日	第２回プレ東高カフェ ・学園祭開催報告　　・意見交換
令和２年 10 月 16 日	第１回魅力化戦略 WG ・育てたい生徒像、今年度の活動報告　・特色化についてワークショップ
令和２年 12 月１日	第１回「東高カフェ」 ・大人の人生曲線、質疑応答　・高校生が伸ばしたい力について
令和２年 12 月８日	「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミット参加 ・「カリキュラムマネジメントの在り方について」
令和２年 12 月 11 日	第２回役員会 ・「東高カフェ WG」設立について承認　　・今年度の活動報告
令和３年１月６日	第４回教育プログラム開発 WG ・R3 年度 1,2 年生総合的な学習の時間プログラム協議
令和３年２月４日	第２回魅力化戦略 WG ・R2 年度の活動報告　・第１回魅力化戦略 WG のフィードバック ・意見交換会
令和３年２月 25 日	第２回「東高カフェ」 ・大人の人生曲線、質疑応答　・中国山地編集舎との懇談
令和３年３月 15 日	第３回役員会兼第２回運営指導委員会 ・１年生探究学習成果発表会視察 ・R2 年度の活動報告　・R2 計画等について　・意見交換会

令和３年３月 24 日	第３回「東高カフェ」 ・大人の人生曲線、質疑応答　・松江市職員との懇談

エ　令和３年度事業計画等（案）

(7) コンソーシアム全体事業計画



	協働事業	活動内容	WGの担当領域	事業内容	主担当(分掌等)	詳細
地域共創人の育成			魅力化戦略	校内連絡会の開催	主幹	毎週1回
				総合的な探究の時間に関する拡大学年会の開催	魅力化、学年会	必要に応じて実施
1	ミリョクをつくる（生徒や教職員にとって魅力的な学校づくり）	・生徒、保護者の声を反映する仕組みの検討 ・教職員のスキルアップ ・働きたくなる職場づくり		生徒の声を反映する仕組みの検討	教頭	学校評価アンケート(R3.12月実施)
					生徒	生徒会アンケート「もしもBOX」
				教職員アンケートの実施	魅力化	高校魅力化評価システム(三菱UFJリサ&コンサルティング)(R3.8月実施)
					魅力化	松江東高校魅力化教職員アンケート(R3.7月.R4.1月実施)
				教職員研修の開催	魅力化	高校魅力化評価システムを活用した研修会(R3.9月実施)
				保護者の声を反映する仕組みの検討	教頭	学校評価アンケート(R3.12月実施)
2	マナビをもだてる（社会に開かれた教育プログラムの研究・開発）	・「総合的な探究の時間」のプログラム検討 ・企業との連携方策の検討 ・学校設定教科・科目プログラムの検討	教育課程研究	1.2.3年生の総探カリキュラムの検討・実施	魅力化、進路、教務	総合的な探究の時間
				生徒がつけたい力のルーブリックの実施、分析	魅力化	キャリア・パスポート
				新たな独自科目（学校設定科目）の設置	古藤、英語科、教務	R2年度開講2年生対象「データサイエンス」「EAST国際交流基礎」
					魅力化、南口、英語科、恩田、教務	R3年度開講3年生対象「EAST地域探究」「EAST国際交流」「EASTプログラミング基礎」
					教務、各教科	R4年度新教育課程に向けて検討中
3	ナカマをふやす（松江東高等学校を応援するサポーターの獲得）	・東高カフェの定期開催 ・卒業生とのつながり強化 ・地域企業・公民館とのつながり強化	東高カフェ	東高カフェの開催	生徒、ｴﾌﾞﾘﾌﾞﾗﾝ	「東高カフェMG」の実施 持続可能な運営形態の構築
				サポーターの人材バンク作成	生徒、ｴﾌﾞﾘﾌﾞﾗﾝ、進路	人材バンクのフォーマット作成 （卒業生、サポーター人材等へ登録依頼、HP上でサポーター一公開等）
4	ミリョクをつたえる（松江東高等学校の魅力の対外的な情報発信）	統一的なPR 中学生、保護者へのアプローチ		EAST NEWS、魅力化ニュースレターの発行	魅力化	年6~8回程度
				スクールガイドの作成	魅力化	R3.5月 2300部印刷予定
				HP更新	魅力化	目標年間100回
				中学校説明会、ｵｰﾌﾟﾝｽｸｰﾙ	校長、魅力化	PR動画、成果発表会ダイジェスト動画製作
				デザイン統一（制服、HPと連動）	生徒、東雲会	制服に関する全校生徒アンケートを受けて諸規則(制服)見直し検討
5	カツドウをつづける（コンソーシアムの持続化のための仕組みづくり）	・県事業、同窓会費やPTA会費の活用 ・コンソーシアムのあり方の検討		体制・資金に関する研究	事務、PTA、東雲会	コンソーシアムの体制検討 高校の教育活動における資金調達の事例調査
				会議の効率化の検討	教頭、主幹、事務、魅力化	WEB会議システムの導入によるオンライン会議 複数の会議を併せて開催
				役員会の開催	主幹	年3回

(ｲ)教育プログラム「地域共創人育成 Project」

令和３年度　総合的な探究の時間「地域共創人育成Project」カリキュラム（案）

目指す生徒像	自分らしいライフデザインを実現を目指す生徒 持続可能な社会を創造する地域共創人
研究開発名	中核市発　持続可能な社会を創造する「地域共創人」の育成

「地域共創人」として生徒に身に付けさせたい力
主体的学習者としての力　探究的学習力　社会的自立力（キャリア形成力）　地域共創力（価値創造力）　多文化協働力

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年生	行事	入学式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験/遠足		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式
							島大学部学科説明会	島大理系学部ゼミ訪問	しまね大交流会	12/9(木)MATSUE探究成果発表会			
	枠組み	チームづくり	①コントロール探究（スキル練習）				②ガイド探究（スキル活用）						
	生徒に付けたい力	多文化協働力	主体的学習力　探究的学習力				多文化協働力　主体的学習力　探究的学習力　地域共創力　キャリア形成力						
		①自分を知る力　②他者を受け入れる力　⑥伝える力	③主体的に行動する力　④諦めず追究する力　⑥伝える力				①自分を知る力　③主体的に行動する力　④諦めず追究する力			②他者を受け入れる力　③主体的に行動する力　④諦めず追究する力　⑤論理的に考える力　⑥伝える力　⑦地域と関わる力			
	詳細	オリエンテーション	東高の魅力を探究する。プロモーション動画作成				学問探究　島根大学の学問を探究する。		松江市の課題を探究する				引継ぎ会
		協調的マインドセット											
2年生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験		期末試験/終業式	始業式	学年末試験	卒業式/高校入試/終業式
								東京研修旅行	しまね大交流会	12/9(木)MATSUE探究成果発表会			
	枠組み	チームづくり	③フリー探究　地域・企業の課題探究（課題発見→探究→検証→成果物作成→発表→FB）								ライフデザイン探究		
	生徒に付けたい力	主体的学習者としての力　探究的学習力　社会的自立力　地域共創力　多文化協働力									主体的学習者としての力　探究的学習力　社会的自立力　地域共創力		
		②他者を受け入れる力　⑤論理的に考える力　⑥伝える力	③主体的に行動する力　④諦めず追究する力　⑤論理的に考える力　⑥伝える力　⑦地域と関わる力				①自分を知る力　②他者を受け入れる力　③主体的に行動する力　④諦めず追究する力　⑤論理的に考える力　⑥伝える力　⑦地域と関わる力　⑧自分の生き方を考える力				①自分を知る力　③主体的に行動する力　④諦めず追究する力　⑤論理的に考える力　⑥伝える力　⑦地域と関わる力　⑧自分の生き方を考える力		
	詳細	アサーショントレーニング	企業選び	企業の課題を深掘り	中間報告	試作品作成		東京研修旅行プレゼン	企業へプレゼン	成果発表会 ⇩ 企業へFB	志望理由	小論文	引継ぎ会
3年生	行事	始業式	中間試験/総体	期末試験	終業式	始業式/学園祭		中間試験総合選抜入試出願	推薦出願	期末試験/終業式	大学入学共通テスト	前期入試	卒業式/後期入試
	枠組み	④フリー探究（個人実践） 選択科目「EAST地域探究」				⇒		(下旬)文科省全国サミット発表	⇒	12/9(木)MATSUE探究成果発表会			
	生徒に付けたい力	主体的学習者としての力　探究的学習力　社会的自立力　地域共創力　多文化協働力											
	詳細				島大生物資源・総合理工ゼミ訪問								

(3) カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員について

ア 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け

カリキュラム開発等専門家

島根大学地域未来協創本部 講師 高須　佳奈（都度依頼し謝礼支払い）月２回程度来校

島根大学教職大学院 准教授 熊丸　真太郎（都度依頼し謝礼支払い）月２回程度来校

地域協働学習実施支援員

島根大学教職大学院　准教授　中村　怜詞（都度依頼し謝礼支払い）月３回程度来校

島根大学教職大学院　教授　千代西尾　祐司（都度依頼し謝礼支払い）月１回程度来校

上記 4 氏ともに「松江東高校魅力化コンソーシアム」の下部組織「教育プログラムワーキンググループ」に属し、「地域共創人育成 Project」のカリキュラム開発を行った。

イ 活動日程・活動内容

カリキュラム開発等専門家

活動日程	活動内容
令和 2 年 4 月 1 日	第 1 回教育プログラム開発 WG ・R2 年度「総合的な探究の時間」実施計画詳細
令和 2 年 7 月 9 日	第 2 回教育プログラム開発 WG ・1 年部会　ゴール設定と実施内容 ・2 年部会　企業との関わりと実施内容
令和 2 年 9 月 14 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 9 月 15 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 6 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 12 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 13 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 16 日	第 1 回魅力化戦略 WG ・育てたい生徒像、今年度の活動報告　・特色化についてワークショップ
令和 2 年 10 月 20 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 26 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 10 月 27 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和 2 年 11 月 2 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて

令和２年 11 月 16 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 11 月 17 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 12 月 14 日	２年生「総合的な学習の時間」成果発表会の指導・助言
令和３年１月６日	第３回教育プログラム開発 WG ・R3 年度 1,2 年生総合的な学習の時間プログラム協議
令和３年２月 22 日	高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第３回研修会） ・本校の教員の変容、教員の自分事化の分析について報告

地域協働学習実施支援員

活動日程	活動内容
令和２年４月１日	第１回教育プログラム開発 WG ・R2 年度「総合的な探究の時間」実施計画詳細
令和２年７月９日	第２回教育プログラム開発 WG ・１年部会　ゴール設定と実施内容 ・２年部会　企業との関わりと実施内容
令和２年７月 14 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年７月 21 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年９月 15 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 10 月６日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 10 月 13 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 10 月 16 日	第１回魅力化戦略 WG ・育てたい生徒像、今年度の活動報告　・特色化についてワークショップ
令和２年 10 月 20 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 10 月 27 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 11 月 10 日	1 年生総合的な探究の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 11 月 24 日	2 年生総合的な学習の時間の内容に関する協議 ・授業の振り返り、生徒の活動と教員の関わりについて
令和２年 12 月 14 日	2 年生「総合的な学習の時間」成果発表会の指導・助言
令和３年１月６日	第３回教育プログラム開発 WG ・R3 年度 1,2 年生総合的な学習の時間プログラム協議
令和３年２月 22 日	高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第３回研修会） ・本校の教員の変容、教員の自分事化の分析について報告

(4) 校内組織について

ア 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム･マネジメントの推進体制

探究的な学びを実現し、魅力化を図るために新たな校務分掌「魅力化推進部」を設置

【メンバー】教員 6 名＋学校司書1 名＋コンソーシアムマネージャー1 名＋会計年度職員1名

①主な業務

・文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」関連

・総合的な学習（探究）の時間の企画・運営　・広報 PR　・ HP 関係　・図書関連

②毎週部会を実施

・R2 年度実績　25 回

イ 学校全体の研究開発体制、進捗管理及び成果の検証・評価等

本事業の進捗状況管理、コンソーシアムに関わる行事等を協議するために、「魅力化校内連絡会」を設置

【メンバー】校長、教頭、事務長、主幹（総務部長）、魅力化推進部長、
教務部長、生徒部長、進路部長、コンソーシアムマネージャー　計 9 名

①主な業務

・「地域との協働による高等学校改革推進事業」の進捗管理

・総合的な学習（探究）の時間プログラム内容、教職員研修会、及び各種関係イベントなど文科省事業に関する事項の協議

・単位制移行に向けた準備

・広報 PR など魅力化に関すること全般

②毎週会を実施

・R2 年度実績 41 回

ウ カリキュラム開発に対するコンソーシアムの取組について

・魅力化推進部を中心に、カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員と協議の上、「地域共創人育成 Project」のプログラムを研究、開発

・コンソーシアム設立時に上述の会を「教育プログラム開発ワーキンググループ」として組織に位置付け、体制を整備した。

エ 教育課程外におけるコンソーシアムの取組

・生徒が地域の大人との接点を作り、多様な生き方を学び、生徒の将来選択の幅を広げる機会「東高カフェ」を企画、運営するために「東高カフェ WG」を設置

【メンバー】生徒部長、生徒会担当教員、OB 教員、コンソーシアムマネージャー
生徒会執行部 2 名　　計 6 名

主な業務

・「東高カフェ」を企画、運営

・企画に参加する地域の大人の選定及び参加生徒の募集

・当日の進行、アンケートまとめ

(5) 運営指導委員会について

ア　運営指導委員会の構成員

松江市副市長　能海　広明
関西大学教育推進部教育開発支援センター　教授　森　朋子
（有）お茶の三幸園代表取締役　大島　正也
（株）アテナ主席研究員　上田　泰子
地域・教育魅力化プラットフォーム共同代表　岩本　悠

イ　活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和 2 年 12 月 23 日	第 1 回運営指導委員会 ・今年度の活動報告及び全体協議 ・新ワーキンググループの設立について ・本校のグランドデザインについて
令和 3 年 3 月 15 日	第 2 回運営指導委員会 ・1 年生探究学習成果発表会視察 ・今年度の活動報告及びＲ３年度計画について

【第 1 回運営指導委員会提言】

（Ａ委員）

・問を立てることが難しく、大学でも自分で学びたいことを見つけることがなかなかできない中で、生徒が「地域」というテーマをもらいながら自分の「why」を探究できるのは、貴重な経験である。
・生徒は人前での発表を通して鍛えられている印象を受けた。一方でアウトプットが綺麗な形に見えすぎている印象を受けた。「子供たちがどれくらい育ったか」という評価にも取り組んでいただきたい。

（Ｂ委員）

・体制面では多くの会議がありそれらが連動しているのは良いが、それらの会を整理・再編成する余地はあるのではないか。会議体の再編成や役割を兼ねるような形を取り、会議数を減らしより実効性の高いものを増やしていくべきではないか。
・グランドデザインに「教育課程の方針」「求める生徒像」をよりはっきりとさせても良い。
・戦略 WG の意見は、これからの時代に即した意見に思える 。すぐには難しいかもしれないが、普通科に新たな学科を加えても良いのではないか 。新たな学科を自由に作れるようになったのでそれを生かし、特徴的な学科を創設しても良いと思う。総合型選抜や海外大学への進学も目指していく。

（Ｃ委員）

・「通学区制がなくなるので学校の特色を出していこう」という経緯で文科省の指定を申請した経緯だったと思う。そうした中で、発表会を見に行ったが、少しずつ成果が出ている気がする。島根大学の「へるん入試」の結果に関しても同様に感じている。全県の中でコンソーシアムの設立については東高が一歩進んでいる。
・松江市では出生数 2000 人、社会増 200 人をめざしているが達成はできていない。若い人、特に女性の定着が進んでいない。東高の取組は、そうした状況を改善する一つの形であると思う。特に東高カフェを通じて、多様な外部の人の話を聞くことは生徒たちにとって非常に重要ことだと思う。

課題研究を通じて、地域に興味を持った生徒が少しでも松江に残ってくれると良い。

（D委員）

・与えられた教育に取り組むだけでなく、自分で課題を見つけるような教育を提供できると良い。こうしたことに取り組むエネルギーのある人材はなかなか育ちづらいが、東高にはこういった人材が集まってくると面白い。

・自分と同様に高校生の時に社会勉強をしていた同級生たちは経営者をしている人も多いが、当時とほとんど考え方は変わっていない。高校生の時に人間形成ができていたと思うと、何が正解かわからない。

（E委員）

・企業が「若者に帰ってきたい、ここで仕事をしたい。」と思わせるようなことが必要だと思う。民間企業への就職という形では、若者が地元に帰りづらくなっているのが現実である。

・通常の普通科に留まらない学科があると魅力的に思える。東高が島根県内でも先んじてこうしたことに取り組まれると意味があると思う。育てたい生徒像は「地域に愛着をもつ」というのはもちろんだが、併せて「広い視野」を持てるようなカリキュラムも検討してもらいたい。今の子供たちは、非常に情報量の多い社会に生きており、その中から興味のあることに取り組めれば力を発揮すると思われる。そういった興味の受け皿を実現できるのであれば、東高としての魅力につながると思われる。

（B委員）

・30年後の理想を一市民として考えた時に、松江で輝いて活躍している人たちに東高出身者が多くなっていると嬉しい。

【第２回運営指導委員会兼第３回役員会提言】

（A委員）

・留学生を交えた交流だが、留学生がコロナで帰国して交流が難しい状況になっている。オンラインを活用してこうした留学生や国外の同世代の学生と交流できるような機会を設けられないか。

（B委員）

・データサイエンスに関してだが、松江市は現在Rubyでのまちづくりに取り組んでいる。こうした取組を通して、同分野における民間の力を実感している。今後は、東高のデータサイエンス系の取組においても民間の力を積極的に取り入れてもらいたい。

（C委員）

・県の事業は、期間が決まっているのか。市として高校魅力化との関わり方を考える中で県の事業がいつまで続くのかという点は把握しておきたいところである。魅力化事業によって地域人材が育つことは、松江市にとっても非常に歓迎するべきことと考えている。

（D委員）

・１年生の発表を見たが、テーマを絞ってよく調べている印象を受けた。生徒の課題解決に向けた取組を先生方がどれくらいサポートできるかが重要な点だと思う。お互いに本気でやっていることが伝わると、東高カラーがより鮮明になると思われる。それを通して、生徒にも「自分たちが地域を変えないと」というような意識も出てくるのではないか。

・今後カリキュラムが変更されるということで、どれだけ生徒の本気に応えてやれるか工夫していただきたい。東高の学びが都会に出てから戻って働きたいという生徒を育て増やしてくれるようなものになれば幸いである。

（E委員）
・生徒が育っていることを感じることができた。特に地域のことを学びたいと思って次のステージに進む生徒が増えたことなどは、成果と感じる。一方で課題もあるのではないかと思う。課題を洗い出して次に向かうことが持続的なコンソーシアム構築に向けて重要な点だと感じる。今回の成果発表や外部の方との連携も繰り返し行うことによって得るものは必ずあると思うので、より深い学びにつなげていただきたい。
・今後の持続的な体制づくりについても、せっかく良い流れができているので検討をしていただきたい。
（F委員）
・役員会に出席した時に毎回思うのが、「自分が何の点でコンソーシアムに協力できるのか」ということである。生徒と話をしたり、実際に社会に出ている側から意見を言うような場を作ってもらえればと感じた。
（G委員）
・１年生の発表は興味深く内容の濃い時間を過ごさせてもらった。エビデンスを基にした発表が東高生らしいと感じた。発表の場でも言ったが、勉強云々ではなく、上手にコミュニケーションが取れる人材が現場では求められている。そういった視点での指導を先生方にはしていただきたい。
（H委員）
・今後は、人づくり・まちづくりという点で市町村も高校と関わっていく必要があると考えている。先日、東高の元生徒会長が市内の生徒会のネットワークを作ろうとしていると聞いた。こういったネットワークがあると非常に心強い。今後県と市町村が一体となって未来を考えていきたいと考えている。
（Ｉ委員）
・本日のポスターセッションで、松江市の職員が17名参加されており、こういう形で授業に参加していただけるのは画期的でありがたいと感じた。いろいろな感想を出していただけたことも生徒にとって刺激になったのではないか。今後は、作り上げる過程においても壁打ち相手として関わっていただくこともあれば良い。発表としては、改善の余地があるが市役所職員の方の話を聞く生徒の眼差しに可能性を感じた。
（Ｊ委員）
・今後に向けた課題ということで3点あり、一つ目が目標を「見える化」してもらえると、会議などで意見を言いやすく、目標に向かっての改善案などは出しやすい。例えば事業計画をみると来年度取り組む項目はわかるが、その項目ごとの目標が見えると検証がしやすく意見を言いやすい。今日の授業に関しても、この授業を通じて生徒にどんな力をつけさせたいかが、「見える化」していると良い。
・二つ目が結果に対しての「振り返り」。ここをしっかりやらないと「なあなあ」で仕事が増えていく一方である。本日の発表も発表をしておわりではなく、生徒が学んだことの振り返りが必要であると思う。これをやらないと質は上がらないと思う。
・三点目は、来年度のところで体制の話は出ていたが、関わる人全員にとって良い形になるように抜本的に変えていっても良いと思う。学校と関わる人がwin-winになるような関係性を目指していければ良いと感じた。
（K委員）
・学校と県と市が関わってこのような事業を展開することはそれだけで意義があることだと感じる。その中で、地域魅力化とは何をする場かというのがある。地域貢献というのは重々承知しているが、この活動によって生徒が伸びることが一番重要だと感じる。本日の1年生の発表を見ると、中身が入ってくるような伝え方のスキルではないと感じた。こうした点はフォローをしていただき、質を担保してもらいたい。先生方は、目指す生徒の姿をもう一度明確にしていただきたい。また、外部の方の力を借りてファシリテーションを推進していき、生徒の能力を伸ばしていただきたい。それがブランド化につながる。
生徒の成長が東高のブランド化につながり、ひいては地域貢献につながると思われる。こう言った道筋をしっかりとつけていただきたい。

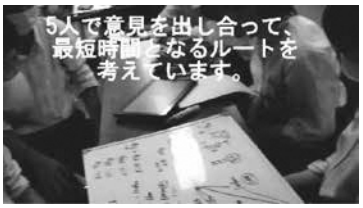
2　研究開発の実績

(1)　「地域共創人育成 project」カリキュラム開発

ア　科目「総合的な探究の時間（1年生）」における探究学習

本年度は昨年度の反省を踏まえ、1年生を課題解決能力育成の第一段階と捉え、「チームでの協働」と「論理的思考の基本の習得」をテーマにプログラムを計画したが、新型コロナウィルスの流行による臨時休業措置の影響を受け、内容を随時微調整しながら行った。また、当初計画では島根大学の「イノベーション創生基礎セミナー」を受講し、探究学習のスキルアップや、論理的思考の方法などについて学ぶ予定であったが、島根大学側の受け入れが難しく、リモートで展開することとなり、そのセッティングやミーティングに苦心した。

(ｱ)　協調的マインドセット



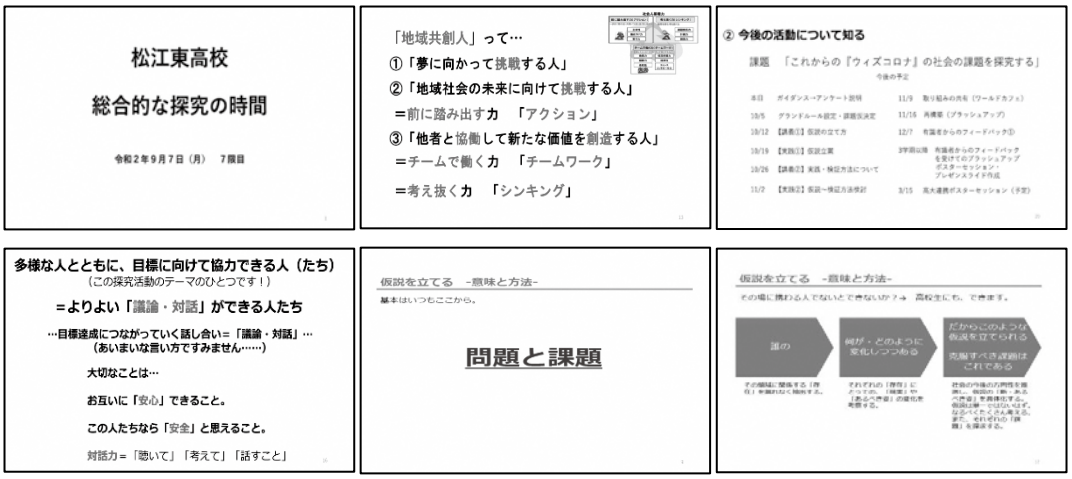
このプログラムは1年生に「チームでの協働」の基盤となる「チームビルド」を体感させることを目的として行った。約20分の動画内にちりばめられたヒントをもとに、与えられた問いに対してチームで協働し、より良い解を導き出すこの活動は、実質的に初のチーム活動となる1年生には良い時間であった。しかし、臨時休業措置の影響を受けプログラムの開始時期が7月末となったこと、ソーシャルディスタンスを保つため学年全員が一堂に会して授業を展開できない点が気になった。

(ｲ)　「with コロナ」の社会の課題を探究する

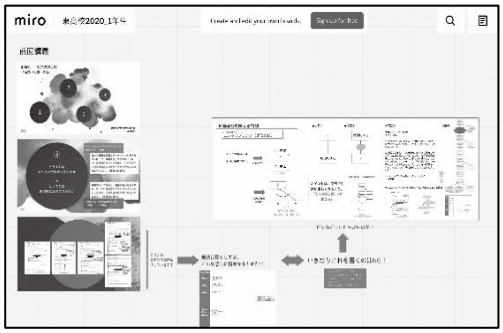
こちらも臨時休業措置の影響を受け2学期から開始となった。この活動の目的を1年生のチーム力育成と探究スキル習得と設定した。さらにカリキュラム開発等専門家である高須佳奈氏とのミーティングの結果、これまで自身が経験したコロナ禍における個人の体験と社会の現状をどのように感じているか、を生徒に一旦アウトプットさせてから、これからの社会の様々な課題について考えさせる活動を行った。その活動の中でチーム活動の基礎を学び、人間関係性を高めていくことをねらいとした。

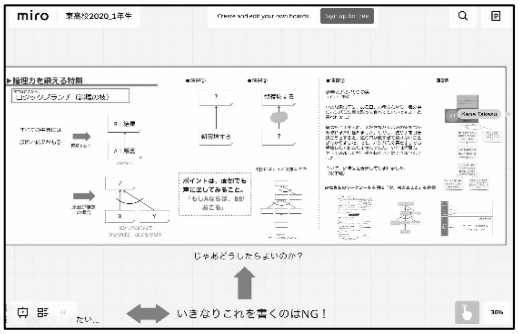
活動の内容としては、前述した生徒のアウトプットの様子を受け、11の探究分野を設定し、生徒の希望からチーム設定を行った。コントロール探究（指導者から与えられた課題や手法に従って実施する探究）を基盤とし、高須氏によるリモート講義と本校教員の指導により「仮説の立て方」、「仮説の再構築」、「論理的思考の手順」を学んだ。高須氏は講義の中でリモート授業に有効なさまざまなツール・アプリを試用し、また多様なロジックツールを駆使した講義を展開した。本校ではその講義を5会場に投影しつつ、さらに本校側のみで行うガイダンス等も全てリモートで行った。講義の内容の難易度が高い上、対面授業がなく、すべて画面をとおした形態であったので、生徒たちの戸惑いは大きかった。しかし、次第にリズムを掴み、遠隔授業の利点を活かして、逆に直接質問する生徒も出てきた。また、自分たちもロジックツールをもとにしたシートに必要事項を記入しながら学び、より深い思考についての理解を深めた。

（授業で用いた資料の一部）



（オンラインホワイトボード「miro」を用いたロジックブランチの講義の一部）

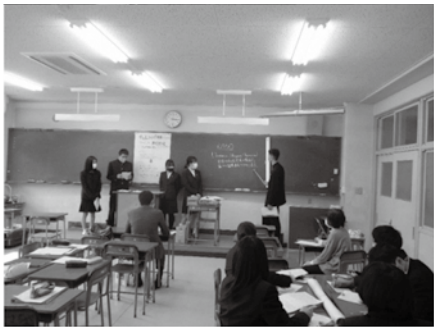




また、12 月に行われた「MATSUE 探究成果発表会」では 2 年生の成果発表を聴講し、自分たちの目指す姿を垣間見て意識が高まった生徒も出てきたことは、喜ばしい変化であった。1 月には校内で中間発表を行い、この結果から自分たちの仮説に対してブラッシュアップを行えたチームもあった。

(ｳ)　ポスターセッション

中間発表を受け、今年度の活動のまとめとして生徒の発信力、プレゼンテーション能力の育成を目指し、探究活動の成果をポスターセッション形式で発表を行った。生徒たちはこれまでに習得した様々な探究スキルを活用し、各班が選択した分野から、探究テーマを設定し、考察した結果をポスターにまとめた。



当日は松江市役所の関係部局、東武トップツアーズから合計 16 名の方々に来校していただき、指導助言など建設的な意見をいただいた。自分たちが思いつかなかった発想が他の班から出たり、納得のいくプレゼンには、もっともっと調べておかないといけないのだと気づいたりした班もあった。その様子を見て、生徒たちの次年度の活動が思い浮かべられ、楽しみでもあったが、その反面、もっと早い時期から外部の大人たちと生徒が交流すると、もっと面白い化学変化が起こるのではないかとも考えさせられた。

最後に本年度の活動を振り返って、主体的な探究活動を行うためには生徒間の関係性が重要だと改めて感じた。次年度は早い段階で生徒間の関係性を築き、校外との接点を持つことで、生徒が主体的に地域の課題を探究する素地を育みたい。

(ｴ)　キャリアデザイン探究Ⅰ

高校１年生が次年度の文理及び科目選択を行う時期にあたり、大学での学びとその後のキャリア形成の在り方について考察した。

講師　島根大学 大学教育センター
丸山　実子 氏

キャリアデザインプログラム履修生５名

(ｵ)　理系学部研究室訪問

島根大学理系学部の研究内容に触れさせることで、理系希望者を増やしたり、大学の理工系学部への進学者を増やすことを目的として実施した。

生物資源科学部 浅尾　俊樹　氏
総合理工学部 黒岩　大史　氏
医学部学務課

生物資源科学部		総合理工学部		医学部	
1	生命科学科 石川孝博（高校訪問）	4	物理・マテリアル工学科 藤原賢二（オンライン）	11	医学科 （オンライン）
2	農林生産学科 池浦博美（高校訪問）	5	物質化学科 辻　剛志（高校訪問） レーザーによるナノコロイドの作り方とその諸性質	12	看護学科 （オンライン）
3	環境共生科学科 李　治（高校訪問）	6	地球科学科 三瓶良和（オンライン） 地球科学の研究の面白さを伝える		
		7	数理科学科 黒岩大史（オンライン） 表があれば裏がある―双対理論へのいざない		
		8	知能情報デザイン学科 神崎映光（オンライン）		
		9	機械・電気電子工学科 吉田和信（オンライン）		
		10	建築デザイン学科 千代章一郎（オンライン） 建築デザインにはさまざまな面白い研究テーマがあることを紹介します		

島根大学理系学部研究紹介　事後アンケート

	Q1：今回の研究紹介について、総合的な満足度 4とても満足 3どちらかといえば満足 2どちらかといえば不満 1とても不満	Q2：今回の研究紹介をとおして、理系学部への興味・関心度 4とても高まった 3どちらかといえば高まった 2どちらかといえば下がった 1とても下がった
生命科学科	3.54	3.08
農林生産学科	3.64	3.20
環境共生科学科	3.45	3.09
物理・マテリアル工学科	3.60	3.00
物質科学科	3.43	3.29
地球科学科	3.11	3.25
数理科学科	3.31	3.08
知能情報デザイン学科	3.50	3.22
機械・電気電子工学科	2.70	2.70
建築デザイン学科	3.53	3.21
医学科	3.70	3.50
看護学科	3.50	3.17

良かった点	改善点
・大学に行くメリットなどを明示された点。どのような日程で研究をしているかを示してくれた点。 ・実際に香りを嗅いだこと。単体で嗅げることは珍しいと聞いたので良い体験になった。 ・再生可能エネルギーについて深く知れた。グラフや図があって分かりやすかった。 ・大学紹介の後、学科紹介をしていたので分かりやすかった。 ・身近なものを題材にして理論や定理の説明をしてくださったので分かりやすかった。 ・動画があって分かりやすかった。 ・変針制御実験装置について詳しく教えてもらえた。 ・研究室の様子を見たり、その学科学生の話を聞けた。 ・医学部が必要とする人材や能力や入学後の学習内容や卒業後の進路について詳しい情報を得ることができた。 ・大学の講義の様子や、あまり興味がなく調べる機会も少なかった理系学科について知ることができた。	・音質が悪く、聞き取りづらかった。 ・もっと実物を見たかった。 ・実際の学生の声があると良かった。 ・話が難しくて分かりにくかった。 ・主に何を学んでから行けばよいか教えてほしい。 ・専門的すぎる内容を少し減らしてほしい。 ・実際に体験できるツールや内容があると良かった。

イ　科目「総合的な探究の時間（2 年生）」における探究学習
「地域企業・団体との協働による課題探究実践プログラム」

地域の今と未来を考え、課題や問題の本質を捉え、チームで解決することができる「地域共創人」の育成を目指し、松江市に所属する企業や団体と一緒に「企業・団体がもつ課題を解決する」という探究活動を行った。

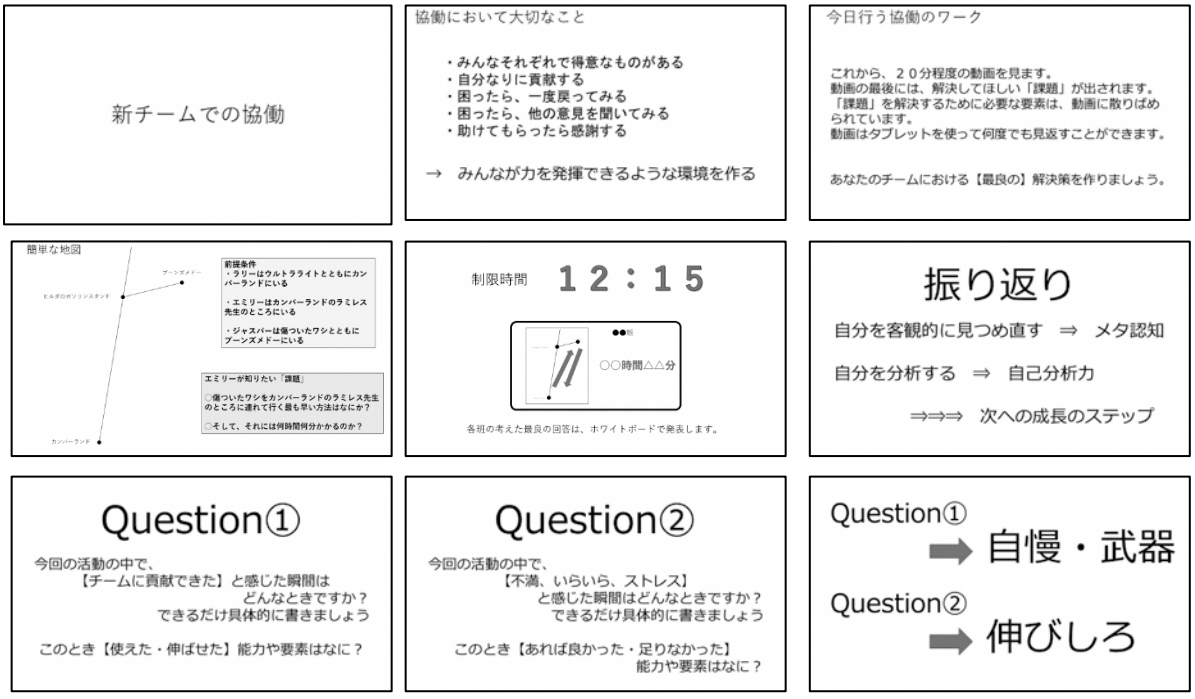
①チーム編成とチームビルド

3～5人で１つのチームを組んだ（男女混成）。7/21および7/22に各新制チームでのチームビルドを目的としたワークを行った。

特定の課題を解決するための情報がちりばめられた20分間の動画を参考に、各チームで最高の課題解決策を模索した。事後のアンケートでは、「このワークを通して発揮できた力は？」と「このワークを通して感じた自分に必要な（未熟な）力は？」を自己評価した。

その結果、最初の問いには【主体的に行動する力】や【諦めずに追究する力】を発揮することができた生徒が多かった。１年次に行った総合的な探究の時間を中心とした取り組みによって生徒の主体性などが向上したことがうかがえる。

一方で、後の問いには、【諦めずに追究する力】は、自分に必要な（未熟な）力としても多くの生徒が評価していた。ここから、このワークを通して「自分なりには追究したが、チームとして最良の結果を求め続ける必要がある」という認識を得たのかもしれない。これは「探究」の神髄であり、今後の探究活動への最高のモチベーションとなったと考えられる。



②教員の担当制

生徒チームは全部で40チームとなった。そこで、学年部の教員（計13名）にそれぞれ2～3班のアドバイザー役として、担当班をあてがった。これは、生徒チームの進捗状況を把握することを目的としたが、結果的には次の２点の利点があった。

・教員の主体性の発揮

教員自身が担当する班に関する状況把握や、アドバイスの度合いなど様々な場面で担当教員の裁量が重要になる設計とした。結果、担当した班との関わりが密になった。各教員のそれまでの経験を活かすことができ、生徒チームにもいろいろな影響がでることになった。

・生徒の相談のしやすさ

生徒チームが行き詰まった時、アドバイスを誰にもらうのかを迷うことが少なくなった。まずは、担当の教員に相談し、必要があれば他の教員に相談するなど、相談窓口ができた。

以上のような、利点も含め、担当チーム制により、生徒チームの活動や思考はさらに深まることになった。

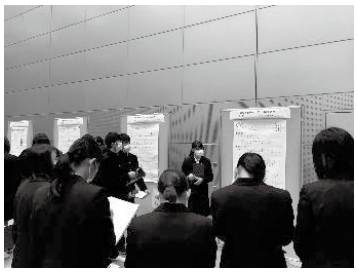
③協働する企業や団体とのマッチング

9/1 に生徒チームがそれぞれ協働する企業や団体を決定した。生徒チームが直接電話をして、最初の顔合わせのアポイントを取った。

④生徒チームと協働企業や団体との関わりによる課題解決型学習

以降、12/14 の最終発表までの間、各生徒チームと各企業や団体とのペースで様々な活動や相談を繰り返し、企業や団体が持つ課題に対して、解決案を提案した。

⑤「MATSUE 探究」成果発表会（12/14 くにびきメッセ）



(ｱ)　全チームによるポスター発表の部

・生徒チーム 40 班全てが、活動をまとめたポスター発表を行った。
・1 年生、本校教員、教育委員会関係者、関連企業や団体など多くの方が聴衆として参加された。
・各チームが、約 15 分間の発表（質疑含む）を 3 回行った。
・審査委員（本校教員）によって、採点を行った。

(ｲ)　代表 5 チームによる全体発表の部

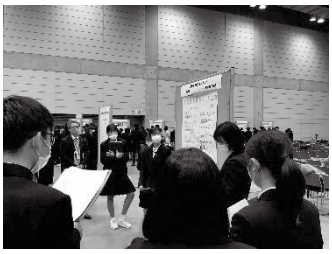
・ポスター発表の部で高評価だった 5 チームが、全体で代表発表を行った。
・この模様は、Youtube を利用した Online 配信した。
・各チームの発表について、以下の方々に指導、助言をいただいた。

（指導助言者）

千代西尾　祐司　氏　　島根大学教職大学院　教授
熊丸　真太郎　氏　　島根大学教職大学院　准教授
中村　怜詞　氏　　島根大学教職大学院　准教授
高須　佳奈　氏　　島根大学地域未来協創本部特任講師

各チームに次のような点を評価いただいた。

・生徒と外部機関（企業や団体）がとても密に連絡を取れていること
・企業の考えだけじゃなく、高校生（就職者）側の考え方を伝えることができる
・企業側からの「チャレンジしてみます」という声が素晴らしい
・複数の課題から、ひとつの課題に絞って考え抜いたこと
・会社にとっての大きな課題を任せてもらえた　⇒自信に繋がる
・活動を通して学んだことを言語化できていること



また、次のような点への課題もいただいた。

・既存のルールに捕らわれすぎずに、それをいかにクリアするかを追究できればよかった。
　⇒　長年同じルール内にいる社員などにはない新たな発想が出やすいから
・提案事項の試作品まで作れるとよかった⇒　高校生にもここまでできるという達成感を得ることができたはず
・高校生と企業との関係を切らずにいてほしい
・課題の分析などにもう少し論理性のある手法を用いることができると良かった
　⇒　ロジカルシンキングやロジックツリーなど

(ｳ)　講演会「探究活動の意義と拓く未来」

講師　一般社団法人　Glocal Academy 理事長　岡本　尚也　氏

（講演主旨）

これからの社会は予測不能な社会と言われている。なにを準備しておけば良いのかが不透明であり、なにに価値があるのかもわからない。そのような社会において生き抜くためには、「問い続ける」ことが重要となる。その中で自分と向き合うことが重要であり「そもそも自分はこの組織の中で何がしたいのか」を問うことが必要。

探究活動を通して、このような「そもそもの自分」や「組織の中の自分」、「課題の捉え方」などを学ぶことができる。自分自身が何を語れるか、自分の言葉で。ある種の自己紹介を磨いていく過程だと思って探究をこれからも楽しんでいってほしい。

⑥全体振り返り

12/21 にこれまでの探究活動を振り返った。１年次から行った「東高の CM 作成」「地域課題を知り、ビジネスモデルを考えよう」「地域課題探究実践プログラム」について、それぞれを振り返って、それぞれで付いた力などをまとめた。それを踏まえ、２年間で見つめた「自分」について紹介文章を書いた。

探究活動やチーム活動を経て、感じた「自分の強み」と「自分の弱み」について考えることで、メタ認知能力の向上を狙った。この振り返りによって、生徒それぞれがチーム活動に

おける自分自身の価値や立場を客観的に捉え、それらを強みとして自己紹介文章を書くことができた。

⑦ライフデザイン探究Ⅱ

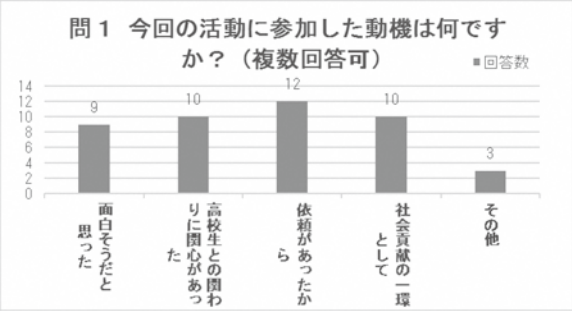
これまでの経験を踏まえ、「地域共創人」としてどのように生きていくか、志望理由を作成することをとおしてライフデザインを考える。また、小論文作成をとおして社会問題をどのように捉え、解決するためのアプローチ、方法をどのように提案していくかを考える。

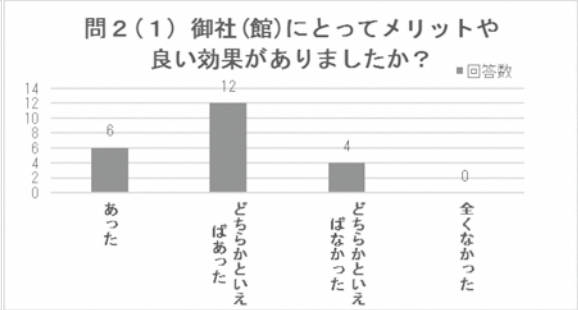
1/26　志望理由書のための講演会
　　講師　学研教育みらい　玉田　真由美　氏
2/ 2　志望理由書模試
3/ 9　小論文書き方講座
　　講師　学研教育みらい　玉田　真由美　氏
3/16　小論文模試

２年間の活動をとおして、「地域共創人」の育成を図ってきた。多くの生徒が、探究活動を通して、自身の成長を感じているようだ。これらは校内での教科教育や部活動など様々な場面で良い影響を与えていることを実感している。また、生徒だけでなく、教員集団や保護者、周辺地域の理解も増しており、松江東高校が地域にある学校としての価値がより大きくなったのではないだろうか。

本校での経験や知識が生徒を始めとした「地域共創人」の増加に繋がり、松江市、ひいては島根県の財産となることを願う。

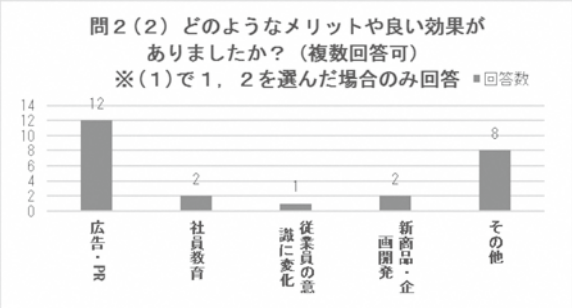
協力企業・団体アンケート回答結果

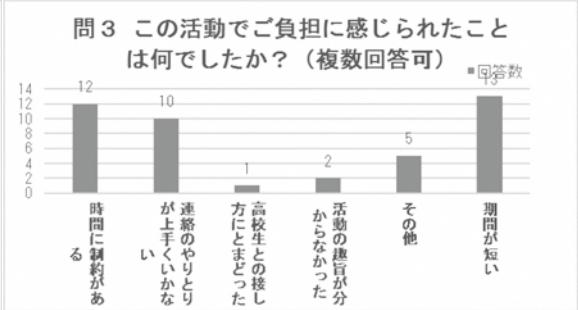




【問１】「今回の活動に参加した動機は何ですか？」その他　自由記述

・多くの生徒さんが、これから県外に出るが、島根の魅力や地元企業についても、学んで欲しいと思っていたので良い機会でした。
・日頃、高校生が川津という地域をどのように思っているか興味があった。
・川津公民館に関わる諸問題について、地元の高校で学ぶ生徒さんに興味・感心を持っていただけることは長年の願いでした。地域にある小・中学校とは平素の活動を通して比較的交流がありますが、都市部の高校となると、地域の住民からすれば、敷居が高く感じられ何となく疎遠になっていました。一方、中山間地の高校は小・中学校を含めて、少子高齢化が加速していることもあり、地域の将来を見据えた児童・生徒さんの取り組みが一歩も二歩も進んでいると感じていました。ここ川津地区も様々な課題が山積していますので、過去から現在の状況を理解してもらいながら、今すぐに取り組めることや将来ビジョンを探究していただけることに感謝しています。





【問２(2)】「どのようなメリットや良い効果がありましたか？」その他　自由記述

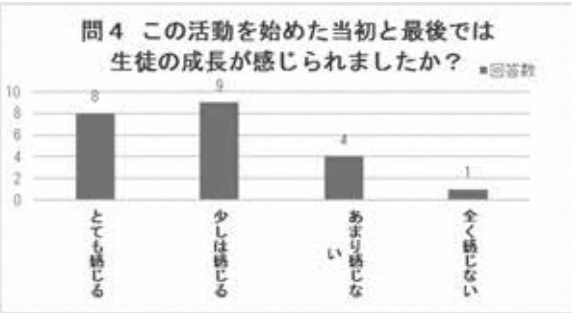
・地域とのつながりの強化、将来の新卒採用へ向けた活動
・普段思いつかないアイデアもあり良かった。
・高校生や若い人への企業広告や採用活動につき、大いに参考となった。
・若い方々に、マーケティングの考え方を理解してもらう試金石となった。
・高校生とのやりとりが新鮮だった。
・若者の視点から、弊社への意見をもらえたこと
・慢性的に人手不足の業界のため、若い世代に感心を持ってもらえた。
・川津地区の出身者は元より、地区外（市内・市外含めて）の生徒さんに川津の歴史・文化・強み・弱み等々を知っていただく絶好の機会になりました。公民館側として、中高生の活動に対するスタッフやプログラム等の準備に役立ちました。高校生が求める高校所在地の魅力とは何か？を今後掘り下げていきたいと思うようになりました。

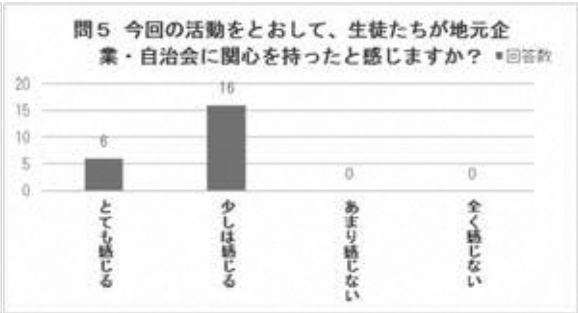
【問 2(3)】「メリットや良い効果を出すために必要なことは何だと思われますか？」 自由記述

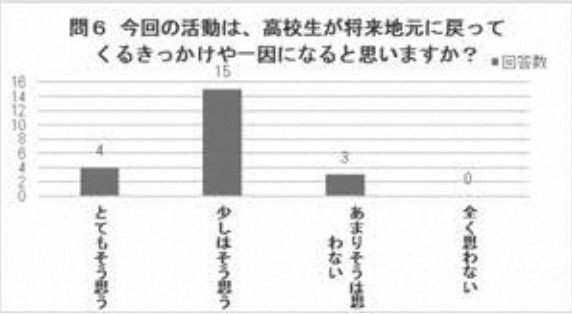
・今回は期間が短かったため実行、検証、修正といったことまで進めにくかったが、そこまで行くことが必要だと思います。
・密接な企業へのコンタクトや時間をとっての面談
・学生からもらえる新しい発想を引き出す、企業側が与える課題や学生へのフォロー
・いかに興味を抱かせるかという点。(楽しんで取り組んでもらうこと。日常において商品アイデアのアンテナを立ててもらうこと。)
・素人の目線
・生徒一人一人の興味に合ったプログラムをしなければ、本人たちの１０年後２０年後の仕事につながらない。やっとで終わったと思う感情の方が強く出てしまう。
・地域の諸課題を把握し、そして解決に向かう策を練るには、時間が少なすぎる。

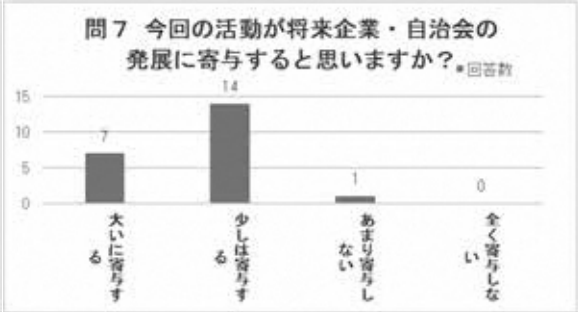
【問 3】「この活動でご負担に感じられたことは何でしたか？」その他 自由記述

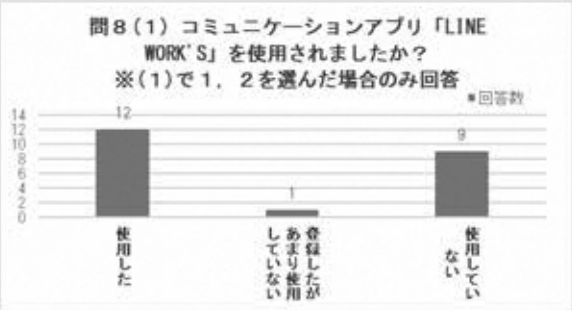
・どこまで踏み込んだやりとりをしていいのか分かりづらかったです。
・当社へもっと来てもらいたかったが、生徒さんは自転車のため、往復に時間をとられ、面談時間に制約があった。
・アポなしで突然来館してきたこともあり、対応に苦労しました。じっくりと相手をしてあげる時間がなく、申し訳ないと思うが、どちらにせよ何かをするには圧倒的に時間が少なすぎると思います。
・公民館長や職員さんで対応できない部分は、課題に応じた関係者がその担当を受けましたが、平日、仕事をしている関係で直前の依頼に対応できなかったことが悔やまれます。加えて、松江養護学校高等部の「探究」も重なり十分な支援ができませんでした。コミュニケーションアプリが使用できることを知りませんでした。本年度はコロナ禍で９月から開始になりましたが、次年度も公民館関係の探究チームがあれば、私自身の心の準備や協力者を募りたいと思っています。
・負担ではないが、生徒達の活動の様子が見えず、無事に進んでいるのか心配になった。
・楽しんでものづくりをすること。

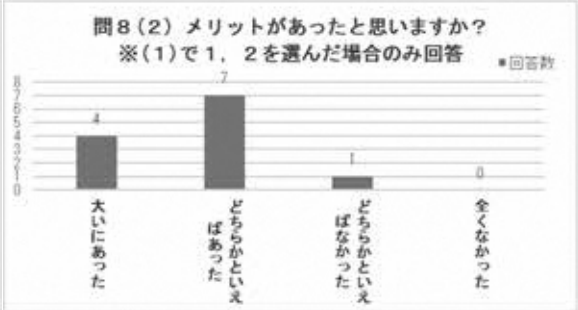


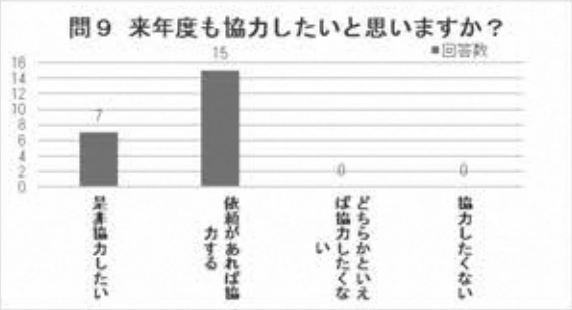


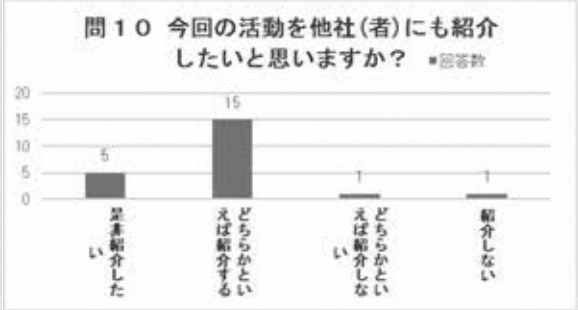

問６ 今回の活動は、高校生が将来地元に戻ってくるきっかけや一因になると思いますか？
■回答数
16
14
12
10
8
6
4
2
0
4
15
3
0
とてもそう思う
少しはそう思う
あまりそうは思わない
全く思わない


問７ 今回の活動が将来企業・自治会の発展に寄与すると思いますか？
■回答数
15
10
5
0
7
14
1
0
大いに寄与する
少しは寄与する
あまり寄与しない
全く寄与しない


問８（１）コミュニケーションアプリ「LINE WORK'S」を使用されましたか？
※（１）で１，２を選んだ場合のみ回答
■回答数
14
12
10
8
6
4
2
0
12
1
9
使用した
登録したがあまり使用していない
使用していない


問８（２）メリットがあったと思いますか？
※（１）で１，２を選んだ場合のみ回答
■回答数
8
7
6
5
4
3
2
1
0
4
7
1
0
大いにあった
どちらかといえばあった
どちらかといえばなかった
全くなかった


問９ 来年度も協力したいと思いますか？
■回答数
16
14
12
10
8
6
4
2
0
7
15
0
0
是非協力したい
依頼があれば協力する
どちらかといえば協力したくない
協力したくない


問１０ 今回の活動を他社(者)にも紹介したいと思いますか？
■回答数
20
15
10
5
0
5
15
1
1
是非紹介したい
どちらかといえば紹介する
どちらかといえば紹介しない
紹介しない

(2)　Ⅱ文理融合型の教育を目指す「地域共創コース」のカリキュラム研究

ア　学校設定科目「データサイエンス」の研究開発

・令和２年度より開講

・指導助言　島根大学教育学部　御園真史　准教授

・指導内容　データ処理や統計学の基礎について学び、地域経済分析システム「RESAS」を利用してデータを基づいた意見提示をする活動を行った。その後個人で興味関心のあるテーマを設定し、自らデータを取得し、分析を行い、その結果を発表した。

・内容の取り扱い及び指導計画

	学年・学科・コース等	第２学年・普通科・文系
	単位数	２単位
	授業担当者	古藤昭弘　手錢隆志
科目の目標	統計学、数学などと関連して、大量のデータから、何らかの意味のある情報、法則、関連性などを導き出す処理の手法、また活用の仕方について学ぶ。	
学習の到達目標	①　基礎的な統計学について理解する ②　データの分析、統計的処理を実践することができる	
使用する準教科書	「数学Ⅰ Standard」（東京書籍）「数学Ｂ Standard」（東京書籍） 「高校からの統計・データサイエンス活用」（総務省統計企画管理監室）	

イ　学校設定科目「EAST 国際交流基礎」の研究開発

・令和２年度より開講

・指導助言　島根大学教育学部　大谷みどり　教授

・指導内容　年間を通じてペアやグループの対話、ディスカッション、および発表活動等をおこない、国際交流において基盤となるスピーキング力、プレゼンテーション力等を高めることとする。あわせて、洋画や洋楽を活用して異文化理解学習も適宜行う。

	学年・学科・コース等	第２学年・普通科・文系
	単位数	２単位
	授業担当者	英語科教員

科目の目標	英語での様々なコミュニケーション活動、発表活動を通じ、特に表現力とコミュニケーションへの意欲を高める。同時に異文化学習、国際理解学習を通してそれらに対する理解を深める。
学習の到達目標	発表活動を通じて英語による表現力をより高めるディスカッション活動などを通じて思考力・理解力・判断力をより深める
使用する準教科書	「VISION QUEST 英語表現ⅠStandard」(啓林館) 「LANDMARK コミュニケーション英語Ⅰ」(啓林館)

ウ　学校設定科目「EAST 国際交流」の研究開発

・令和 3 年度より開講予定

・指導助言　島根大学教育学部　大谷みどり　教授

・指導内容　ペアやグループの対話、ディスカッション、および発表活動等を通し、国際交流において基盤となるスピーキング力、プレゼンテーション力等を高めることを 1 年間通しての流れとする。あわせて洋画や、洋楽、海外文献等を活用して異文化理解学習も適宜行う。また、学んだ内容を実際に生かすため場面として、留学生等英語のネイティブスピーカー、準ネイティブスピーカー等と交流する機会を持つ。

・内容の取り扱い及び学習指導計画

	学年・学科・コース等	第 3 学年・普通科・文系
	単位数	3 単位
	授業担当者	英語科教員
科目の目標	英語での様々なコミュニケーション活動、発表活動を通じ、特に実践的なコミュニケーションへの意欲と表現力を高める。同時に異文化学習、国際理解学習を通してそれらに対する理解を深める。	
学習の到達目標	対話や発表活動を通じて英語による実践的な表現力をより高めるディスカッション活動などを通じて思考力・理解力・判断力をより深める	
使用する準教科書	「VISION QUEST 英語表現ⅡAce」(啓林館) 「LANDMARK コミュニケーション英語Ⅱ」(啓林館)	

エ　学校設定科目「EAST 地域探究」の研究開発

・令和 3 年度より開講予定

・島根県教委が実施する探究学習推進担当者研修(全4回)にオンラインで参加し、探究学習の質の向上を図るため、他地域の実践や専門家からカリキュラムマネジメント、年間計画・授業の設計等について学び、研究した。
・指導内容
生徒が主体的に課題を見つけ、仮説を立て、実践、検証分析を行う。教員は生徒が探究をすすめる過程において、科目の枠にとらわれず助言を与えたり、より探究を深めるための支援、伴走を行ったりする。
・内容の取扱及び指導計画

	学年・学科・コース等	第3学年・普通科・文系
	単位数	1単位（半期履修）
	授業担当者	教員4名
科目の目標	本科目は探究的な学習に興味を持つ生徒や地域のことをより深く学びたい生徒が選択する。自分たちが生まれ育った地域社会の課題を見つけ、その解決策について考察し、新たな価値を生み出すビジネスモデルの創造を目指すなど、探究的なマインドやスキルを獲得する。	
学習の到達目標	・探究スキルを身に付け、他の学習や社会に出てからそのスキルを活用することができる。 ・社会の様々な事象に興味・関心を持ち、学習意欲や思考力が高まる。	
使用する準教科書	なし	

オ　学校設定科目「EAST プログラミング基礎」の研究開発

・令和3年度より開講予定
・島根県教委主催「共通教科情報『情報I』講座」を受講し、小・中学校でのプログラミング教育からのつながり、そして必履修科目「情報I」におけるプログラミングとの連携をいかに図るかを研究した。
・指導内容
始めにプログラミング言語「Ruby」による簡単な計算・表示などを学ぶ。その後、データソーティングなどの簡単なアルゴリズムについて学習し、それをプログラムに実装し、動作を確認していく。さらに様々なアルゴリズムについて学び、実装しながらプログラミングへの理解を深め、最終的には簡単なシステム・ゲームを自ら設計し、作品として仕上げる。
・関係教材　　たのしいRuby第6版（SBクリエイティブ）
・内容の取り扱い及び学習指導計画

	学年・学科・コース等	第3学年・普通科・文系
	単位数	2単位
	授業担当者	情報担当教員
科目の目標	自然現象や社会現象の問題点を発見し、コンピュータやプログラミングを活用し解決策を考えられるようにする	

学習の到達目標	③ アルゴリズムを表現しプログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークの機能を使う方法や技能、生活の中で使われているプログラムを見いだして改善しようとすることを通じて情報社会に主体的に参画しようとする態度を身に付ける。 ④ モデル化やシミュレーションの考え方を様々な場面で活用できるようにするために、問題発見や解決に役立て、問題の適切な解決方法を考える力を身に付ける。
使用する準教科書	たのしい Ruby 第 6 版（SB クリエイティブ）

(3) Ⅲ教育課程実践モデル事業の継承による主体的学習者育成研究

「主体的・対話的で深い学び」にかかる研究では、研究授業を兼ねた教員研修を 2 回実施したが、新型コロナウィルス感染症の影響により先進校視察等は行えなかった。

研究授業実施日	指導者	科目	クラス
令和 2 年 10 月 27 日	足立　樹洸	英語表現Ⅰ	14R
令和 2 年 10 月 27 日	篠田　巧	美術Ⅰ	12-13R
令和 2 年 10 月 27 日	槇原　奈津美	国語総合（古典）	15R
令和 3 年 2 月 26 日	篠田　巧	美術Ⅰ	14-15R
令和 3 年 3 月 9 日	槇原　奈津美	国語総合（現代文）	14R
令和 3 年 3 月 19 日	足立　樹洸	コミュニケーション英語Ⅰ	12R

(4) Ⅳ教育を核とした多文化協働・地域共創研究

ア　埼玉県教育委員会主催「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」フォーラム

1/13（水）13:30～16:30

・埼玉県 8 校、島根県 6 校、学校教職員、
　自治体職員、企業・NPO が参加
・本校より 2 年生 9 名がオンライン参加
・第 1 部　良い学びをデザインする
　第 2 部　良い学びを実現するチームづくり

埼玉県の高校生や他県の大人の方々と「対話」による交流を行い、自分にとって「良い学び」とは何か、どんな自分になりたいか、を考える機会となった。

参加生徒の感想	この時間で得たもの	東高でも取り入れた方が良いと思ったこと
・学校の先生の悩みを聞くことはあまりないからとても興味深かった。 ・知らない人と話すのは少し緊張したけどいろんなお話を聞けて良かった。 ・たくさんの方の意見を聞けて今後に生かしたいと思った。 ・先生の悩みからより良い総探の時間に	・自分の思いを言語化する力が、まだ足りないと分かった。 ・自分の将来をより良くするための考え方をたくさん知ることができた。 ・興味があることは実践すること ・クラスでの方向性や目的を考え	・机上の学びだけでなく、もう少し外に出ていきたい。 Win-winになる授業 ・一方的な授業だけじゃなく、気軽に先生方と意見が交換できるような時間が欲しい。 ・このようにいろんな人と話

するためには、どうしたら良いか、というところまで話が広がりとても面白かった。 ・今まで「良い学び」について深く考えたことがなかったので、今回考えてみて、今の学びをもっと良くしていく方法はたくさんあるのだなと思った。	られたら、学習面、行事面でまとまりがでると思った。 ・同じ高校生なのですでに地域と自分のやりたいことをつなげて考えていて、レベルが高いなと感じた。	をする機会が欲しい。 ・グループ活動。一人一人が発言しやすい楽しい授業をすること ・地域の人といっしょに地元の何か新しいものをつくる。

イ　埼玉県教育委員会主催「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」成果発表会

3/10（水）13:30～16:00

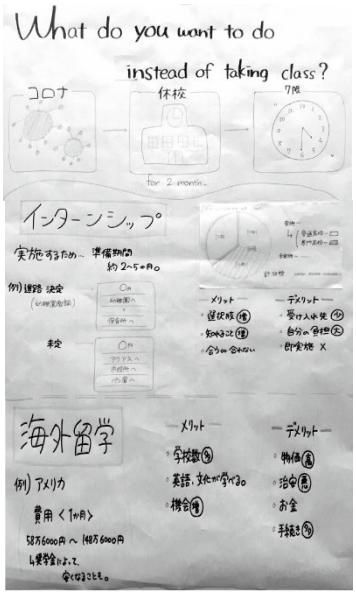
・埼玉県 2 校、島根県 1 校、宮崎県 1 校が参加

・本校より 1 年生 3 名がオンライン参加

・第 1 部　各校探究活動の発表会

　第 2 部　リフレクションプログラム

埼玉県、宮崎県の高校生と交流し、探究活動の意味や価値を理解し、学びを自分事化する機会となった。また、教員間の交流も行い、より良い探究活動の在り方について意見交換会を行った。



参加生徒の感想
・先生に発表練習を聞いてもらったときのアドバイスをもとに、ポスターを文章から単語に変えたり、説明を詳しくしたり、改善して本番に臨めたので良かった。今回のプロジェクトに参加したことは自分のスキルアップにつながったと思います。 ・本番までの準備期間ではどのようにしたらより他の人に伝わりやすいか、どうしたら私達の伝えたいことを上手くまとめられるかを沢山、沢山考えました。時には大きな壁に当たって困ることもありました。しかし、3 人で案を出し合ったことでどの壁もしっかり越えることができました。Win-win プロジェクトをとおして、出てくる課題に対しての対応力がついたと思います。貴重な体験ができて良かった。 ・他校の発表では資料のシンプルさ、絵や写真を使うなどの工夫や伝え方にも私達にはなかった工夫がありとても参考にしたいと思った。特に印象に残ったのは「LGBT」についてです。今の日本にはそういったことに自然と壁があるような感じがしていたけど、今回参加した人達の中で、身近な人に話して理解を深めるという案が出て、私達がちょっとでも広めて良い方向に変わっていけばいいな、という願いと希望が持てたように感じた。

(5)　Ｖ持続可能な学校魅力化事業研究

生徒が地域の多様な大人と交流する場「東高カフェ」のプレ開催を２回行い、第２回役員会にて正式に「東高カフェ WG」の設立が承認された。高校生が保護者や教員とは違う、普段接することのない大人と交流する機会を設けることで、自身の将来選択の幅を広げたり、将来の姿をより具体的にイメージしたりすることを目指している。

回	実施日	参加者	内容
1	６月 24 日	生徒会執行部７名、卒業生５名	東高カフェの内容について協議
2	９月 14 日	生徒会執行部５名、卒業生２名	コロナ禍を踏まえた学園祭生徒会企画
3	９月 14 日	生徒会執行部５名、卒業生２名	学園祭報告、意見交換
4	12 月１日	生徒８名 大人８名(株式会社エブリプラン)	・大人から、人生曲線とルーブリック表を用いた「生き様」説明、質疑応答 ・生徒が伸ばしたい力を発表
5	２月 28 日	生徒 11 名 大人９名（中国山地編集舎）	・大人から、人生曲線とルーブリック表を用いた「生き様」説明、質疑応答 ・生徒が伸ばしたい力を発表
6	３月 24 日 （予定）	大人（松江市役所）	・大人から、人生曲線とルーブリック表を用いた「生き様」説明、質疑応答 ・生徒が伸ばしたい力を発表

参加生徒の感想
・良い機会を用意してくださってありがとうございました。機会があったらまた参加したいです。 ・いろいろな生き方や選択肢、自分の長所などを楽しくお話しながらたくさん知ることが出来たのでとてもいい機会になりました。 ・なかなか大人の方とお話をすることが学校では出来ないのでとても良い機会でした。 ・自分の今悩んでいることなどを聞くことができた。 ・自分の苦手なところ､これからもっと伸ばしていくところを一緒に分析して下さり、それを目標として決めることが出来た。 ・挫折したときとかのそのときの捉え方が分かった。 ・自分の持っている将来の夢に対する疑問を解決する相談が出来た。

(6)　Ⅵ単位制普通高校移行や新学習指導要領を見据えた学校魅力化研究

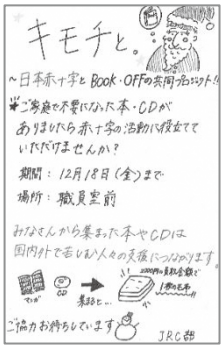
単位制カリキュラム及び新学習指導要領に応じた教育課程について、校内の教科主任会において引き続き研究を行っている。

(7)　類型毎の趣旨に応じた取組

ア　JRC 部×図書委員会　災害義援金

日本赤十字島根県支部へ「令和２年７月島根県豪雨災害義援金」を送った。JRC部は学園祭催し物会場に来場された方から募金していただいたものを送った。また、図書委員からは、自分たちで手作りしたUVレジングッズを、学園祭で販売し、その売上金を募金した。

イ　JRC 部　日本赤十字社の「キモチと。」プログラム



12月と３月に２回実施した。本プログラムは、家庭で不要になった本・CD などを買い取ってもらい、その代金を寄付するという仕組みで、非接触でボランティア活動ができる。12 月に校内配布用チラシを生徒が手書きし、全校生徒と教職員に呼びかけたところ、段ボール 3 箱分の本や CD が寄付された。買い取り金額は少額ではあったが、呼びかけに応えてくれる人がいたことが、生徒達にとっては嬉しかった。

ウ　JRC 部　川津幼稚園訪問活動

10 月～12 月にかけて計 12 回実施した。

夕方の時間に、預かり保育の幼稚園児の見守りボランティアをしており、今年度はコロナウイルス感染症対策のため、10 月から活動ができるようになった。週２回、水・金の放課後に 2～3 名ずつ訪問し、園庭で鬼ごっこをしたり屋内で本読みをしたりして保護者の迎えの時間まで一緒に過ごしている。部員の中には子どもに関わる職業に興味関心を持っている生徒もいるため、このボランティア活動を通して様々なことを学ばせてもらっている。

エ　JRC 部　花を育てる活動

２月末に実施した。部員が協力して、ビオラを色の組み合わせを考えながら植えることができた。これまで学校の正面玄関付近に彩りが少なかったが「カラフルになって良かった」と教職員から声をかけてもらった。生徒や教職員、来校される方々に見て楽しんでもらえるように継続して手入れをしていく予定である。

第３章　普及活動

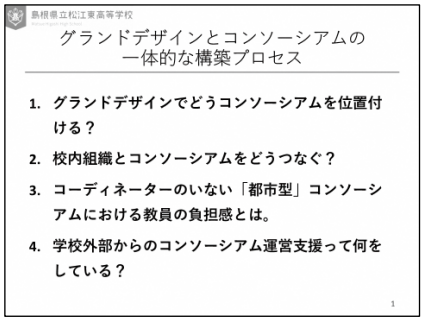
１　島根県教育委員会による研修会

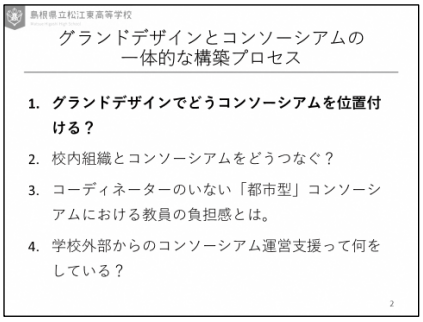
(1)　高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第２回研修会）

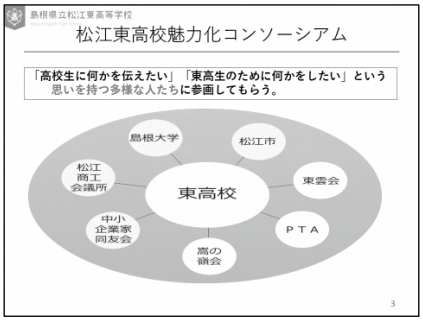
令和２年 11 月９日　オンライン会議

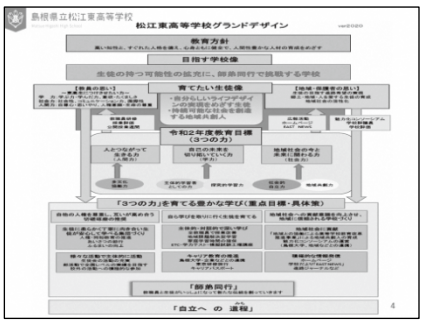
都市部の先導モデル校の取組状況紹介

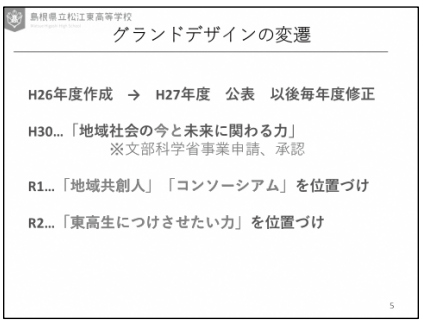
校長　野々村　卓「本先導モデル校の取組状況について」

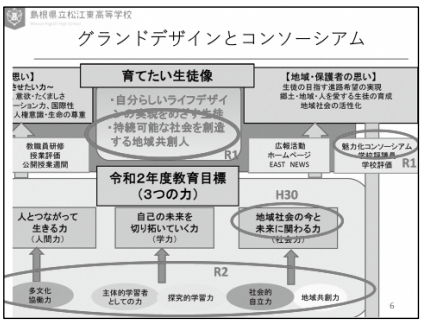


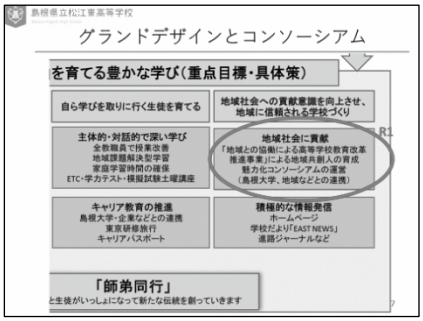


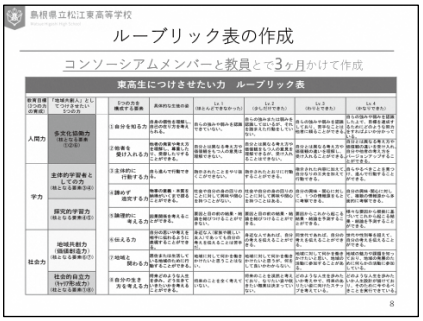


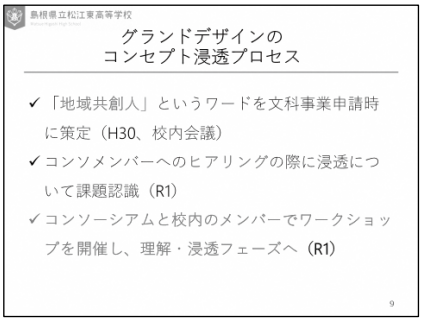


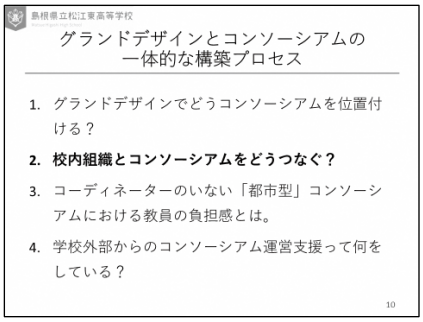


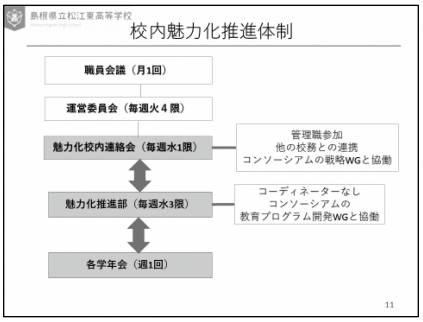


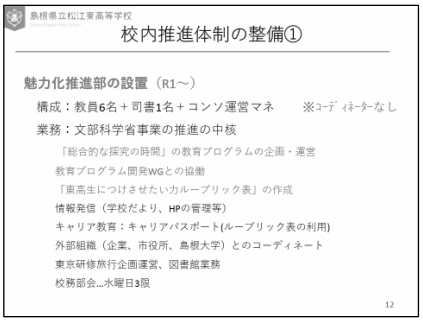


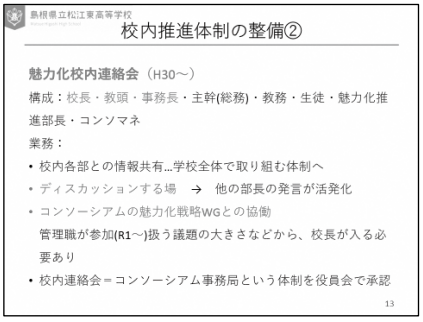


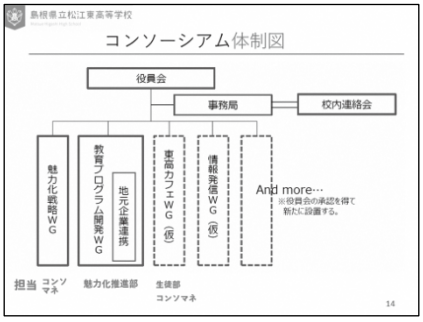


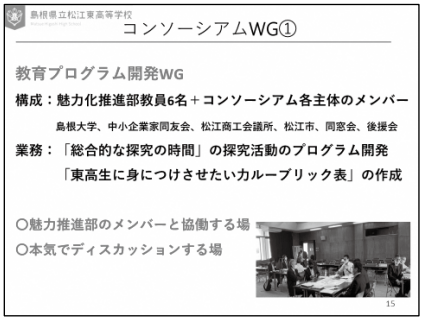












島根県立松江東高等学校

コンソーシアムWG②

魅力化戦略WG

構成：コンソーシアムメンバー

島根大学3名、中小企業家同友会2名、 松江商工会議所1名
松江市政策部、松江市教委、県教委、同窓会、後援会、PTA会長
魅力化校内連絡会のメンバー8名、コンソーシアム運営マネージャー

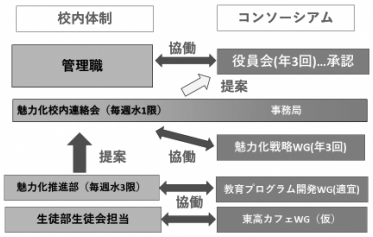
業務：今後の東高魅力化の大きな方向性を話し合う場

○魅力化校内連絡会のメンバーと協働する場
○本気でディスカッションする場
校内では出てこない意見を聞く場

16

島根県立松江東高等学校

校内推進体制とコンソーシアムの関係



17

島根県立松江東高等学校

魅力化戦略ワーキングでの提案内容

- 期待した以上に「自分事」として提案
- しゃんしゃんで終わらない、想いがある人の巻き込みを意識
- 高校側で意見を受け止めて今後につなげる
- 冒頭で「尖った意見を」と求めており、特色化に向けた独創的な意見が多数

「必須取得単位数を減らして柔軟な探究の場を」
「生徒の付加価値を高める」「レアカード化」
「起業家マインド育成とコンソからの活動費支援」
「東高を地域創生高校へ」「地域共創学科」

18

島根県立松江東高等学校

魅力化戦略ワーキングでの議論を今後につなげるコンソ運営

11月　**魅力化校内連絡会議**において、取組の精査を進める

12月　**第２回役員会**
・戦略WGの報告・今期中に取り組めることの報告

1月　**第２回戦略ワーキング**
・前回のワーキング会議での意見を次年度の事業計画へ落とし込む

２月　**第3回役員会**
・第２回戦略ワーキングで議論した事業計画の承認をえる

19

島根県立松江東高等学校

グランドデザインとコンソーシアムの一体的な構築プロセス

1. グランドデザインでどうコンソーシアムを位置付ける？
2. 校内組織とコンソーシアムをどうつなぐ？
3. **コーディネーターのいない「都市型」コンソーシアムにおける教員の負担感とは。**
4. 学校外部からのコンソーシアム運営支援って何をしている？

20

島根県立松江東高等学校

コンソによる外部との協働は教員の負担増？

コーディネーター不在のため教員の仕事量は増加する
対策：探究プログラム作成を担当部署で学年ごとに作成
コンソーシアムのワーキングと協働により負担軽減
学年会においてもディスカッション

【現時点でのアウトカム】
- 教員の意識が目に見えて変化…主体的な取り組みへ
- 仕事量の増加 ≠ 負担感の増加ではない
- プログラムの作成に教員が参画しているため、教員が「自分事」として認識できる
- 生徒が成長している姿を見ることができる

21

島根県立松江東高等学校

グランドデザインとコンソーシアムの一体的な構築プロセス

1. グランドデザインでどうコンソーシアムを位置付ける？
2. 校内組織とコンソーシアムをどうつなぐ？
3. コーディネーターのいない「都市型」コンソーシアムにおける教員の負担感とは。
4. **学校外部からのコンソーシアム運営支援って何をしている？**

22

島根県立松江東高等学校

コンソーシアム運営支援側の役割
（株）エブリプラン

●全体の組織設計と改善
コンソーシアムのビジョン実現に向けた組織デザイン
運用上の課題に合わせた組織変更
●会議におけるファシリテーター
会議というプロセスを経て合意形成を進める
●コンソーシアムメンバーの参画
積極的に関与しやすい会議の設計
各自の本音を引き出す（学校側では聞きにくい）
●校内組織への関与
校内魅力化推進部メンバーの一員としての参画

23

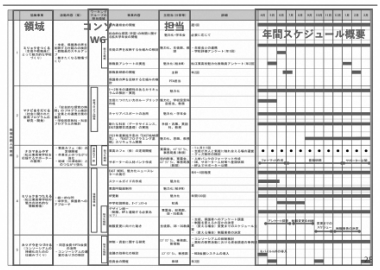
島根県立松江東高等学校

コンソの見える化と共有

24

島根県立松江東高等学校

コンソの見える化と共有



島根県立松江東高等学校

新たな取り組み（東高カフェ）

26

島根県立松江東高等学校

【まとめ】

ビジョンとコンソーシアム一体構築のポイント

- 多様で思いのある人材のコンソーシアムをつくる
- コンソをグランドデザインにきちんと位置付ける
- コンソーシアムと校内組織とが重層的につながる
- 教員が「自分事」として取り組める組織体制を構築する
- 教職員以外の外部の視点を運営支援に取り入れる

27

(2)　高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業（令和２年度第３回研修会）

校長　野々村　卓

「持続可能な体制について」

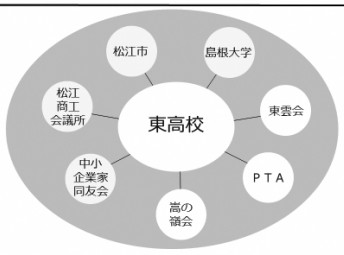
高校魅力化コンソーシアム・
グランドデザイン研修
（高校魅力化コンソーシアム構築事業第3回研修）

２０２１．２．２４

島根県立松江東高等学校

1

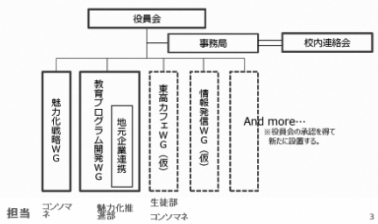
松江東高校魅力化コンソーシアム



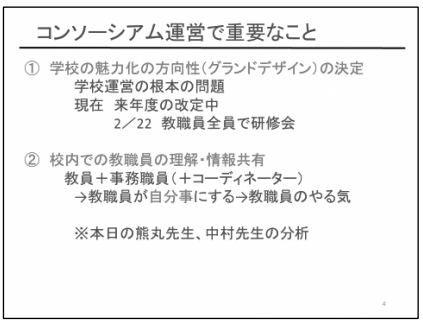
2

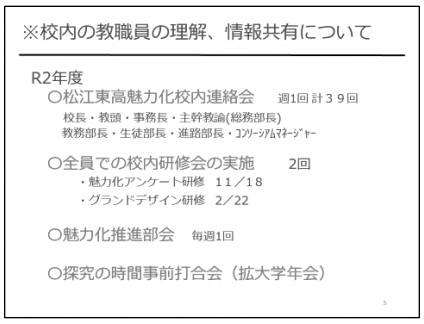
コンソーシアム体制図

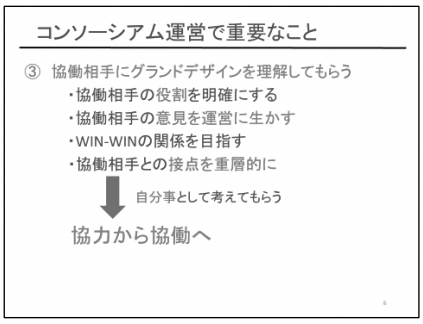
コンソーシアム体制図

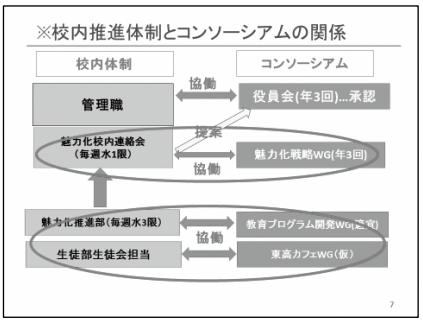


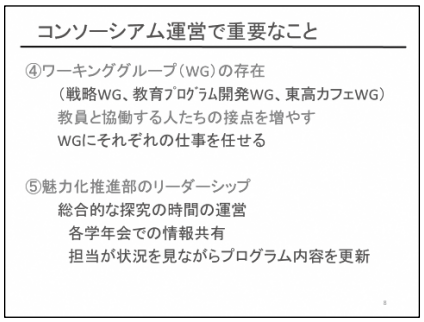
3

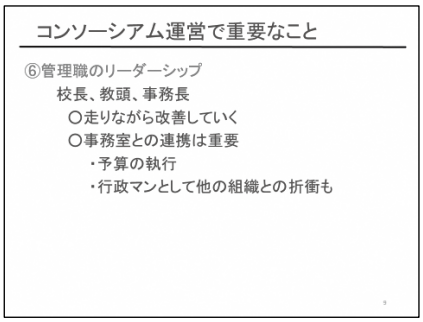








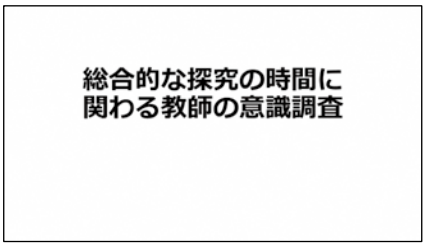


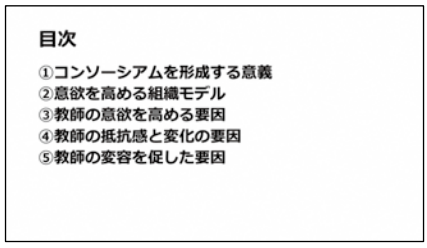


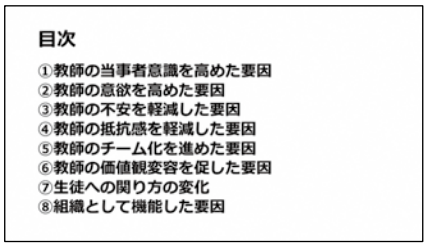
島根大学教育学研究科　中村諭怜　准教授、熊丸真太郎　准教授

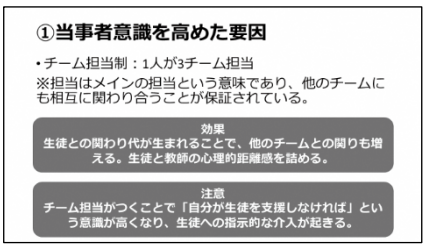
松江東高等学校２年学年会聞き取り調査

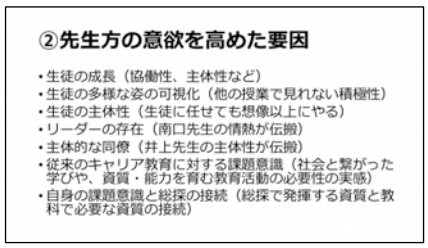
「総合的な探究の時間に関わる教師の意識調査」結果報告

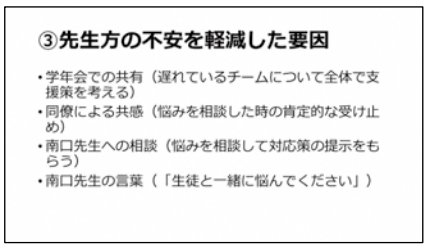


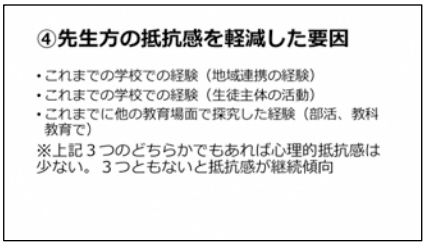


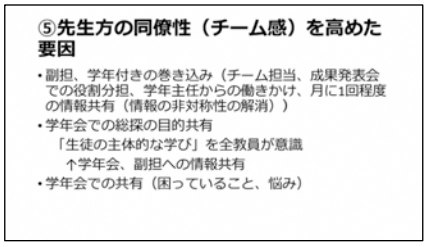


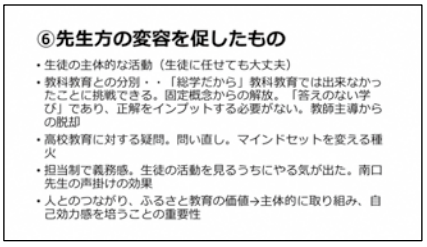


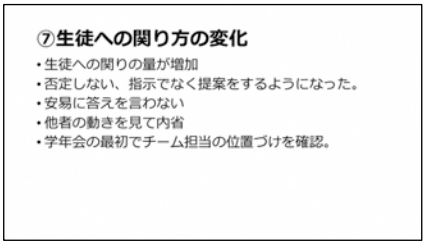


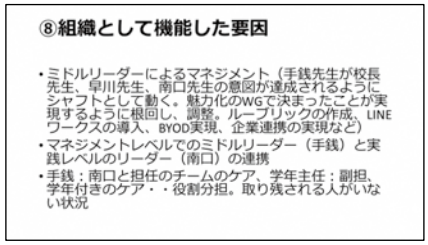


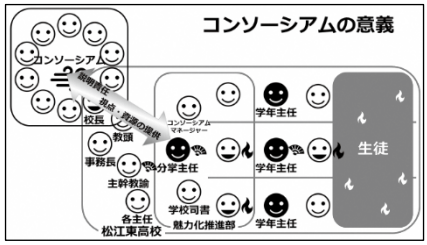


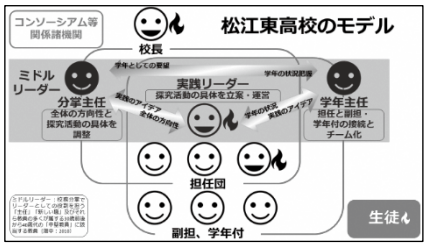


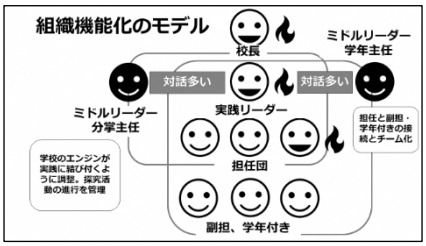


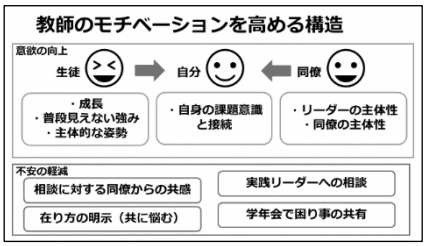


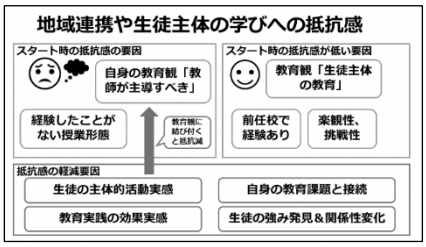


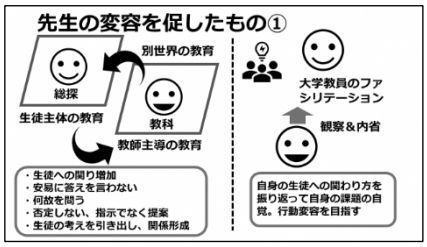


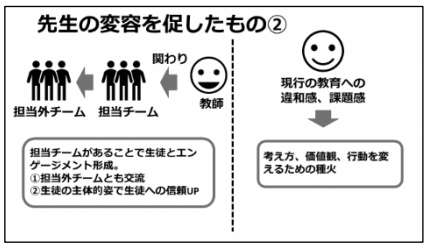


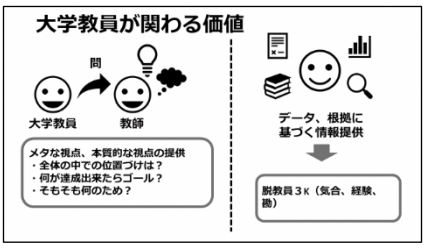








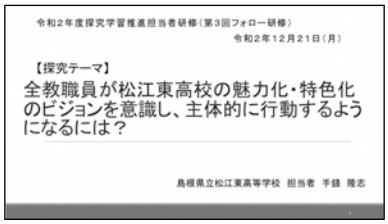


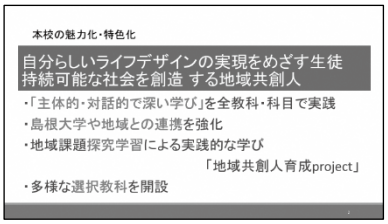


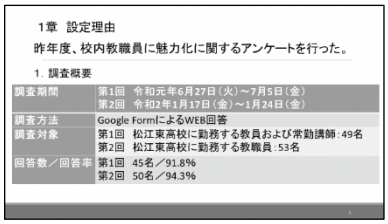
(3)　探究学習推進担当者研修

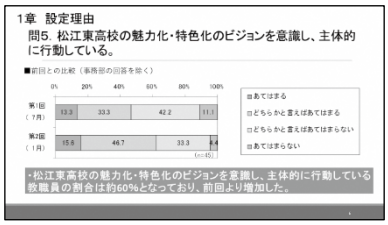
魅力化推進部長　　手錢　隆志

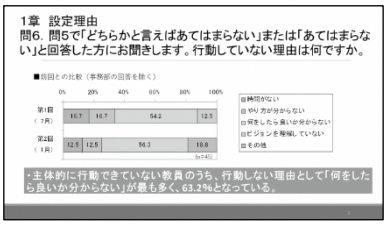
「全教職員が松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを意識し、主体的に行動するようになるには？」

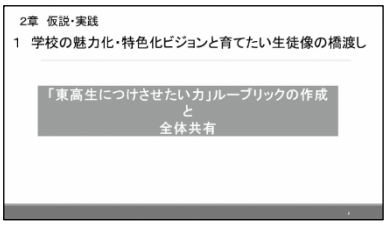


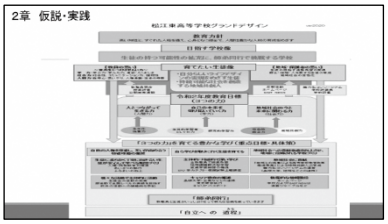


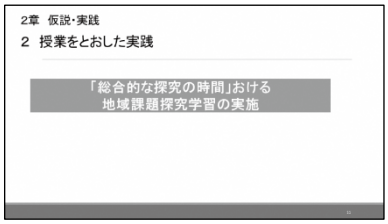


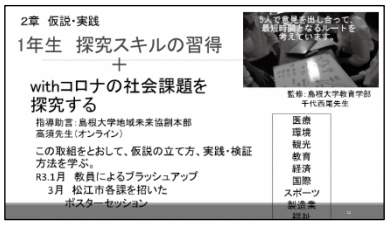


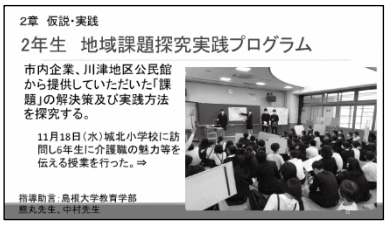


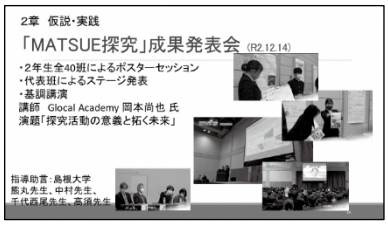












2　総合的な探究の時間「MATSUE 探究Ⅰ、Ⅱ」の公開

(1)　1年生「総合的な探究の時間」の公開

令和3年3月10日　　埼玉県「学校地域 WIN-WIN プロジェクト」成果発表会

3月15日　　探究成果発表会

(2)　2年生「総合的な探究の時間」の公開

令和2年11月16日　「しまね大交流会」オンライン発表会にて発表

令和2年12月14日　　「MATSUE 探究」成果発表会

学年代表の8班が校外会場にて発表。教育関係者、関係企業等、保護者に公開

3　その他広報活動

(1)　学校訪問

令和 2 年 12 月 18 日　鳥取県立米子西高等学校

(2)　教職員研修会の公開

令和 2 年 11 月 18 日　第 1 回教職員研修会　　島根県教育委員会、県外視察者に公開

(3)　その他

・ホームページにおいて魅力化事業の成果を普及

ホームページ更新状況(R3.3.5 時点)	
項目	回数(回)
お知らせ	90
学校生活	20
部活動	70
探究学習	9
広報誌	19
その他	13
合計	221

・広報誌「魅力化ニュースレター」

・広報誌「EAST NEWS」

EAST NEWS

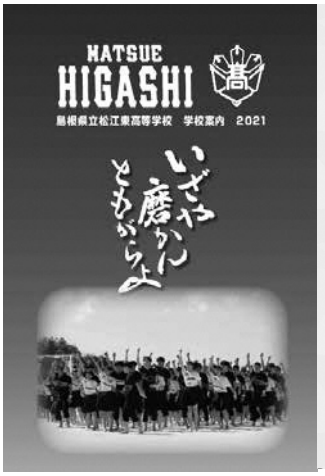
「学ぶ事の意味」

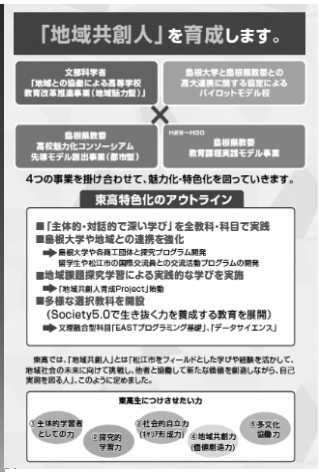
1年生　総合的な探究の時間　活動報告

2年生　総合的な学習の時間活動報告

島根県立松江東高等学校

・パンフレット及び成果報告書の印刷・配布





・PR 動画の作成

第４章　研究開発の効果とその評価及び事業終了後を見据えた取組

1　目標の進捗状況、成果、評価

(1)研究開発の成果目標、活動指標

１．本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値(2021年度)
a	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県で起こっている問題や出来事に関心がある」と答える生徒の割合。						単位：　%
	本事業対象生徒：			－	73.1	90.0	90.0
	本事業対象生徒以外：		58.4	77.9	68.1		
	目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJR&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で70%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ						
b	（卒業時に生徒が習得すべき具体的能力の定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 3年次に、「自分の住んでいる地域や島根県をよくするために何をすべきか考えることがある」と答える生徒の割合。						単位：　%
	本事業対象生徒：			－	59.4	70.0	70.0
	本事業対象生徒以外：		35.7	69.2	55.3		
	目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJR&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で60%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ						
c	（高校卒業後の地元への定着状況を測るものとして、管理機関において設定した成果目標） 3年次に、「将来、島根県で働きたいと思う」と答える生徒の割合。						単位：　%
	本事業対象生徒：			－	58.4	70.0	70.0
	本事業対象生徒以外：		50.5	69.7	48.7		
	目標設定の考え方：島根県教育委員会、三菱UFJR&Cが実施する「高校魅力化アンケート」において、学校全体で55%以上を目指す。2019年度「対象生徒以外」は3年生のみ						
d	（その他本構想における取組の達成目標） 松江東高等学校を高大連携のパイロットモデル校に指定している島根大学への志願者数						単位：%
	本事業対象生徒：				41.7	70.0	70.0
	本事業対象生徒以外：		48	50.0	25.3		
	目標設定の考え方：3年次第1回進路希望調査で、第3希望までに島根大学を記入した生徒の割合。毎年50%以上を目指す。						

・2019 年度 3 年生は様々な要因から特に県内志向が高い学年であった。さらに新型コロナウィルスにより、年度当初の長期にわたり臨時休校があったこと、また今年度前半には、地域との関わりが全くなくなってしまったことにより、いずれも昨年の同時期に比べて低い評価となった。

２．地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値 (2021年度)
a	（地域課題研究又は発展的な実践の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 県内外の教育機関等に公開する授業研究等の回数						単位：　回
			0	7	2	7	7
	目標設定の考え方：毎年7回以上を目指す。今年度は新型コロナウィルス感染症の影響もあり、実施できなかった。						
b	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 県内外の教育機関等に取り組みを紹介するための研究発表会の回数						単位：　回
			0	3	2	2	2
	目標設定の考え方：年3回を目指す。今年度は新型コロナウィルス感染症の影響もあり、実施できなかった。						
c	（普及・促進に向けた取組の実施状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 県内外の教育機関等に取り組みを紹介するために学校のホームページを更新する回数						単位：　回
			0	40	67	35	35
	目標設定の考え方：毎週1回以上の更新を目指す。						

・1.と同様に、今年度前半は校外の方々を招いての公開授業や発表会を行うことは難しかったが、後半には実施することができた。また、対面での直接的な PR に変わり、動画を活用した PR を行うなどして、HP の更新回数は昨年度より短い期間でより多くを更新した。

３．地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）						
	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目標値（2021 年度）
a	（地域人材を育成する地域としての活動の推進状況を測るものとして、管理機関において設定した活動指標） 「研究開発ワーキンググループ」のミーティング等の活動回数（カリキュラムの検討や成果報告）					単位： 回
		0	31	22	10	10
	目標設定の考え方：毎年10回以上を目指す。今年度は新型コロナウィルス感染症の影響もあり、昨年度より減少した。					

＜調査の概要について＞
1．生徒を対象とした調査について

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全校生徒数（人）	678	670	629	607	581
本事業対象生徒数			409	607	581
本事業対象外生徒数			220	0	0

・新型コロナウィルスによる長期臨時休校もあり、教育プログラム開発のワーキンググループの回数は減ったものの、オンラインによる会議など状況に応じて適宜開催することができた。これにより生徒の状況に応じてその都度、実施内容を検討し、効果的な学習を進めることができた。

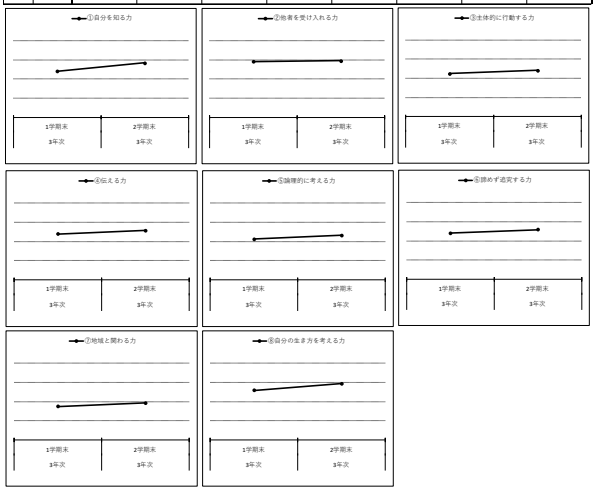
(2)　キャリアパスポートによる評価

島根県教委「キャリア・パスポート」活用事業

児童生徒がキャリア教育に関わる諸活動と各教科等を往還し、自らの学習状況やキャリア形成を振り返ったり将来を見通したりしながら、児童生徒自身の変容や成長を自己評価していくことができる教材（キャリア・パスポート）を活用した教育活動を推進するため本事業を実施する。

⑴　3 年生(36 期生)

2021/3/11 現在		36 期生	東高で付けたい力自己評価						
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追究する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
3年次	1学期末	2.40	2.90	2.25	2.39	2.13	2.40	1.74	2.58
3年次	2学期末	2.84	2.95	2.41	2.57	2.33	2.58	1.93	2.93

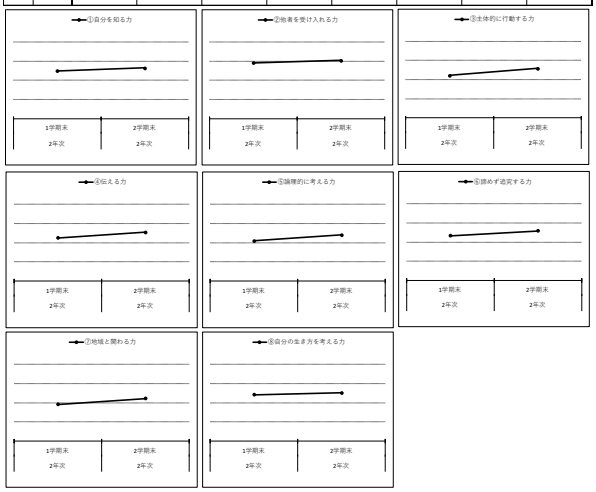


36 期生は 3 年次 1 学期末と 2 学期末の 2 回実施した。

全体的な傾向は1学期末から2学期末にかけて上昇を示しており、中でも、「①自分を知る力」や「⑧自分の生き方を考える力」を大きく伸ばしている。進路決定に向けて自分の将来をより具体的に考えるようになったことが推測される。

⑵　2 年生（37 期生）

2021/3/11 現在		37 期生	東高で付けたい力自己評価						
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追究する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
2年次	1学期末	2.49	2.91	2.22	2.25	2.09	2.33	1.92	2.42
2年次	2学期末	2.64	3.04	2.58	2.55	2.40	2.58	2.23	2.51

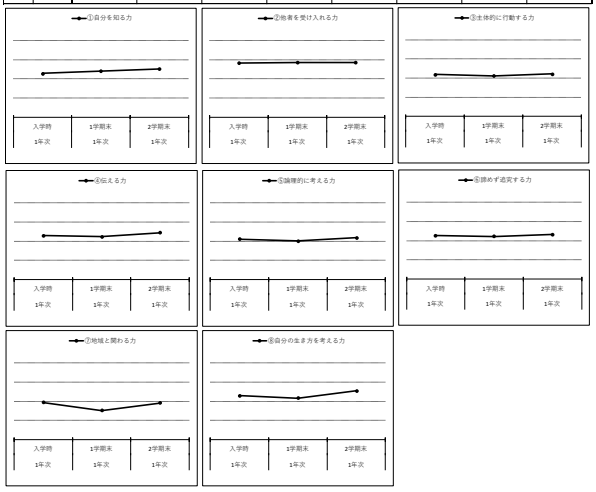


37 期生は 2 年次 1 学期末と 2 学期末の 2 回実施した。

全体的な傾向は1学期末から2学期末にかけて上昇を示しており、中でも「③主体的に行動する力」、「④伝える力」、「⑤論理的に考える力」、「⑦地域と関わる力」を大きく伸ばしている。生徒のコメントからも、総合的な探究の時間での「地域共創人育成 Project」が大きな要因となっていることが分かる。

⑶　1 年生（38 期生）

2021/3/11 現在		38 期生	東高で付けたい力自己評価						
		①自分を知る力	②他者を受け入れる力	③主体的に行動する力	④伝える力	⑤論理的に考える力	⑥諦めず追究する力	⑦地域と関わる力	⑧自分の生き方を考える力
1年次	入学時	2.28	2.83	2.19	2.30	2.12	2.26	1.94	2.29
1年次	1学期末	2.40	2.85	2.12	2.24	2.01	2.22	1.52	2.16
1年次	2学期末	2.52	2.85	2.22	2.45	2.18	2.32	1.91	2.54



38 期生は入学時と 1 年次 1 学期末(8 月上旬)、2 学期末の 3 回実施した。

全体的な傾向は入学時から 1 学期末にかけて下降、その後 2 学期末では上昇を示している。1 学期の間、新型コロナウイルス感染症予防のため、地域のイベントへの参加やグループ学習が制限されたことが下降の要因として考えられる。グループ学習が可能となった 2 学期では「④伝える力」、「⑤論理的に考える力」、総合的な探究の時間での活動によって「⑦地域と関わる力」が大幅に上昇している。また、「⑧自分の生き方を考える力」が大幅に上昇している要因としては2年次の文理選択の判断が求められたことによると推測される。

2　教職員の資質向上

(1)　授業改善のための公開授業・研修

「主体的・対話的で深い学び」にかかる研究では、研究授業を兼ねた教員研修を２回実施したが、新型コロナウィルス感染症の影響により先進校視察等は行えなかった。授業参観者には以下の 7 つの視点を提示し、それらの視点を踏まえて授業の感想・アドバイス等を授業参観記録に記入して提出することとしている。

【7 つの視点】　①安心感のもてる授業
②口頭での説明（指示の出し方）の工夫
③板書の工夫
④集団を意識した取組
⑤自己肯定感を持たせる取組
⑥言語活動の充実
⑦考えさせる取組

(2)　魅力化に関する教職員研修会

ア　令和２年度島根県高校魅力化アンケート活用研修

（主催：教育庁教育指導課地域教育推進室）

高校魅力化アンケートのねらいや概要を理解し、アンケート結果を「自校の振り返り」に活用したり、結果からの気づきを教職員同士で共有することで、 チームとして取り組み（次の一手）を検討したりすることをねらいとする。アンケート結果の読み取り方や自校の結果について自校の教職員や関係者に伝える。

実施日　令和 2 年 10 月 1 日

内　容　・全体での講義と学校ごとで結果を分析するワーク
・他校との共有

イ　第１回教職員研修会「高校魅力化アンケート活用研修会」

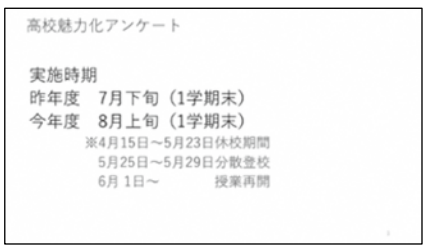
実施日　令和 2 年 11 月 18 日

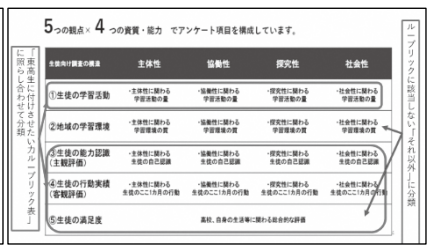
講師　教育指導課地域教育推進室　奥田麻衣子　教育魅力化支援員

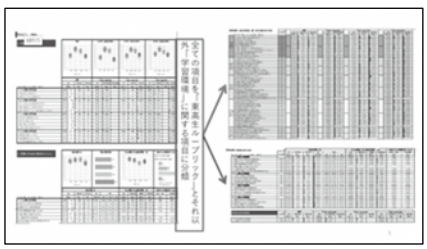
内容　1　アンケート概況及び表の見方等の説明、分析

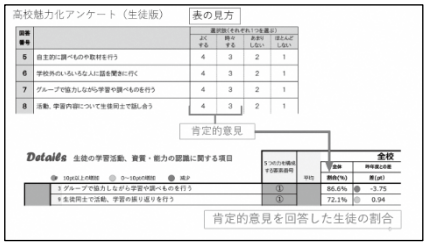
2　学年別ワークショップ
・魅力化アンケート「東高ルーブリック版」を参考に、今後半年でどのような指導が必要であるかを考える。
・各学年会を２グループに分け、話し合い。
・各グループでの発表

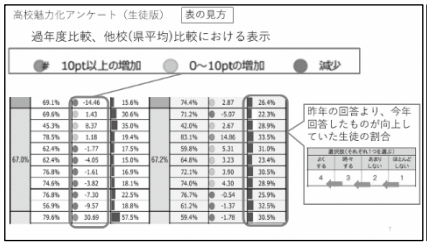
3　魅力化アンケートの意義、アンケート項目「学習環境」が生徒に及ぼす効果などについて

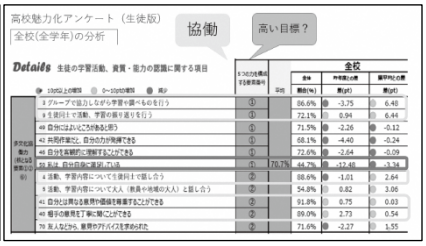


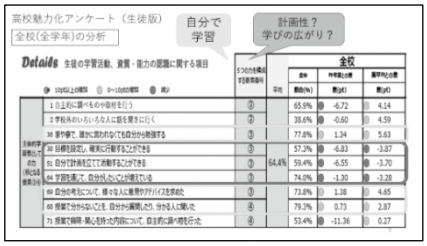


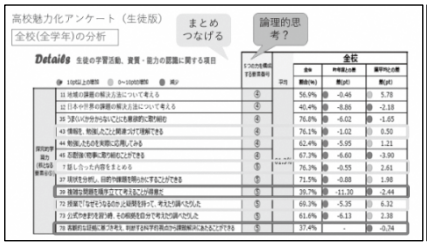












高校魅力化アンケート

学年別ワークショップ（30分）について

学年別のデータ(場合によっては裏面も)を参考に、今年残りの期間でどのような指導が必要かお考えください。

(1)学年主任・副主任の先生進行をお願いします。

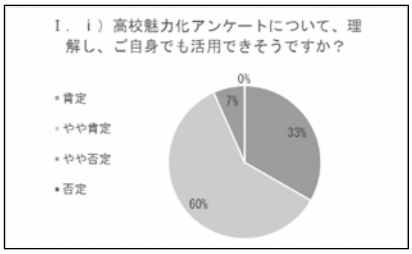
(2)記録係を各グループで決めてください。

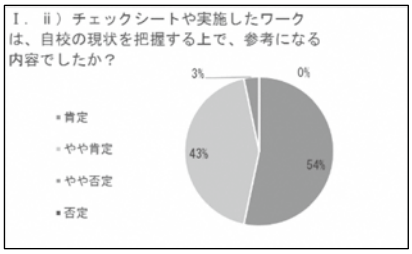
※記録係の方は、発言のキーワード等をホワイトボードにメモをしてください。(最後に残しておく必要はありません。)

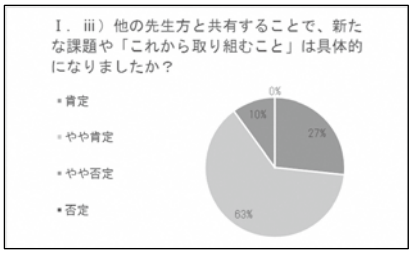
(3)各グループで１つのキーワードをホワイトボードに書いて、ご発表願います。

結果を読み取る視点の例

- 肯定的回答の割合は、「教員の感覚」、「目指す状態」と比べてどのように感じますか？
- 他学年に比べて、特徴的な違いはありませんか？
- (2，3年生は)前年からの変化はどうですか？それは何によって生じていると考えられますか？
- どの割合を、どこまで高めたいと感じますか？
- そのために、**今後どのようなことに意識して指導していく必要があると考えますか？**







問「今回の研修を受けて、これから取り組もうと考えていることがあればご記入ください。」

（一部抜粋）

- 生徒のより深い思考を促す、前向きになれるようなサポート。丁寧にやわらかく、かつ視点は鋭く。
- 行動をする!!生徒を変えるには、学校を変えるには、一番多くの時間を過ごす教育が何か積極的に働きかけることが大切だと思いました。
- 自分達の班ででた、「話し合いは必ずしも主体的・論理的とはいえない」が特に心に残り、話し合いをする目的をもう一度考えなおそうと思った。
- 生徒の”学びの好循環”を、担保していくためには、生徒の自己決定の機会を大切にしていくこと、他者を受け入れる受容的な雰囲気を生徒とともにつくっていくこと。
- 総合的な探究の時間の成果をいかに生徒の進路意識や日常につなげていくかを工夫する。

・ボランティア、地域の行事への参加など自発的に取り組む意識を持たせるためのしかけを考える。
・与えられたことをやるだけでなく、自分で必要なことを考えて行動するように意識させる。
・根拠をもって人に提示、話をしていくことを意識して授業を行う。
・生徒の自己有用感を高めるということ、またスキルの面で、順序立てて考えたり、客観的な証拠に基づいて考えたりという点など、授業や生徒との関わりの中で工夫して取り組もうと思う。
・多様な価値観を認めたり相手を認めるというのが弱いと感じるので、残りの受験生活を通して、その力を強めさせたい。
・学びなどに対して、生徒の自主性を高めるための取組み（分からない事や発展にようについて自ら進んで取り組む）
・生徒の論理的思考力を向上させる授業を考える。
・その都度伸ばしたい力を意識しながら（させながら）取り組んでいきたい。

ウ　第２回教職員研修会「令和４年度グランドデザイン校内研修」

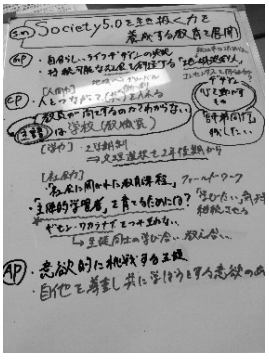
実施日　令和３年２月 22 日（月）

内容　令和４年度からの新学習指導要領実施に向け、各校の目指す方向や特色を明確にして教育活動を体系化するとともに、それらを生徒や教職員、地域社会と共有するため、学校教育の全体構想図「グランドデザイン」を策定する。

1　グループに分かれて、対話を通して現在の「たたき台」を考察する。
- スクールミッションに関すること
- グラデュエーション・ポリシーの検討
- カリキュラム・ポリシーの検討　(1)人間力 (2)学力 (3)社会力
- アドミッション・ポリシーの検討
- その他

2　考察の過程で、「順序を変える、表現を変える、付け足す等」の作業を行う。

3　全体で共有



(3) 魅力化に関する教職員アンケート

1．調査概要

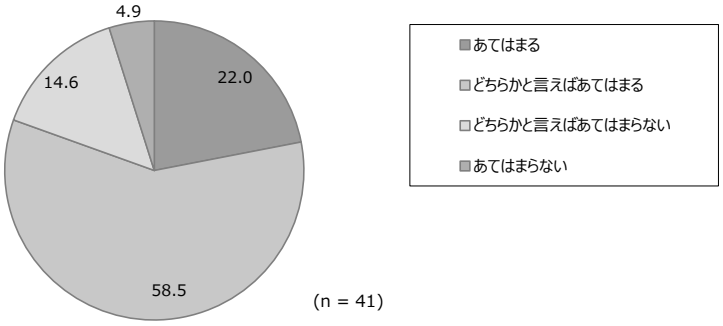
調査期間	第2回　令和3年1月25日（月）～2月2日（火）
調査方法	Google Formによる WEB回答
調査対象	松江東高校に勤務する教職員：47名
回答数／回答率	41名／87.2%

2．調査結果

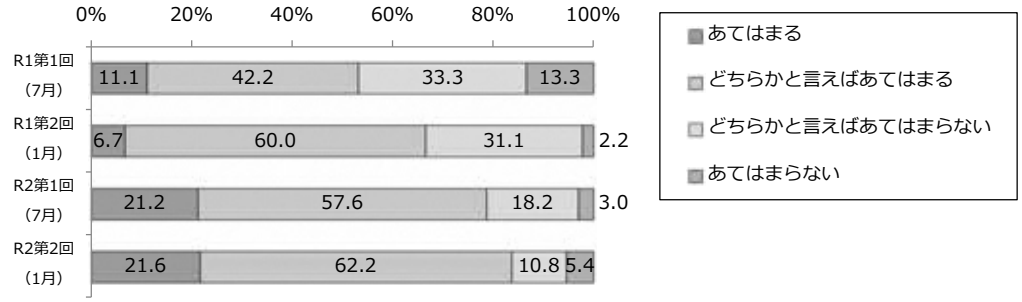
（1）高校魅力化への理解度

問1．平成31年2月に島根県が示した「県立高校魅力化ビジョン」の内容を理解している。

「県立高校魅力化ビジョン」の内容の理解度は80.5%で、前回の約74%より増加した。

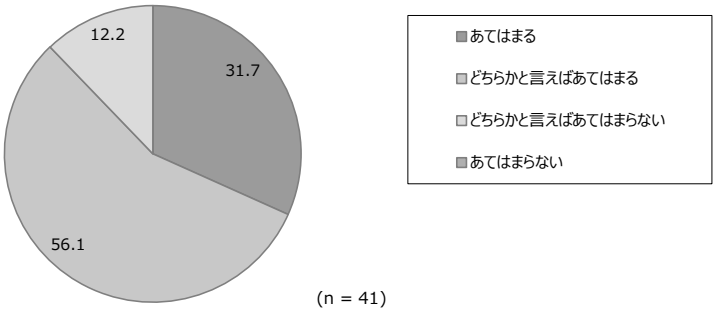


■前回との比較（事務部の回答を除く）

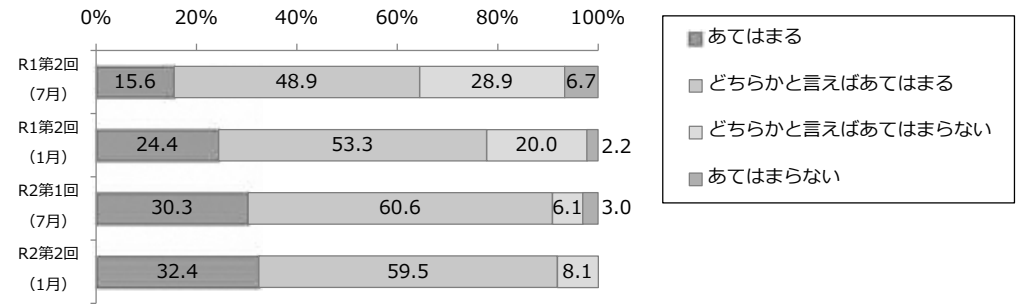


問2．松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを理解している。

松江東高校の魅力化・特色化のビジョンは87.8%が一定程度理解しており、前回の約86%より増加した。

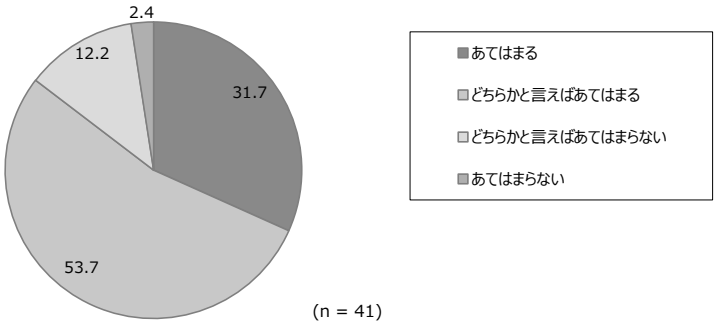


■前回との比較（事務部の回答を除く）

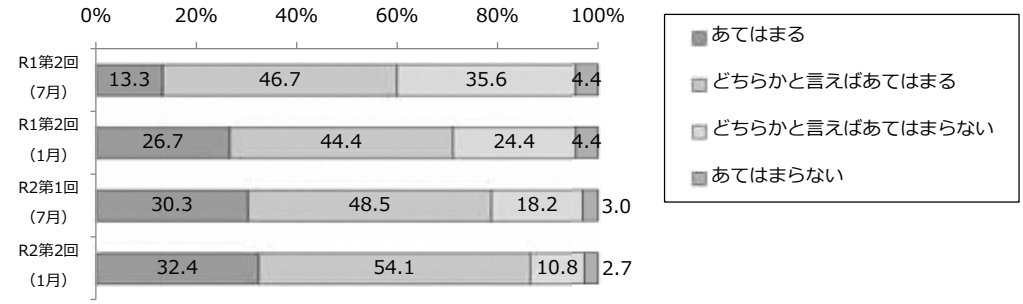


問３．松江東高校が育成する生徒像として掲げる「地域共創人」の意味を理解している。

「地域共創人」の意味は 85.4%が一定程度理解しており、前回の約 77%より増加した。

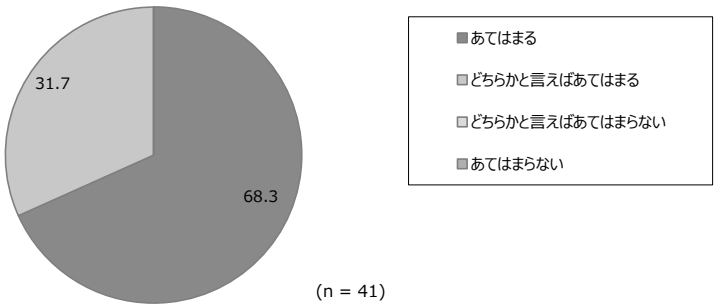


■前回との比較（事務部の回答を除く）

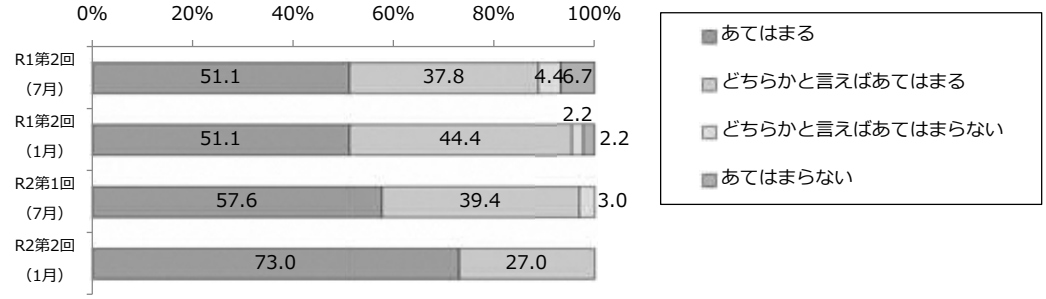


問４．県内高校の魅力化・特色化の取組みは教科指導も含まれると思う。

100%が高校魅力化・特色化の取組みは教科指導も含まれると思うと回答しており、前回の約 97%より増加した。



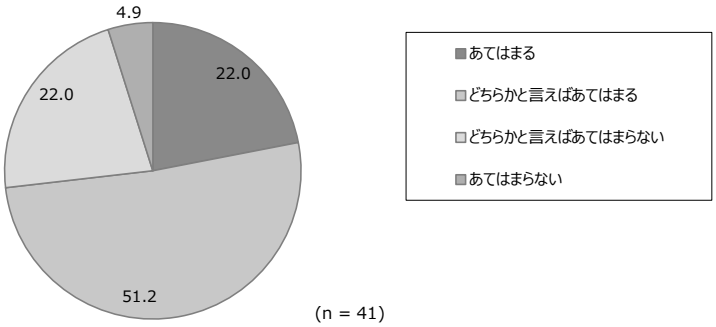
■前回との比較（事務部の回答を除く）



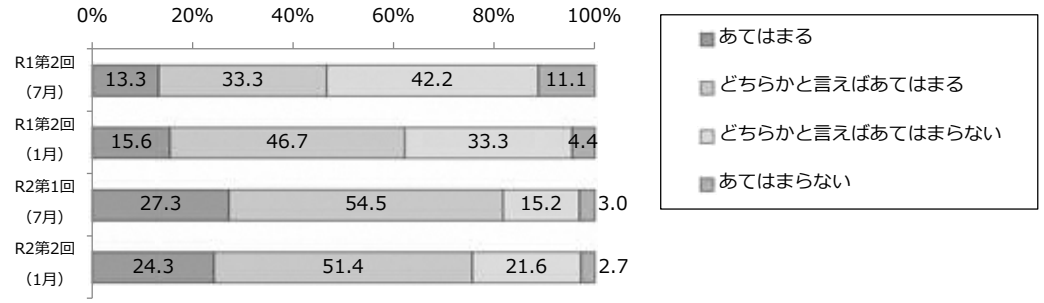
（２）高校魅力化への取組み状況

問５．松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを意識し、主体的に行動している。

松江東高校の魅力化・特色化のビジョンを意識し、主体的に行動している教職員の割合は 73.2％となっており、前回の約 77％より減少した。

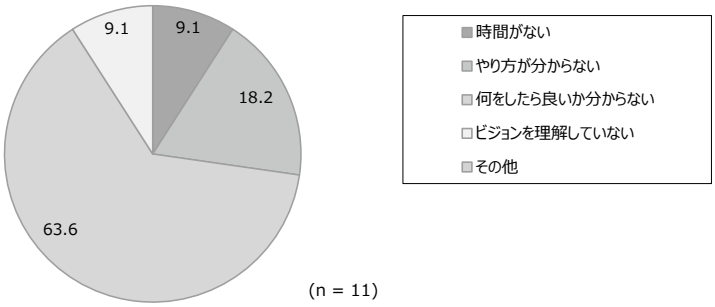


■前回との比較（事務部の回答を除く）



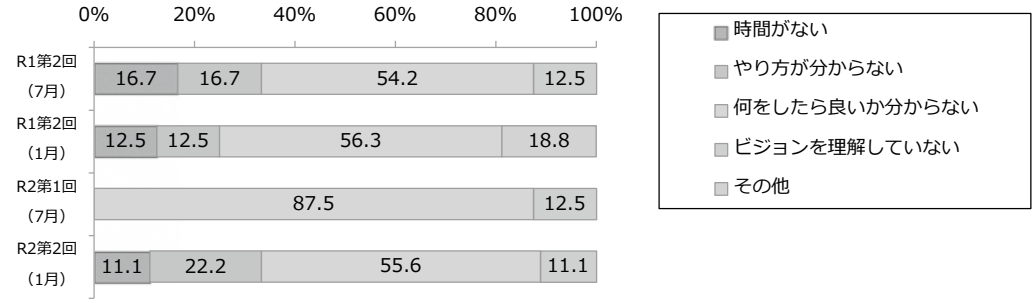
問６．問５で「どちらかと言えばあてはまらない」または「あてはまらない」と回答した方にお聞きします。行動していない理由は何ですか。

- 主体的に行動できていない教職員のうち、行動しない理由として「何をしたら良いか分からない」が前回の 80.0％に引き続き最も多く、63.6％となった。
- 「時間がない」、「やり方がわからない」という教職員が前回調査 0％からそれぞれ 9％、18％に増加した。



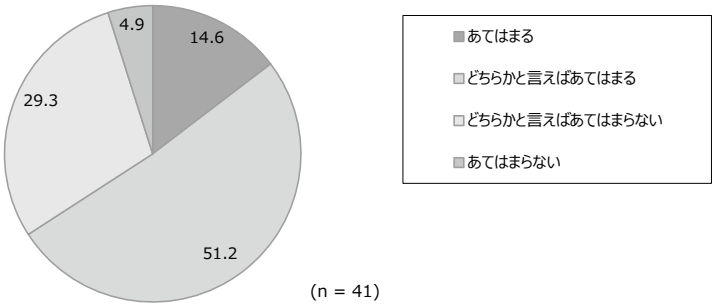
(n = 11)

■前回との比較（事務部の回答を除く）



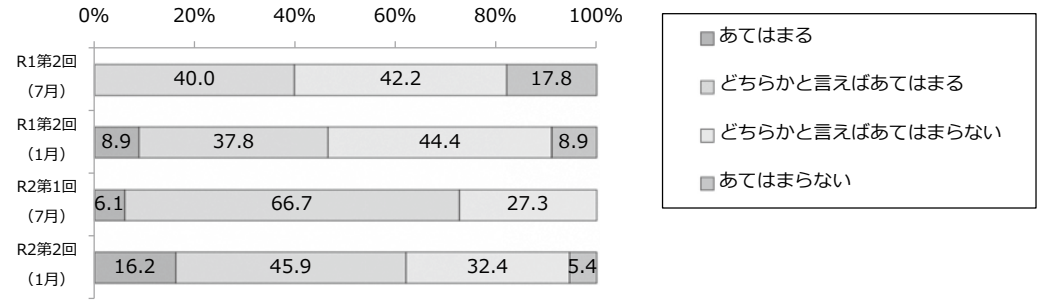
問７．松江東高校として学校が一体となって魅力化・特色化に取り組めていると思う。

松江東高校として学校が一体となって取り組めていると回答した教職員は、65.8%となっており、前回の約71%から減少した。



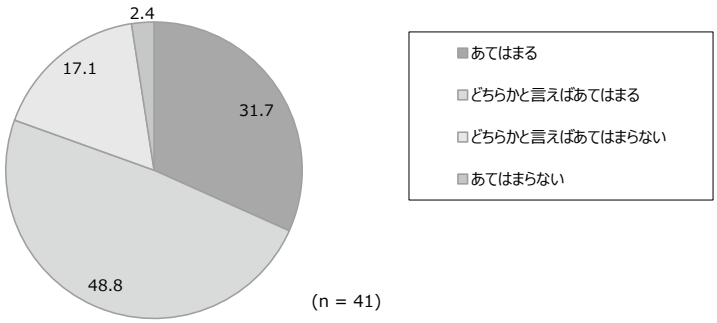
(n = 41)

■前回との比較（事務部の回答を除く）

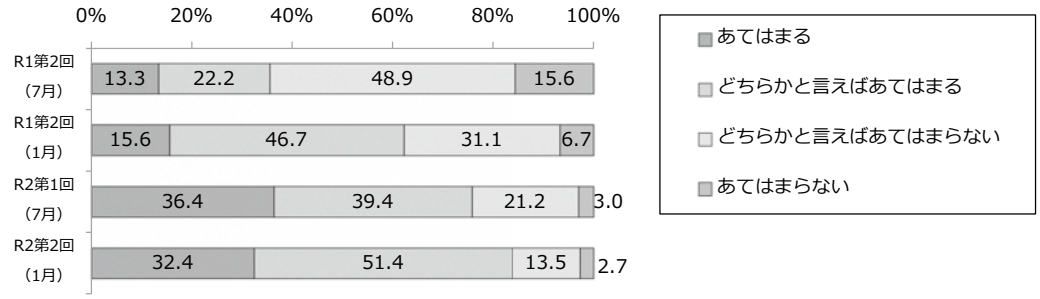


問８．松江東高校の魅力化・特色化の取り組みの中で、自分が果たすべき役割を理解している。

松江東高校の魅力化・特色化の取り組みの中で、自分が果たすべき役割を理解している教員は80.5%となっており、前回の約 71%より増加した。

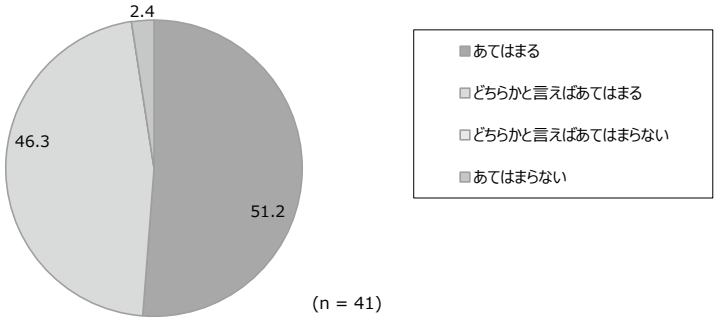


■前回との比較（事務部の回答を除く）

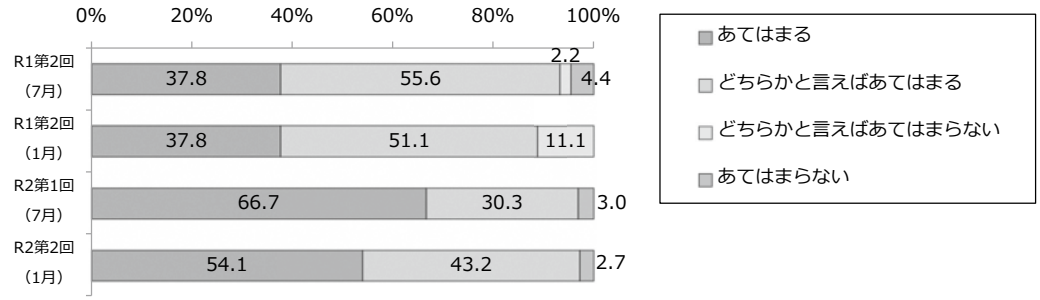


問９．松江東高校の魅力化・特色化は今後も進めるべきだと思う。

松江東高校の魅力化･特色化を今後も進めるべきだと回答した教職員の割合は97.5%を占め、前回の約 94%から増加した。

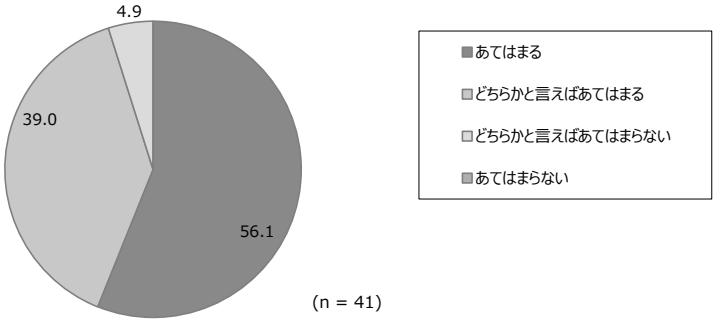


■前回との比較（事務部の回答を除く）

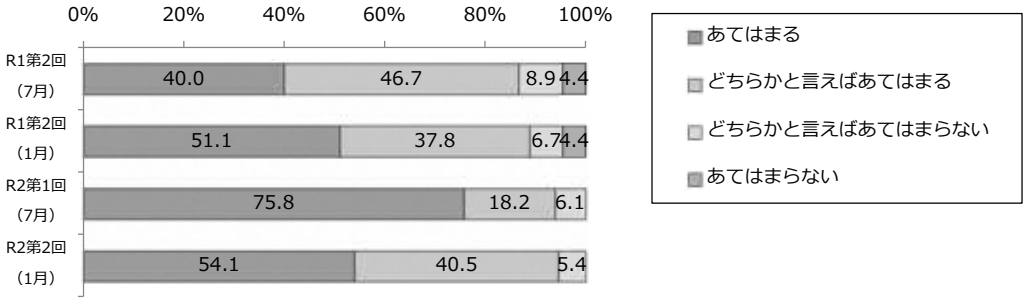


問 10．地域の課題解決につながる能力を生徒が身に付けることは大切だと思う。

生徒が地域課題解決の能力を身に付けることについて、95.1％が大切だと思うと回答しており、前回の約 94%から増加した。

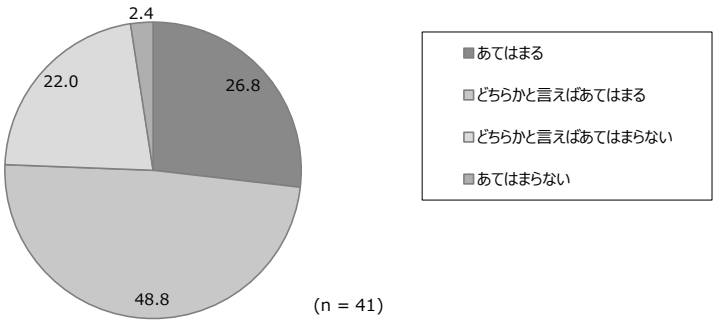


■前回との比較（事務部の回答を除く）

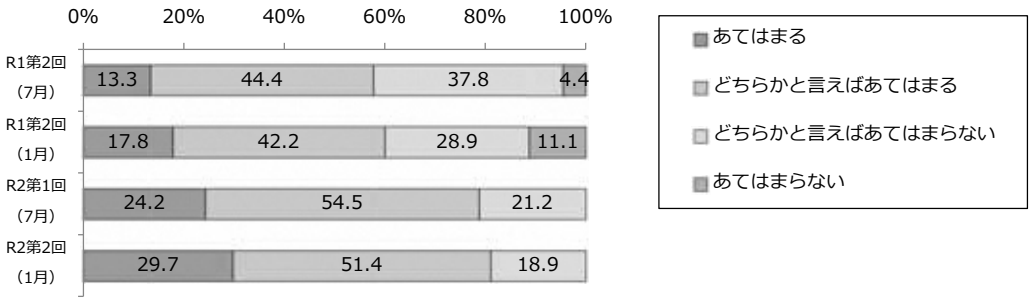


問 11. 生徒の探究的な学びを促す機会を提供できるような手法を日々考え続けている。

75.6%の教職員が、生徒の探究的な学びを促す機会を提供できるような手法を日々考え続けていると回答し、前回の約 74%から増加した。

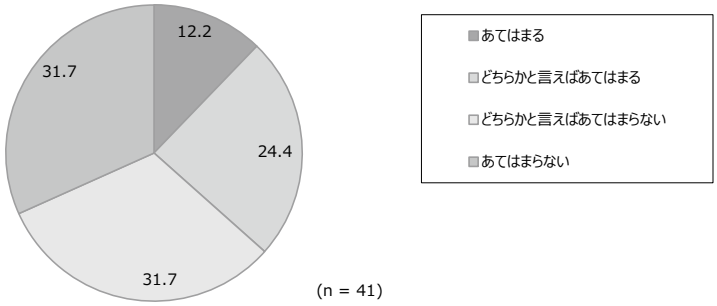


■前回との比較（事務部の回答を除く）

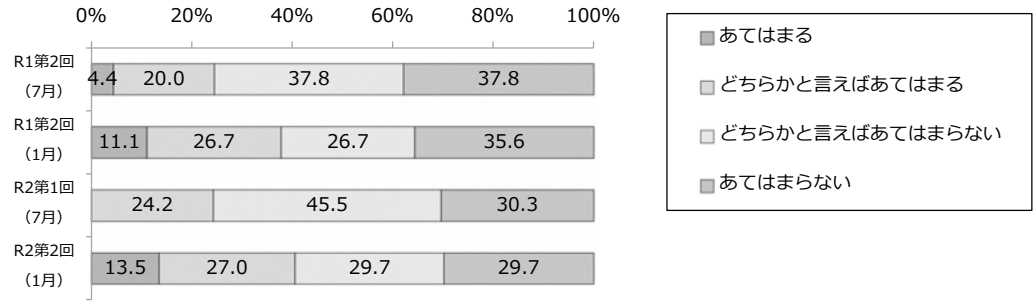


問 12. 高校の周辺地域や自分が居住する地域のイベント等に積極的に参加している。

高校の周辺地域や自分が居住する地域のイベント等に積極的に参加していると回答した教職員は 36.6%と前回の約 23%から増加した。



■前回との比較（事務部の回答を除く）



問 13. 本校のより良い魅力化・特色化の取り組みに向けて、ご意見があれば教えてください。

・地域に積極的にでて、活動をするべきだと思う。
・基本はやはり教科の学習である。3 年の面談・小論指導で地域の理解への先に、その辺りの不勉強さ（生徒）を目の当たりにしました。
・形が少しずつ出来上がってきていると思うので、それを土台にあまり変更させすぎないように。2 年は研修旅行がなかったが、研修旅行と結びつけることも大事なポイント。

3　持続可能な学校魅力化事業研究及び今後の課題

(1)　令和 3 年度以降の持続可能なコンソーシアムの構築について

・教職員の異動があっても持続できる校内体制の構築について
　コーディネーター雇用について検証
　財源及び人材確保
・コンソーシアム関係団体のメリットの創出
　Win-Win の関係構築に向けた仕組みの試行（HP バナー広告、新人社員研修等）

(2)　指導上の課題

・地域との協働による探究的な学びを進めていく上で、学習者である生徒自身が自分事として主体的に取り組み、学ぶ意欲の向上と発展につながる仕組みを引き続き検討していく必要がある。
・教員においても地域と協働した探究的な学びの必要性が概ね認識されてきた。今後、教員がより意欲的に取り組むよう、研修の機会を設けるなど考えていきたい。
・探究的な学びを教科指導に取り入れることは進んでいるが、各教科の知識・技能を探究学習に取り入れる部分については課題が残る。教科横断的な学びや総合的な探究の時間と各教科との連携をさらに深化していく必要がある。

【関係資料】

・コンソーシアム規約

・教育課程表

・課題研究テーマ一覧

・高校魅力化評価システム診断結果チェックシート

松江東高等学校魅力化コンソーシアム　規約

（名称）
第１条 本コンソーシアムの名称は「松江東高等学校魅力化コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）」とする。

（目的）
第２条　コンソーシアムは、松江東高等学校が目標とする未来の地域を担う人材である「地域共創人」の育成と生徒により良い学びを提供するための環境づくりを目指して、企業、自治体、高等教育機関等の地域の多様な関係者と生徒、保護者、教職員、同窓会等の松江東高等学校関係者とが、協働体制を構築することにより、主体的・創造的な対話を行いながら、松江東高等学校の学校教育をより良いものにしていくことを目的とする。

（協働事業）
第３条　コンソーシアムは前条の目的を達成するため、次の協働事業を行う。
　一　生徒や教職員にとって魅力的な学校づくりに関すること
　二　社会に開かれた教育プログラムの研究・開発に関すること
　三　松江東高等学校を応援するサポーターの獲得に関すること
　四　松江東高等学校の魅力の対外的な情報発信に関すること
　五　コンソーシアムの持続化のための仕組みづくりに関すること

（組織）
第４条　コンソーシアムは松江東高等学校と別表１に掲げる地域との協働活動に関わる団体等（以下「構成団体等」という。）により組織する。
２　　コンソーシアムには、協働事業の方針を審議する役員会と、具体的な協働活動を行うワーキンググループを置く。
３　　コンソーシアムには連絡調整を行う事務局を置く。

（役員会）
第５条　役員会の役員は構成団体等が原則１名を推挙し、校長が委嘱する。
２　　役員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
３　　役員会に次の役職をおく。
　一　会長　　１名
　二　副会長　１名
４　　会長及び副会長は役員の互選によりこれを定める。

（会長、副会長の職務）
第６条　会長は、会務を総理し、コンソーシアム及び役員会を代表する。
２　　副会長は会長を補佐し、会長に事故等があるときは、その職務を代理する。
３　　会長は事務局員より事務局長を選任する。

（役員会の運営）
第７条　役員会は、会長が校長と協議の上、招集する。ただし、緊急を要する場合においては、この限りでない。
２　　役員会は原則年３回開催する。
３　　役員会の議長は会長をもって充てる。
４　　役員会は、役員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
５　　役員は自己の利害に関係する議事に参与することができない。
６　　役員会の議事は、出席役員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

（役員会の承認等）
第８条　会長は、第３条に掲げる協働事業について、役員会の承認を得るものとする。
２　　役員会は、各ワーキンググループでの活動や決定事項について共有・振り返り・熟議することで、地域共創人の育成に向けたよりよい取組の推進のための連絡・調整・支援を行う。

（ワーキンググループ）
第９条　ワーキンググループはコンソーシアムの協働活動の場とする。
２　　各ワーキンググループにおいて、グループリーダーを置く。
３　　各ワーキンググループの事業方針は役員会において決定し、校長と協議のうえ実施する。
４　　ワーキンググループを新たに立ち上げる場合は、役員会で決定する。

（事務局）
第１０条　松江東高等学校に事務局を置き、コンソーシアムに関する事務を処理する。

（規約の変更等）
第１１条　この規約は、役員会の議事を経なければ変更することはできない。
２　この規約に定めるもののほか、コンソーシアムの運営に関し必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。

別表１（第４条関係）

団体名等	
島根県立松江東高等学校	松江市
松江東高等学校ＰＴＡ	松江市教育委員会
松江東高等学校東雲会	松江商工会議所
松江東高等学校嵩の嶺会	島根県中小企業家同友会
国立大学法人島根大学	島根県教育委員会

付則　この規約は、令和元年１２月４日より施行する。

島根県立松江東高等学校教育課程表（令和２年度入学生）

課程	学科	類型の名称
全日制	普通科	

教科	科目	標準単位数	学年別単位数 1年	2年 文系	2年 理系	3年 文系	3年 理系	単位数計	備考
国語	国語総合	4	5					5	
	現代文B	4		2	2	3	2	4～5	
	古典B	4		3	3	3	2	5～6	
	現代文A	2				ｳ2		0～2	
地理歴史	世界史A	2						0～2	※1
	世界史B	4						0～6	
	日本史A	2		2	2	3	4	0～2	
	日本史B	4		3	2			0～6	
	地理A	2						0～2	
	地理B	4						0～6	
	世界史B探究	学校設定科目				エ1		0～1	
	日本史B探究	学校設定科目						0～1	
	地理B探究	学校設定科目						0～1	
	世界史探究	学校設定科目				ｱ3		0～3	
	日本史探究	学校設定科目				ｱ3		0～3	
公民	現代社会	2	2					2	
	公民探究A	学校設定科目				ｱ3		0～3	
	公民探究B	学校設定科目				ｱ3		0～3	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	1年次の数学Ⅱ1単位は数学Ⅰの履修終了後に履修する 2年次理系の数学Ⅲ1単位は数学Ⅱの履修終了後に履修する
	数学Ⅱ	4	1	3	3			4	
	数学Ⅲ	5			1		5	0～6	
	数学A	2	2					2	
	数学B	2		3	2			2～3	
	数学探究A	学校設定科目				3		0～3	
	数学探究B	学校設定科目				ｲ3		0～3	
	数学探究C	学校設定科目					2	0～2	
理科	物理基礎	2	2					2	※2
	物理	4						0～6	
	化学基礎	2		2	2			2	
	化学	4			2	2	4	0～6	
	生物基礎	2	2					2	
	生物	4						0～6	
	化学探究	学校設定科目				ｳ2		0～2	
	生物探究	学校設定科目				2		0～2	
保健体育	体育	7～8	3	2	2	2	2	7	
	保健	2	1	1	1			2	
芸術	音楽Ⅰ	2						0～2	各科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、Ⅰの履修終了後にⅡを履修し、Ⅱの履修終了後にⅢを履修する。
	音楽Ⅱ	2		ｱ2				0～2	
	美術Ⅰ	2	2					0～2	
	美術Ⅱ	2		ｱ2				0～2	
	書道Ⅰ	2						0～2	
	書道Ⅱ	2		ｱ2				0～2	
	書道Ⅲ	2				ｳ2		0～2	
外国語	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ	3	3					3	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ	4		4	3			3～4	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ	4				4	4	4	
	英語表現Ⅰ	2	3					3	
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2	4	
	EAST国際交流基礎	学校設定科目		ｱ2				0～2	
	EAST国際交流	学校設定科目				ｲ3		0～3	
家庭	家庭基礎	2	2					2	
情報	社会と情報	2		2	2			2	
共通教科・科目単位数計			31	29～31	31	25～31	31	85～93	
家庭	子どもの発達と保育	2～6		ｱ2				0～2	
	服飾手芸	2～4		ｱ2				0～2	
	ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～6				ｳ2		0～2	
音楽	音楽理論	2～15				ｳ2		0～2	
	ソルフェージュ	2～6				ｱ3		0～3	
美術	素描	2～18				ｳ2		0～2	
	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～18				ｱ3		0～3	
EAST地域探究	EAST地域探究	学校設定科目				エ1		0～1	
	データサイエンス	学校設定科目		ｱ2				0～2	
	EASTプログラミング基礎	学校設定科目				ｳ2		0～2	
専門教科・科目単位数計			0	0～2	0	0～6	0	0～8	
総合的な探究の時間		3～6	1	1	1	1	1	3	
ホームルーム活動週当たり時数			1	1	1	1	1	3	
単位数及び週当たり時数の合計			33	33	33	33	33	99	
学校設定科目単位数計			0	0～2	0	9～14	2	2～14	

※1　２年地理歴史で、「世界史Ｂ」を履修するものは「日本史Ａ」または「地理Ａ」を履修する。
「日本史Ｂ」または「地理Ｂ」を履修するものは「世界史Ａ」を履修する。
「世界史Ｂ」「日本史Ｂ」「地理Ｂ」については、２～３年次の継続履修とする
３年文系のア選択について、次の点に留意する。
地歴２科目選択の場合、「日本史Ｂ」または「地理Ｂ」を履修するものは「世界史探究」を履修し、
「世界史Ｂ」を履修するものは「日本史探究」を履修する。
公民選択の場合、「公民探究Ａ」または「公民探究Ｂ」を履修する。
芸術選択の場合、芸術系大学等の希望者に限り「ソルフェージュ」または「ビジュアルデザイン」を履修する。
３年文系のエ選択について、次の点に留意する。
地歴Ｂ探究を選択する場合、「世界史Ｂ」を履修するものは「世界史Ｂ探究」を履修し、「日本史Ｂ」を履修するものは「日本史Ｂ探究」を履修し、「地理Ｂ」を履修するものは「地理Ｂ探究」を履修する。

※2　２年理系は、「化学基礎」の履修後に「化学」を履修する。
理系の「生物」「物理」については、２～３年次の継続履修とする。

※3　２年文系は、アの中から1つ選択すること。ただし、芸術を履修する場合は１年で履修した科目を継続履修とする。

※4　３年文系は、アの中から1つ、イの中から１つ、ウの中から１つ、エの中から１つ選択する。

島根県立松江東高等学校教育課程表（平成３１(令和元)年度入学生）

課程	学科	類型の名称
全日制	普通科	

教科	科目	標準単位数	学年別単位数 1年	2年 文系	2年 理系	3年 文系	3年 理系	単位数計	備考
国語	国語総合	4	5					5	
	現代文B	4		2	2	3	2	4～5	
	古典B	4		3	3	3	2	5～6	
	現代文A	2				ｳ2		0～2	
地理歴史	世界史A	2						0～2	※1
	世界史B	4						0～7	
	日本史A	2		2	2			0～2	
	日本史B	4		3	2	4	4	0～7	
	地理A	2						0～2	
	地理B	4						0～7	
	世界史探究	学校設定科目				ｱ3		0～3	
	日本史探究	学校設定科目				ｱ3		0～3	
公民	現代社会	2	2					2	
	公民探究A	学校設定科目				ｱ3		0～3	
	公民探究B	学校設定科目				ｱ3		0～3	
数学	数学Ⅰ	3	3					3	1年次の数学Ⅱ1単位は数学Ⅰの履修終了後に履修する 2年次理系の数学Ⅲ1単位は数学Ⅱの履修終了後に履修する
	数学Ⅱ	4	1	3	3			4	
	数学Ⅲ	5			1		5	0～6	
	数学A	2	2					2	
	数学B	2		3	2			2～3	
	数学探究A	学校設定科目				3		0～3	
	数学探究B	学校設定科目				ｲ3		0～3	
	数学探究C	学校設定科目					2	0～2	
理科	物理基礎	2	2					2	※2
	物理	4						0～6	
	化学基礎	2		2	2			2	
	化学	4			2 2		4 4	0～6	
	生物基礎	2	2					2	
	生物	4						0～6	
	化学探究	学校設定科目				ｳ2		0～2	
	生物探究	学校設定科目				2		0～2	
保健体育	体育	7～8	3	2	2	2	2	7	
	保健	2	1	1	1			2	
芸術	音楽Ⅰ	2	2					0～2	各科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、Ⅰの履修終了後にⅡを履修し、Ⅱの履修終了後にⅢを履修する。
	美術Ⅰ	2						0～2	
	書道Ⅰ	2						0～2	
	書道Ⅱ	2		ｱ2				0～2	
	書道Ⅲ	2				ｳ2		0～2	
外国語	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ	3	3					3	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ	4		4	3			3～4	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ	4				4	4	4	
	英語表現Ⅰ	2	3					3	
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2	4	
	EAST国際交流基礎	学校設定科目		ｱ2				0～2	
	EAST国際交流	学校設定科目				ｲ3		0～3	
家庭	家庭基礎	2	2					2	
情報	社会と情報	2		2	2			2	
共通教科・科目単位数計			31	29～31	31	26～31	31	86～93	
家庭	子どもの発達と保育	2～6				ｳ2		0～2	
	服飾手芸	2～4		ｱ2				0～2	
	ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～6		ｱ2				0～2	
音楽	音楽理論	2～15				ｳ2		0～2	
	演奏研究	2～6		ｱ2				0～2	
	ソルフェージュ	2～6				ｱ3		0～3	
美術	素描	2～18				ｳ2		0～2	
	構成	2～6		ｱ2				0～2	
	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～18				ｱ3		0～3	
EAST地域探究	EAST地域探究	学校設定科目				ｳ2		0～2	
	データサイエンス	学校設定科目		ｱ2				0～2	
	EASTプログラミング基礎	学校設定科目				ｳ2		0～2	
専門教科・科目単位数計			0	0～2	0	0～5	0	0～7	
総合的な探究の時間		3～6	1	1	1	1	1	3	
ホームルーム活動週当たり時数			1	1	1	1	1	3	
単位数及び週当たり時数の合計			33	33	33	33	33	99	
学校設定科目単位数計			0	0	0	5～13	2	2～13	

※1　「世界史A」または「世界史B」を必ず選択すること
「世界史A」を履修するものは「日本史B」または「地理B」を履修し、「世界史B」を履修するものは「日本史A」または「地理A」を履修する。
「世界史B」「日本史B」「地理B」については、２～３年次の継続履修とする
３年次のアの地歴科目の選択については、「日本史B」または「地理B」を履修するものは「世界史探究」を履修し、「世界史B」を履修するものは「日本史探究」を履修する。

※2　２年理系は、「化学基礎」の履修後に「化学」を履修する
理系の「生物」「物理」については、２～３年次の継続履修とする

※3　２年文系は、アの中から1つ選択すること

※4　３年文系は、アの中から1つ、イの中から１つ、ウの中から１つ選択すること

島根県立松江東高等学校教育課程表（平成３０年度入学生）

課程	学科	類型の名称
全日制	普通科	

教科	科目	標準単位数	学年別単位数						単位数計	備考
			1年	2年		3年				
				文系	理系	文系	理系			
国語	国語総合	4	5						5	
	現代文Ｂ	4		2	2	3	2		4～5	
	古典Ｂ	4		3	3	3	2		5～6	
	現代文Ａ	2				ｳ2			0～2	
地理歴史	世界史Ａ	2							0～2	※1
	世界史Ｂ	4							0～8	
	日本史Ａ	2		2	2	5		4	0～2	
	日本史Ｂ	4		3	2				0～8	
	地理Ａ	2							0～2	
	地理Ｂ	4							0～8	
	世界史探究	学校設定科目				ｱ3			0～3	
	日本史探究	学校設定科目				ｱ3			0～3	
公民	現代社会	2	2						2	
	公民探究Ａ	学校設定科目				ｱ3			0～3	
	公民探究Ｂ	学校設定科目				ｱ3			0～3	
数学	数学Ⅰ	3	3						3	1年次の数学Ⅱ1単位は数学Ⅰの履修終了後に履修する 2年次理系の数学Ⅲ1単位は数学Ⅱの履修終了後に履修する
	数学Ⅱ	4	1	3	3				4	
	数学Ⅲ	5			1			5	0～6	
	数学Ａ	2	2						2	
	数学Ｂ	2		3	2				2	
	数学探究Ａ	学校設定科目				3			0～3	
	数学探究Ｂ	学校設定科目				ｲ2			0～2	
	数学探究Ｃ	学校設定科目						2	0～2	
理科	物理基礎	2	2						2	※2
	物理	4							0～6	
	化学基礎	2		2	2				2	
	化学	4			2 2			4 4	0～6	
	生物基礎	2	2						2	
	生物	4							0～6	
	化学探究	学校設定科目				ｳ2			0～2	
	生物探究	学校設定科目				2			0～2	
保健体育	体育	7～8	3	2	2	2	2		7	
	保健	2	1	1	1				2	
芸術	音楽Ⅰ	2							0～2	各科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては、Ⅰの履修終了後にⅡを履修し、Ⅱの履修終了後にⅢを履修する。 ※3
	美術Ⅰ	2	2						0～2	
	書道Ⅰ	2							0～2	
	書道Ⅱ	2		ｱ2		ｳ2			0～2	
	書道Ⅲ	2				ｳ2			0～2	
外国語	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅰ	3	3						3	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅱ	4		4	3				3～4	
	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ英語Ⅲ	4				4	4		4	
	英語表現Ⅰ	2	3						3	
	英語表現Ⅱ	4		2	2	2	2		4	
	英語会話	2				ｲ2			0～2	
家庭	家庭基礎	2	2						2	
情報	社会と情報	2		2	2				2	
共通教科・科目単位数計			31	29～31	31	26～31	31		86～93	
家庭	子どもの発達と保育	2～6				ｳ2			0～2	
	服飾手芸	2～4		ｱ2					0～2	
	ﾌｰﾄﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～6		ｱ2					0～2	
音楽	音楽理論	2～15				ｳ2			0～2	
	演奏研究	2～6		ｱ2					0～2	
	ソルフェージュ	2～6				ｱ3			0～3	
美術	素描	2～18				ｳ2			0～2	
	構成	2～6		ｱ2					0～2	
	ﾋﾞｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ	2～18				ｱ3			0～3	
専門教科・科目単位数計			0	0～2	0	0～5	0		0～7	
総合的な学習の時間		3～6	1	1	1	1	1		3	
ホームルーム活動週当たり時数			1	1	1	1	1		3	
単位数及び週当たり時数の合計			33	33	33	33	33		99	
学校設定科目単位数計			0	0	0	5～12	2		2～12	

※1　「世界史Ａ」または「世界史Ｂ」を必ず選択すること
「世界史Ｂ」「日本史Ｂ」「地理Ｂ」については、２～３年次の継続履修とする
３年次のアの地歴科目の選択については、「日本史Ｂ」または「地理Ｂ」を履修するものは「世界史探究」を履修し、「世界史Ｂ」を履修するものは「日本史探究」を履修する。

※2　２年理系は、「化学基礎」の履修後に「化学」を履修する
理系の「生物」「物理」については、２～３年次の継続履修とする

※3　３年文系の書道Ⅱ・Ⅲの選択履修については、２年次に書道Ⅱを履修した者は書道Ⅲを履修し、２年次に書道Ⅱを履修していない者は、書道Ⅱを履修する。

※4　２年文系は、アの中から1つ選択すること

※5　３年文系は、アの中から1つ、イの中から１つ、ウの中から１つ選択すること

1年生「総合的な探究の時間」成果発表ポスターセッション

メインテーマ
withコロナにおける社会問題を探究する。

			松江市該当分掌		
通番	生徒班	探究テーマ	部	課	係
1	11R医療	VRを活用したオンラインお見舞い	健康	保健衛生	医事・結核
2	11R観光Ⅰ	観光客を増やすためのサービスとは	観光振興	観光文化	観光
3	11R観光Ⅱ	旅館に宿泊する人を取り戻すためには	観光振興	観光文化	観光
4	11R教育	マスク無しで授業を受けるには	教育委員会		
5	11R経済Ⅰ	飲食店を救うには	産業経済	商工企画	企画振興
6	11R経済Ⅱ	飲食業界を救うには	産業経済	商工企画	企画振興
7	11Rスポーツ	大会の充実や発表の場の確保をするためには	政策	スポーツ	振興
8	11R製造	商品の販路開拓を考える。	産業経済	まつえ産業支援センター	産業支援
9	12R医療	医療現場を救うには	健康	保健衛生	医事・結核
10	12R環境	聴覚障がい者とのコミュニケーションについて	福祉部	障がい者福祉課	障がい者政策
11	12R観光Ⅰ	観光業を盛り上げるには	観光振興	観光文化	観光
12	12R観光Ⅱ	国内向けに、キャンプ場で観光客を誘致するには	観光振興	観光施設	施設
13	12R教育	生徒と教師の負担軽減するためには	教育委員会		
14	12R経済	飲食業界の収益を上げるには	産業経済	商工企画	企画振興
15	12R国際	外国人労働者の就業支援について	産業経済	定住企業立地推進	定住雇用推進
16	12Rスポーツ	オンライン観戦の実施方法について	政策	スポーツ	振興
17	13R医療	病院におけるICT活用について	健康	保健衛生	医事・結核
18	13R環境	市街地にゴミ箱を設置して街の環境美化	環境保全	リサイクル都市推進	美化推進
19	13R観光	観光客に実際に来てもらうためには	観光振興	観光文化	観光
20	13R教育Ⅰ	島根の中高生の修学旅行について	教育委員会		
21	13R教育Ⅱ	新しい学校行事の在り方について	教育委員会		
22	13R経済	島根の飲食店を盛り上げる	産業経済	商工企画	企画振興
23	13R国際	サプライチェーンの国内回帰	産業経済	まつえ産業支援センター	産業支援
24	13Rスポーツ	プロスポーツのオンライン観戦について	政策	スポーツ	振興
25	14R医療	病院を楽しめる場所にするためには	健康	保健衛生	医事・結核
26	14R観光	島根の魅力を再発見するオンラインツアーについて	観光振興	観光文化	観光
27	14R教育Ⅰ	一人ひとりの理想にあった教育とは	教育委員会		
28	14R教育Ⅱ	大学の教職課程において「オンライン授業を実施するための講義」をICT教育の一環として必修化について	教育委員会		
29	14R経済	飲食店の売り上げを取り戻すには	産業経済	商工企画	企画振興
30	14R国際Ⅰ	海外旅行に行った気分を味わえるためには	観光振興	国際観光	国際交流
31	14R国際Ⅱ	外国人とコミュニケーションを楽しむためには	観光振興	国際観光	国際交流
32	14Rスポーツ	オリンピック・パラリンピック実現に向けたオンライン観戦について	政策	スポーツ	振興
33	15R医療	中高生の体験実習について	健康	保健衛生	医事・結核
34	15R観光	島根の魅力を再発見する旅行企画の提案	東武トップツアーズ		
35	15R教育	高校でのインターンシップ導入について	教育委員会		
36	15R経済	飲食店の経営難を救うためには	産業経済	商工企画	企画振興
37	15R国際Ⅰ	オンラインによる国際会議をするには	観光振興	国際観光	国際交流
38	15R国際Ⅱ	インターネットによる国際交流について	観光振興	国際観光	国際交流
39	15Rスポーツ	スポーツジムを救うには	政策	スポーツ	振興
40	15R福祉	在宅ワーク時代の子育て支援について	子育て	子育て支援センター	家庭支援

２年生「総合的な探究の時間」成果発表

協働企業・団体、ポスターセッションタイトル一覧

R	班番号	タイトル	協働企業・団体	当初提供された課題
21	1班	川津地区の魅力化CM	川津公民館	自治会に加入しない住民が増え、住民同士のつながりが希薄
	2班	高齢者に寄り添うビジネス	モルツウェル株式会社	ビジネスとしての高齢者向けサービスを成り立たせるには
	3班	島根とテレワーク	有限会社Ｗｉｌｌさんいん	テレワークの普及
	4班	＃島根の魅力	システムアトリエ ブルーオメガ	島根の魅力配信について
	5班	高齢者に寄り添うビジネス	モルツウェル株式会社	ビジネスとしての高齢者向けサービスを成り立たせるには
	6班	竹で松江を笑顔に!	株式会社アテナ	人材の確保
	7班	障害者を雇用するには	株式会社ありがとう創造者	障がい者の雇用と生産性の向上
	8班	発信しよう！丸加石材の魅力	(株)丸加石材工業	若手人材の雇用・育成
	9班	島根県中小企業家同友会～大人のための学校～	島根県中小企業家同友会	会員を増やすには
22	10班	おつまみ1点で笑顔満天！	山善商会(有)おつまみ研究所	人材育成
	11班	人を幸せにするおつまみ	山善商会(有)おつまみ研究所	人材育成
	12班	たくさんの若者に企業を知ってもらうためには？	株式会社曽田鐵工	専門知識を持った人材、技術者育成に時間がかかる
	13班	MicへGO!!□	株式会社ミック	人が「夢中になって」「面白く」感じるときはどんなときか
	14班	外国車の需要と商品サービス	株式会社プラチナ	自社の商品サービスを多くの方に知ってもらうには
	15班	地域の人と人の関わり	川津公民館	地域の結びつきが希薄になり、住民の社会的孤立を防ぐには
	16班	お客さんの笑顔のために	(株)ホンダクリオ島根	営業職の確保難、人材育成
	17班	インスタグラマーみずうみ	社会福祉法人みずうみ	介護人材の確保
	18班	人手不足	株式会社やつかの郷	介護の担い手不足
23	19班	楽山公園について知ろう！withスタンプラリー	川津公民館	地域の中で子ども達を育むために何が出来るか
	20班	誰もが気軽に来れる建物づくり	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい	建物の活用方策
	21班	あのてまりが...!? ～True Love～	(有)ケイ・ファクトリー	社員の固定化
	22班	Contribution to the community	特定非営利活動法人プロジェクトゆうあい	建物の活用方策
	23班	地元で働く若い人材を増やそう！	Infinimum ーインフィニマムー	人手不足
	24班	知ってる？テクノプロジェクト	株式会社テクノプロジェクト	全国の大学から応募者を増やすには
	25班	シロアリ業者のイメージアップ	(株)コダマサイエンス	業種としてのイメージアップ
	26班	本だけじゃない!!印刷屋さんの〇〇	(株)谷口印刷・ハーベスト印刷	紙による印刷物が減っている中、どのように事業展開するのか
	27班	ハーベスト出版の販路拡大に向けて	(株)谷口印刷・ハーベスト印刷	地方の出版物をどのように全国へ伝え広めるのか
	28班	働くことについて考える	(株)CocoroRibbon	理想の働き方について
24&25	29班	島根電工向上化	島根電工株式会社	県外へ進学した大学生の応募を増やす
	30班	SNSを通じて良さをアピールするために	島根電工株式会社	県外へ進学した大学生の応募を増やす
	31班	想いをカタチに　～いち番の会社を～	(株)いちい	社員の自主性を伸ばしたい
	32班	社員の自主性を伸ばすために・・・。	(株)いちい	社員の自主性を伸ばしたい
	33班	Welcome youth!!	(有)海士物産	新規の取引先や新商品が不足
	34班	地域に根付くとは	松江山本金属株式会社	地域に根付く会社となるには
	35班	課題解決 ～KUTOをより良く～	株式会社KUTO	縫製をする人口が少ないこと
	36班	力がナくてもツくれる	カナツ技建工業株式会社	建設業のイメージアップ
	37班	高校生の認知度upへ	日新ホールディングス株式会社	工場の生産部門での人手不足
	38班	建築業を盛り上げよう！	(株)金見工務店	技術伝承とワークライフバランスの向上
	39班	島根の企業に寄り添う	(有)ピー・エム・エー	採用、需要の停滞、法人数の減少
	40班	川津の財産を掘り起こそう！	川津公民館	川津地区の魅力化

Details　生徒の学習活動、資質・能力の認識に関する項目

● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

		5つの力を構成する要素番号	全校			1年生（2020入学生）			2年生（2019入学生）			3年生（2018入学生）			
			全体	昨年度との差	県平均との差	学年	昨年入学生との差	一昨年入学生との差	学年	1年次との差	回答上昇者	学年	2年次との差	1年～3年	回答上昇者
			割合(%)	差(pt)	差(pt)	割合(%)	差(pt)		割合（%）	差(pt)	割合(%)	割合（%）	差(pt)	推移	割合(%)
多文化協働力（核となる要素①②⑥）	3 グループで協力しながら学習や調べものを行う	①	86.6%	-3.75	6.48	88.9%	-5.37	-	92.8%	-1.50	17.5%	79.5%	-13.44		18.3%
	9 生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	①	72.1%	0.94	6.44	70.9%	-10.96	-	81.2%	-0.60	30.0%	65.8%	-3.44		27.4%
	49 自分にはよいところがあると思う	①	71.5%	-2.26	-0.12	68.8%	-3.31	-	74.6%	2.43	14.4%	71.2%	2.99		25.9%
	42 共同作業だと、自分の力が発揮できる	①	68.1%	-4.40	-0.24	68.8%	-8.43	-	72.9%	-4.34	16.3%	63.5%	0.44		26.4%
	46 自分を客観的に理解することができる	①	72.6%	-2.64	-0.09	65.8%	-7.47	-	77.3%	4.05	22.5%	74.9%	6.17		27.4%
	50 私は、自分自身に満足している	①	44.7%	-12.48	-3.34	41.2%	-16.18	-	43.1%	-14.29	15.6%	49.3%	-3.77		24.4%
	4 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	②	88.6%	-1.01	2.64	87.9%	-3.54	-	90.1%	-1.42	21.3%	88.1%	-2.39		19.8%
	5 活動、学習内容について大人（教員や地域の大人）と話し合う	②	54.8%	0.82	3.06	45.7%	-11.09	-	66.3%	9.48	31.9%	53.4%	2.71		34.0%
	41 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	②	91.8%	0.75	0.03	89.9%	-0.96	-	92.8%	1.91	21.9%	92.7%	6.91		27.9%
	40 相手の意見を丁寧に聞くことができる	②	89.0%	2.73	0.54	91.0%	4.02	-	89.0%	2.02	17.5%	87.2%	6.65		27.9%
	70 友人などから、意見やアドバイスを求められた	②	71.6%	-2.27	1.55	70.9%	-12.67	-	69.1%	-14.46	15.6%	74.4%	2.87		26.4%
主体的学習者としての力（核となる要素③④）	1 自主的に調べものや取材を行う	③	65.9%	-6.72	4.14	56.8%	-11.40	-	69.6%	1.43	30.6%	71.2%	-5.07		22.3%
	2 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	③	38.6%	-0.60	4.59	28.6%	-8.29	-	45.3%	8.37	35.0%	42.0%	2.67		28.9%
	36 家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	③	77.8%	1.34	5.63	71.4%	-5.92	-	78.5%	1.18	19.4%	83.1%	14.86		33.5%
	38 目標を設定し、確実に行動することができる	③	57.3%	-6.83	-3.87	49.7%	-14.46	-	62.4%	-1.77	17.5%	59.8%	5.31		31.0%
	51 自分で計画を立てて活動することができる	③	59.4%	-6.55	-3.70	50.8%	-15.72	-	62.4%	-4.05	15.0%	64.8%	3.23		23.4%
	64 学習を通じて、自分がしたいことが増えている	③	74.0%	-1.30	-3.28	73.4%	-5.04	-	76.8%	-1.61	16.9%	72.1%	3.90		30.5%
	69 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	③	73.8%	1.38	4.65	72.9%	-5.54	-	74.6%	-3.82	18.1%	74.0%	4.30		28.9%
	68 授業で分からないことを、自分から質問したり、分かる人に聞いた	④	79.3%	0.73	2.87	84.4%	0.33	-	76.8%	-7.30	22.5%	76.7%	-0.54		25.9%
	71 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	④	53.4%	-11.36	0.27	41.7%	-24.77	-	56.9%	-9.57	18.8%	61.2%	-1.37		32.5%
探究的学習力（核となる要素④⑤）	11 地域の課題の解決方法について考える	④	56.9%	-0.46	5.78	33.7%	-15.20	-	79.6%	30.69	57.5%	59.4%	-1.78		30.5%
	12 日本や世界の課題の解決方法について考える	④	40.4%	-8.86	-2.18	36.2%	-13.82	-	34.3%	-15.75	17.5%	49.3%	3.82		30.5%
	35 うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	④	76.8%	-6.02	-1.65	74.4%	-8.58	-	80.1%	-2.84	12.5%	76.3%	-1.00		22.3%
	43 情報を、勉強したことと関連づけて理解できる	④	76.1%	-1.02	0.50	73.4%	-0.50	-	79.0%	5.14	21.9%	76.3%	4.69		25.4%
	44 勉強したものを実際に応用してみる	④	62.4%	-5.95	1.21	56.8%	-4.58	-	66.3%	4.93	23.8%	64.4%	-2.92		23.4%
	45 忍耐強く物事に取り組むことができる	④	67.3%	-6.60	-3.90	64.3%	-12.38	-	69.6%	-7.09	16.9%	68.0%	5.48		27.4%
	7 話し合った内容をまとめる	⑤	76.3%	-0.55	2.61	78.4%	-4.56	-	86.2%	3.23	28.1%	66.2%	-13.41		19.8%
	37 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	⑤	71.5%	-0.88	1.98	67.8%	-4.32	-	75.1%	2.98	20.0%	71.7%	4.86		27.4%
	39 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	⑤	39.7%	-11.30	-2.44	33.7%	-18.60	-	43.6%	-8.63	15.0%	42.0%	1.72		25.4%
	72 授業で「なぜそうなるのか」と疑問を持って、考えたり調べたりした	⑤	69.3%	-5.35	6.32	63.8%	-9.48	-	68.5%	-4.79	21.3%	74.9%	0.48		25.9%
	73 公式やきまりを習う時、その根拠を自分で考えたり調べたりした	⑤	61.6%	-6.13	2.38	62.8%	-7.07	-	60.2%	-9.67	21.3%	61.6%	-3.76		28.4%
	78 客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	⑤	37.4%	-	-0.74	28.6%	-	-	42.0%	-	-	41.6%	-		-
地域共創力（価値創造力）（核となる要素⑥⑦）	6 自分の考えを文章や図表にまとめる	⑥	62.9%	-8.49	2.95	67.3%	-6.53	-	58.0%	-15.85	18.8%	63.0%	-9.02		25.9%
	8 活動、学習のまとめを発表する	⑥	66.1%	-7.29	2.48	59.8%	-18.04	-	76.8%	-1.05	26.3%	63.0%	-17.56		18.8%
	47 自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	⑥	67.3%	-4.71	1.67	68.3%	-4.39	-	68.0%	-4.77	18.8%	65.8%	1.77		27.4%
	48 友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	⑥	52.4%	-6.00	-0.05	54.3%	-3.68	-	55.2%	-2.71	13.8%	48.4%	-3.26		24.9%
	10 地域の魅力や資源について考える	⑦	51.4%	-6.96	0.68	34.7%	-21.58	-	68.0%	11.71	41.9%	53.0%	-11.96		23.9%
	52 18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	⑦	76.3%	-2.57	-3.53	77.4%	-1.59	-	75.7%	-3.29	14.4%	75.8%	-1.45		18.8%
	53 地域をよりよくするため、地域の問題に関わりたい	⑦	56.8%	-5.95	-3.82	52.8%	-15.42	-	58.0%	-10.17	15.0%	59.4%	7.23		27.9%
	55 将来、自分の住んでいる地域に役に立ちたい	⑦	66.9%	-2.81	-2.40	64.3%	-6.70	-	71.3%	0.25	20.0%	65.8%	5.56		29.4%
	57 地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい	⑦	52.8%	-6.35	-3.48	45.2%	-20.11	-	57.5%	-7.88	18.8%	55.7%	9.26		28.9%
	58 地域を対象とした課題探究学習に熱心に取り組んでいる	⑦	57.4%	-4.43	3.00	41.7%	-24.20	-	66.9%	0.94	26.9%	63.9%	6.58		29.4%
	59 地域や社会での問題やできごとに関心がある	⑦	69.9%	-1.01	-1.11	64.8%	-7.33	-	71.8%	-0.34	24.4%	73.1%	9.55		29.9%
	66 いま住んでいる地域の行事に参加した	⑦	24.7%	-18.89	-5.94	20.1%	-23.08	-	23.2%	-19.98	19.4%	30.1%	-6.83		23.4%
	67 地域社会などでボランティア活動に参加した	⑦	22.0%	-16.88	-5.48	17.6%	-18.21	-	20.4%	-15.35	20.0%	27.4%	-3.41		25.4%
	76 国際社会の課題解決に貢献したい	⑦	47.4%	-	-0.42	41.7%	-	-	49.2%	-	-	51.1%	-		-
社会的自立力（ｷｬﾘｱ形成力）（柱となる要素①⑧）	54 私が関わることで、社会状況が変えられるかもしれない	⑧	38.2%	-14.00	-6.84	28.6%	-21.92	-	36.5%	-14.10	15.0%	48.4%	1.96		25.9%
	62 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	⑧	39.4%	-8.54	-1.25	34.2%	-14.12	-	39.2%	-9.07	16.9%	44.3%	4.96		32.0%
	60 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	⑧	52.3%	-4.45	-0.46	46.7%	-7.81	-	50.8%	-3.72	26.3%	58.4%	12.00		33.0%
	61 将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	⑧	68.1%	-1.13	0.65	66.3%	-1.28	-	70.7%	3.10	20.6%	67.6%	-3.04		22.8%
	65 自分の将来について明るい希望を持っている	⑧	69.6%	-1.17	-1.65	65.8%	-8.60	-	72.9%	-1.50	15.6%	70.3%	8.71		35.0%
	77 まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	⑧	44.6%	-	-1.39	34.2%	-	-	48.6%	-	-	50.7%	-		-

Details　学習環境に関する項目

● 10pt以上の増加　● 0～10ptの増加　● 減少

	5つの力を構成する要素番号	生徒の認識（A） 全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	県平均との差 差(pt)	全体 回答上昇者	学年別 1年生	2年生	3年生	大人の認識（大人全体の評価）（B） 全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	うち教職員 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	生徒と大人の認識の差（A-B） 生徒と大人（全体） 差(pt)	生徒と教職員 差(pt)
主体性に関わる学習環境		**70.9%**	**-5.68**	**-3.15**	**22.2%**	**71.8%**	**74.0%**	**67.4%**	**66.8%**	**3.84**	**67.1%**	**5.63**	**8.6pt**	**8.3pt**
20 失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	その他	72.5%	-7.79	-4.69	17.4%	74.4%	74.0%	69.4%	55.4%	-0.53	55.6%	-3.70	17.1pt	16.9pt
21 挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	その他	85.3%	-1.98	-3.99	20.7%	88.9%	88.4%	79.5%	75.0%	-1.47	75.6%	-2.22	10.3pt	9.8pt
33 目標や当事者意識を持って挑戦している人がいる	その他	80.3%	0.23	1.70	27.2%	80.9%	79.6%	80.4%	62.5%	0.74	64.4%	5.19	17.8pt	15.9pt
34 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	その他	48.1%	-13.95	-6.49	25.5%	46.7%	51.9%	46.1%	-	-	-	-	-	-
30 人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	その他	55.1%	-8.31	-2.18	22.4%	54.3%	64.1%	48.4%	67.9%	17.86	66.7%	22.22	-12.8pt	-11.6pt
26 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	その他	84.0%	-2.28	-3.21	20.2%	85.4%	86.2%	80.8%	73.2%	2.63	73.3%	6.67	10.8pt	10.6pt
協働性に関わる学習環境		**76.3%**	**-2.74**	**-0.46**	**23.8%**	**78.8%**	**78.0%**	**72.6%**	**62.9%**	**0.45**	**63.9%**	**2.78**	**13.3pt**	**12.4pt**
22 人と違うことが尊重される雰囲気がある	その他	73.8%	-5.25	-3.36	23.8%	78.4%	74.0%	69.4%	64.3%	-6.30	64.4%	-5.93	9.5pt	9.3pt
23 ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	その他	79.6%	-1.30	-1.21	24.4%	83.9%	81.2%	74.4%	64.3%	-6.30	64.4%	-5.93	15.3pt	15.2pt
27 自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	その他	81.1%	-1.51	1.03	23.5%	81.9%	82.3%	79.5%	64.3%	8.40	64.4%	12.59	16.8pt	16.7pt
28 立場や役割を超えて協働する機会がある	その他	70.6%	-2.92	1.69	23.5%	70.9%	74.6%	67.1%	58.9%	5.99	62.2%	10.37	11.7pt	8.4pt
探究性に関わる学習環境		**76.8%**	**-3.19**	**-2.14**	**23.0%**	**76.5%**	**81.1%**	**73.4%**	**53.6%**	**7.98**	**53.9%**	**5.74**	**23.2pt**	**22.9pt**
17 本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	その他	82.5%	-2.58	0.56	19.3%	81.4%	85.1%	81.3%	50.0%	11.76	48.9%	8.15	32.5pt	33.6pt
18 将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	その他	71.6%	-6.39	-6.05	23.2%	68.8%	78.5%	68.5%	51.8%	7.67	55.6%	14.81	19.8pt	16.1pt
24 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	その他	80.8%	-3.22	-4.03	22.1%	82.9%	83.4%	76.7%	60.7%	1.89	62.2%	-4.44	20.1pt	18.6pt
31 お互いに問いかけあう機会がある	その他	72.1%	-0.56	0.96	27.5%	72.9%	77.3%	67.1%	51.8%	10.61	48.9%	4.44	20.3pt	23.2pt
社会性に関わる学習環境		**63.1%**	**-6.27**	**-4.28**	**26.7%**	**56.9%**	**74.6%**	**59.1%**	**58.9%**	**12.61**	**57.2%**	**10.93**	**4.1pt**	**5.8pt**
19 地域から大切にされている雰囲気を感じる	その他	72.3%	-4.35	-8.60	19.0%	70.9%	81.2%	66.2%	58.9%	5.99	60.0%	11.85	13.4pt	12.3pt
25 興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	その他	63.9%	-7.71	-8.81	28.0%	59.8%	72.4%	60.7%	57.1%	10.08	51.1%	-8.15	6.8pt	12.8pt
29 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	その他	62.8%	-4.07	0.70	31.4%	52.3%	82.9%	55.7%	58.9%	14.81	55.6%	14.81	3.8pt	7.2pt
32 自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	その他	53.3%	-8.94	-0.41	28.3%	44.7%	61.9%	53.9%	60.7%	19.54	62.2%	25.19	-7.5pt	-9.0pt

総合的な生徒の満足度	5つの力を構成する要素番号	全校 全体 割合(%)	昨年度との差 差(pt)	県平均との差 差(pt)	1年生（2020入学生） 学年 割合(%)	19入学生との差 差(pt)	18入学生との差 差(pt)	2年生（2019入学生） 学年 割合（%）	1年次との差 差(pt)	回答上昇者 割合(%)	3年生（2018入学生） 学年 割合（%）	2年次との差 差(pt)	1年～3年 推移	回答上昇者 割合(%)
75 今の生活全般に対する満足度	その他	61.3%	-3.51	-0.13	64.3%	-3.29	-	60.2%	-7.39	-	59.4%	1.07		-
63 この学校に入ってよかったと思う	その他	82.5%	0.34	-2.56	83.9%	-0.17	-	85.1%	0.99	-	79.0%	1.27		-

島根県立松江東高等学校

〒690-0823島根県松江市西川津町510番地

TEL.0852-27-3700 FAX.0852-27-3703

URL https://www.matsuehigashi.ed.jp/ 松江東高校 検索